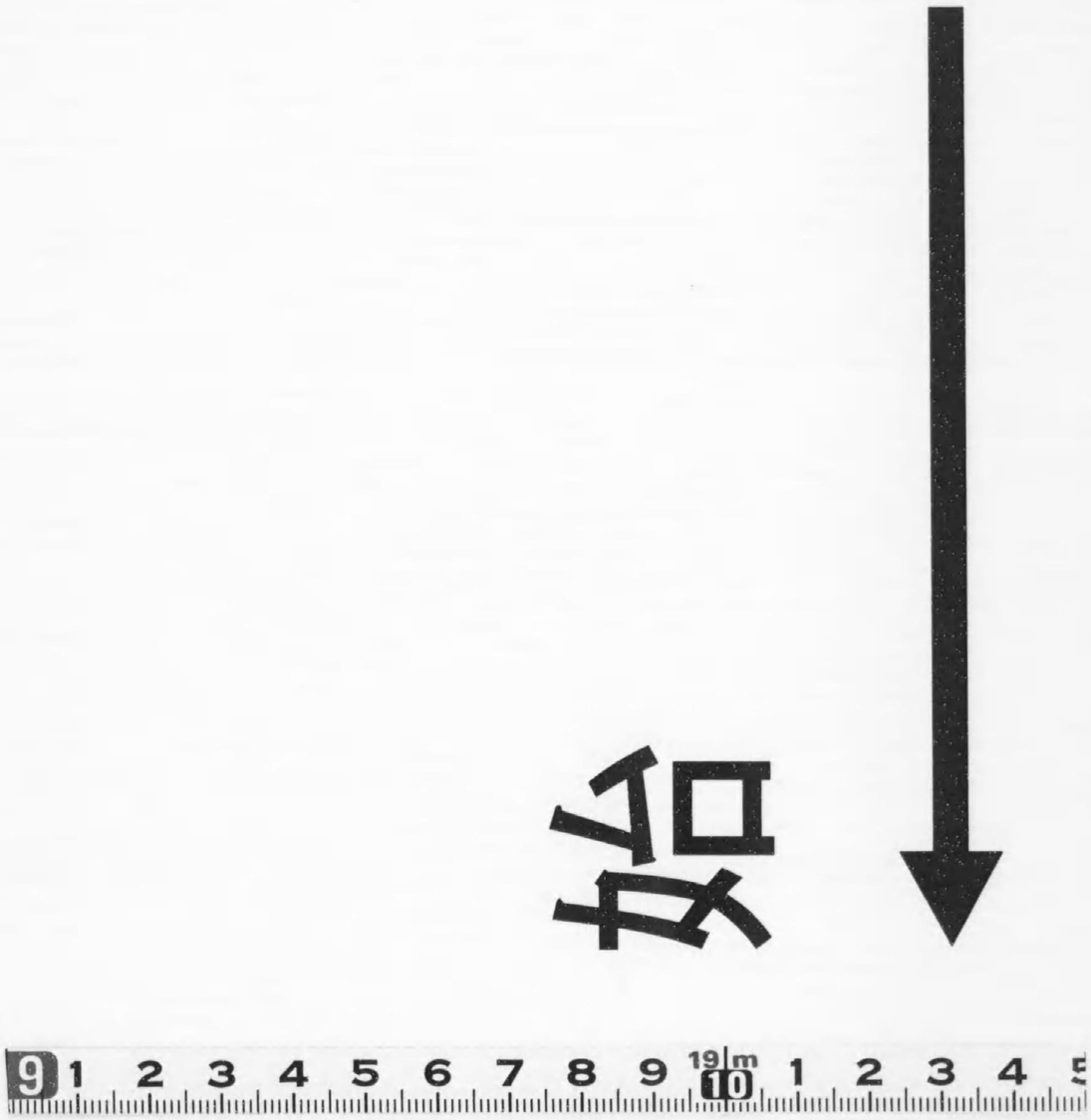

518
191

北海道の港灣

大正十四年九月

鐵道省運輸局

正誤表

頁	行	誤	正
一	一一	輸送	輸送
一	一二	巨離	距離
二	三	對向上	對抗上
三	一一	蕃	藩
三	一七	一搬	一般
六	一四	綱走	綱走
八	三	綱走	綱走
八	五	使用せれ	使用せられ
九	八	大年八年	大正八年
一〇	一〇	大多敎	大多數
一一	上段	勃興	勃興
一二	一	ものにて	ものにして
一三	六	綱走	綱走
一四	九	遂年	逐年
一六	一四	二十七萬餘頓	二十七萬餘噸
一六	一六	飼科	飼料
一八	四	綱走	綱走
一八	八	綱走	綱走
二一	五	一屑、幅輳	一層、幅輳
二一	一三	其緒に	其堵に
二四	一	陶磁品	陶磁器
二八	一六	雜貨を	雜貨の
三一	上段	船船	船舶
三一	二	船船	船舶
三三	三	輸送	輸送
三三	一七	遂年遞加	逐年遞加
三四	二	十五屯	十五噸
三四	三	屯數、十屯、三十屯	噸數、十噸、三十噸
三五	一〇	海狹	海峽
三七	五	三千頓	三千噸
四二	一〇	之を	之に
四三	九	三目間	三日間
四六	五	吸入	吋入
四九	五	六分を	六分に
五〇	二	遂年	逐年
五〇	四	增減	增減
五〇	一五	引繼き	引續き
五四	一五	七支廳	七支廳
五六	一四	船船	船舶
五七	六	浮船	艀船
五八	六	提頭	堤頭
六〇	二	祝津呷	祝津岬
六〇	一五	索き	率き
六二	一七	渺からさを	渺からさる
六九	一三	該炭	骸炭
七六	一	混凝士	混凝土
七七	三	上尾幌驛、發	上尾幌驛發、
七七	一一	又す	及す
七九	三	出趨	出超
八五	八	白糖	白糖
八七	一三	倉庫の	倉庫を
八七	一四	嚐加	增加
八七	一五	社會	社會

518-184

例言

一、本編は執務上の參考資料として北海道の主要港灣に於ける運輸系統を調査し併せて港灣修築計畫の概要を敍說したるものなるか一般に之を頒布する爲以印刷代謄寫たるものなり

二、本編に掲載したる統計は專ら鐵道省年報及本港灣統計に準據したり

大正拾四年九月

鐵道省運輸局

内務省図書館
内務省
内務省
内務省

目次

一　北海道の港灣……一
本道の面積＝陸上運輸機關＝海上運送＝港灣施設

二　産業發達の狀勢……二
發達史の大要＝生産價格＝農産業＝牧畜業＝漁業＝製造工業＝鑛産業＝林業＝生産額

三　主要貨物の陸上移動趨勢……一四
輸送概況＝品目別發送噸數及延噸哩＝移動趨勢

四　函　館　港……二一
位置及本港發達の由來＝運輸の現狀＝海運貨物＝鐵道貨物＝海陸連絡の狀勢＝運輸量の推定及荷役能力の對比＝本港の任務＝海陸連絡設備の改善＝本港の眞價

五　小樽港……四一
位置及廣袤＝本港修築＝計畫の大要＝繫船岸壁＝上屋及倉庫地＝貯木場＝荷役能力＝運輸の現狀＝海運貨物＝鐵道貨物＝海陸連絡の狀勢＝運輸量の推定及荷役能力の對比＝本港の任務＝海陸連絡施設の改善＝築港の本港に及せる影響

六　室蘭港……五九
位置及廣袤＝本港發達の由來＝修築計畫の大要＝運輸の現狀＝海運貨物＝鐵道貨物＝海陸連絡の狀勢＝輸西長萬部間鐵道全通の本港に及す影響＝運輸量の推定及荷役能力對比＝本港の任務＝海陸連絡設備の改善＝本港の價値

七　釧路港……七五
地勢及修築計畫の由來＝修築計畫の概要＝運輸の現狀＝海運貨物＝鐵道貨物＝海陸連絡の狀勢＝運輸量の推定及荷役能力の對比＝本港の任務＝海陸連絡設備の改善＝本港の價値

八　結論……八六
港灣修築＝各港間の競爭＝港灣の特殊設備＝北海道の石炭

附圖第一表　鐵道主要貨物道內移動狀況
同　第二表　函館港平面圖
同　第三表　同上海陸兩運貨物數量及推定數量
同　第四表　小樽港平面圖
同　第五表　同上海陸兩運貨物數量及推定數量
同　第六表　室蘭港平面圖
同　第七表　同上海陸兩運貨物數量及推定數量
同　第八表　釧路港平面圖
同　第九表　同上海陸兩運貨物數量及推定數量
附表第一號　北海道各種產業生產價格調書（大正元年以降）
同　第二號　鐵道主要貨物發送噸數及噸哩（大正八年以降）
同　第三號　鐵道主要貨物市支廳別發着數量（大正十一年）
同　第四號　函館港海運貨物貿易經路（大正十一、十二年）
同　第五號　函館驛方面及扱別着發數量（大正元年以降）
同　第六號其一　函館港海陸兩運貨物出入對照（大正十一、十二年）

同　其二

同　第七號　五稜郭以遠對本州方面着發貨物數量（大正元年以降）

同　第八號　函館驛着發及函館港內外貿易貨物數量（大正元年以降）

同　第九號　小樽港海運貨物貿易經路（大正十一、十二年）

同　第十號　小樽外三驛着發主要貨物數量（大正十一、十二年）

同　第十一號　小樽港海陸兩運貨物出入對照（大正十一、十二年）

同　第十二號　小樽外三驛鐵道貨物及小樽港內外貿易貨物數量（大正元年以降）

同　第十三號　小樽及室蘭港石炭積出並に手宮室蘭驛石炭到着噸數（大正元年以降）

同　第十四號　室蘭港海運貨物貿易經路（大正十一、十二年）

同　第十五號　室蘭外二驛着發主要貨物數量（大正十一、十二年）

同　第十六號　室蘭港海陸兩運貨物出入對照（大正十一、十二年）

同　第十七號　室蘭外二驛鐵道貨物及室蘭港內外貿易貨物數量（大正元年以降）

同　第十八號　釧路港海運貨物貿易經路（大正十一、十二年）

同　第十九號　釧路外二驛着發主要貨物數量（大正十一、十二年）

同　第二十號　釧路港海陸兩運貨物出入對照（大正十一、十二年）

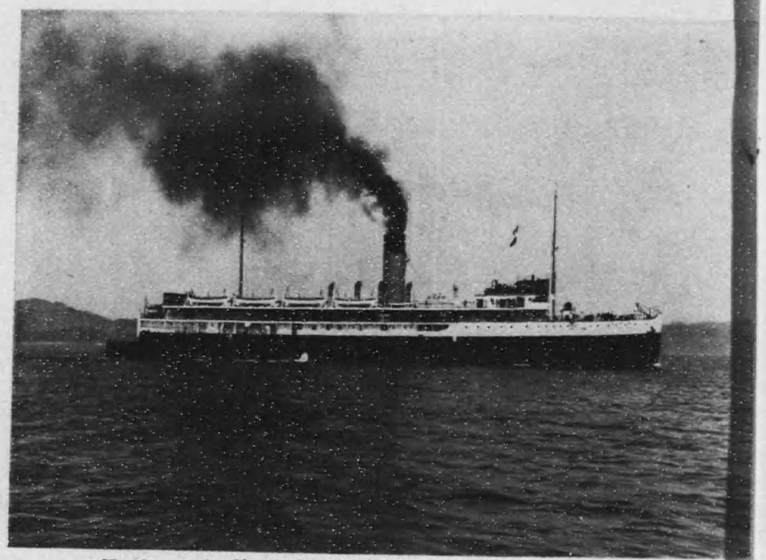
同　第二十號　釧路外二驛鐵道貨物及釧路港內外貿易貨物數量（大正元年以降）

余市近海ニ於ケル鰊ノ豐漁

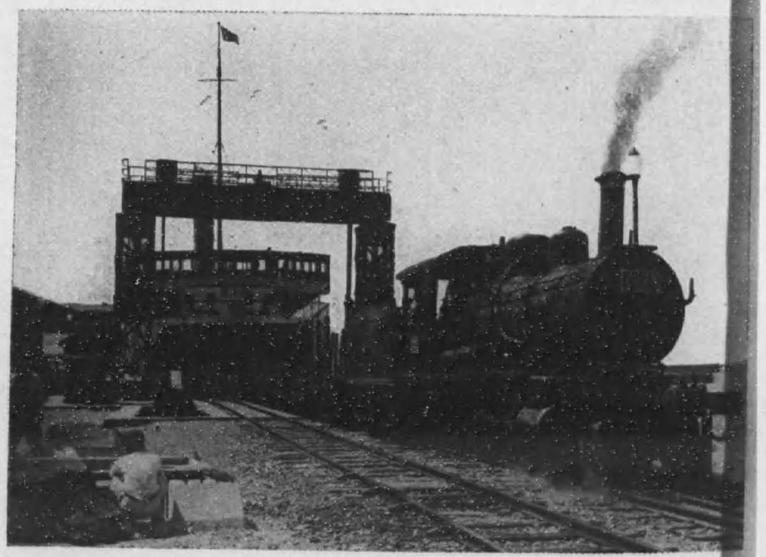
道廳森林鐵道終點附近處女林

（地名上アトムア陸別驛ヲ去ル十一哩）

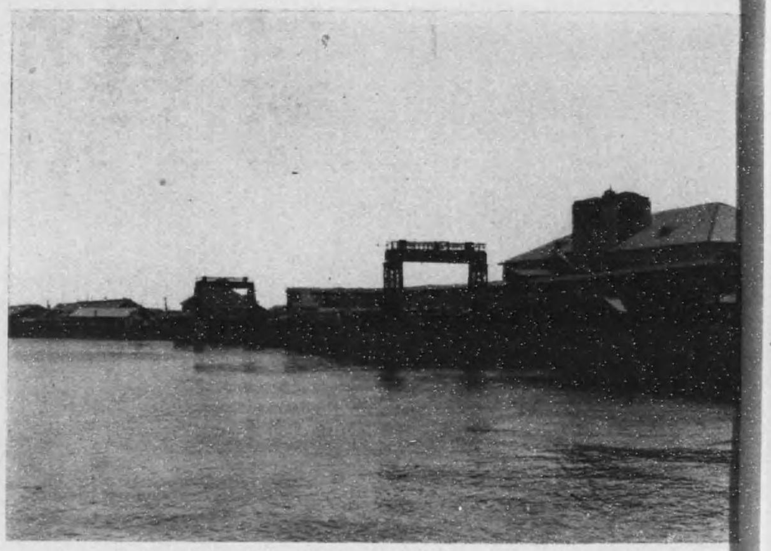
公會堂ヨリ見タル函館港内全景



函館青森間客載貨車渡船松前丸ノ全景



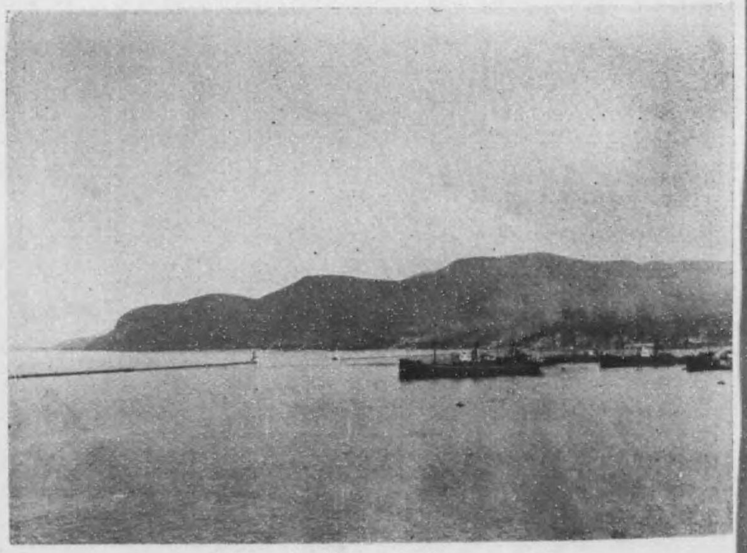
連絡船貨車積卸作業



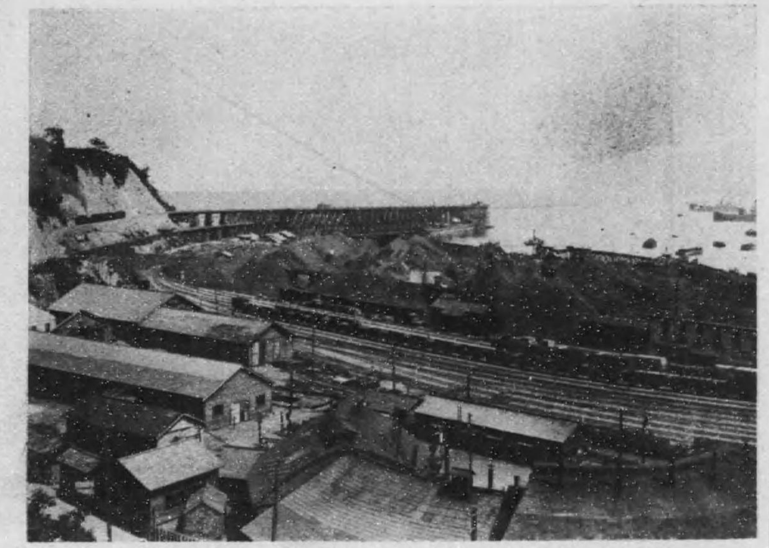
鐵道船車連絡埠頭

函館港（郵船倉庫艀荷役）

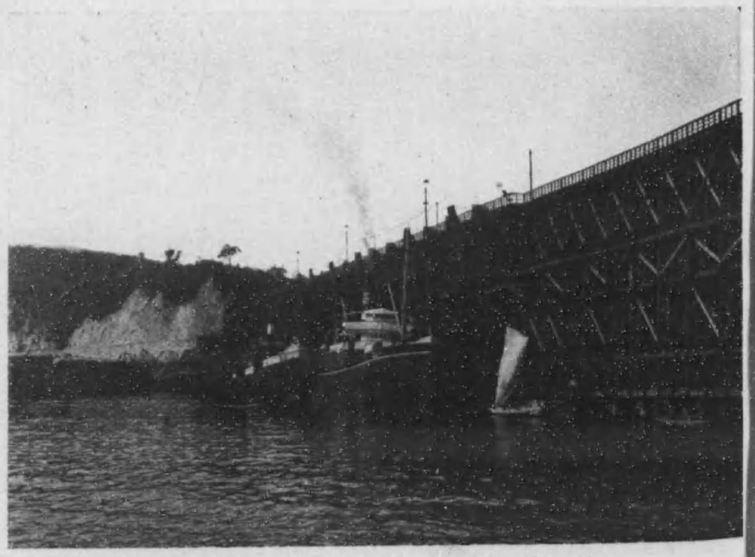
小樽公園ヨリ港灣ヲ望ム



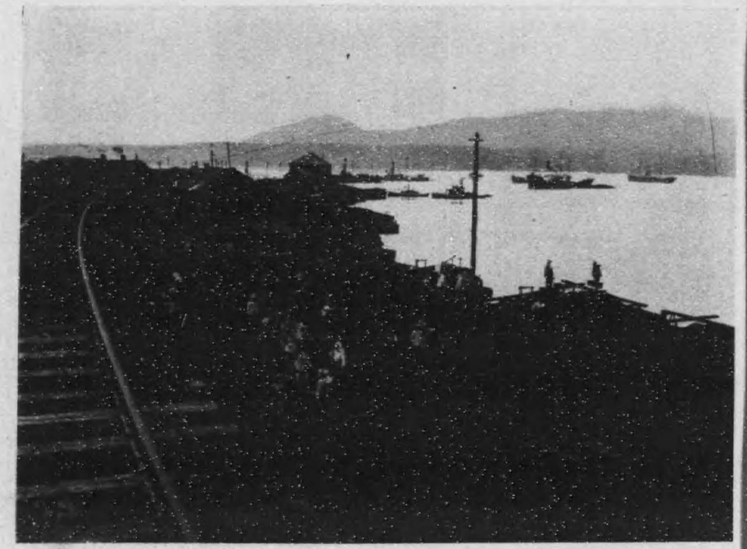
小樽港内



手宮石炭船積高架棧橋ノ遠望

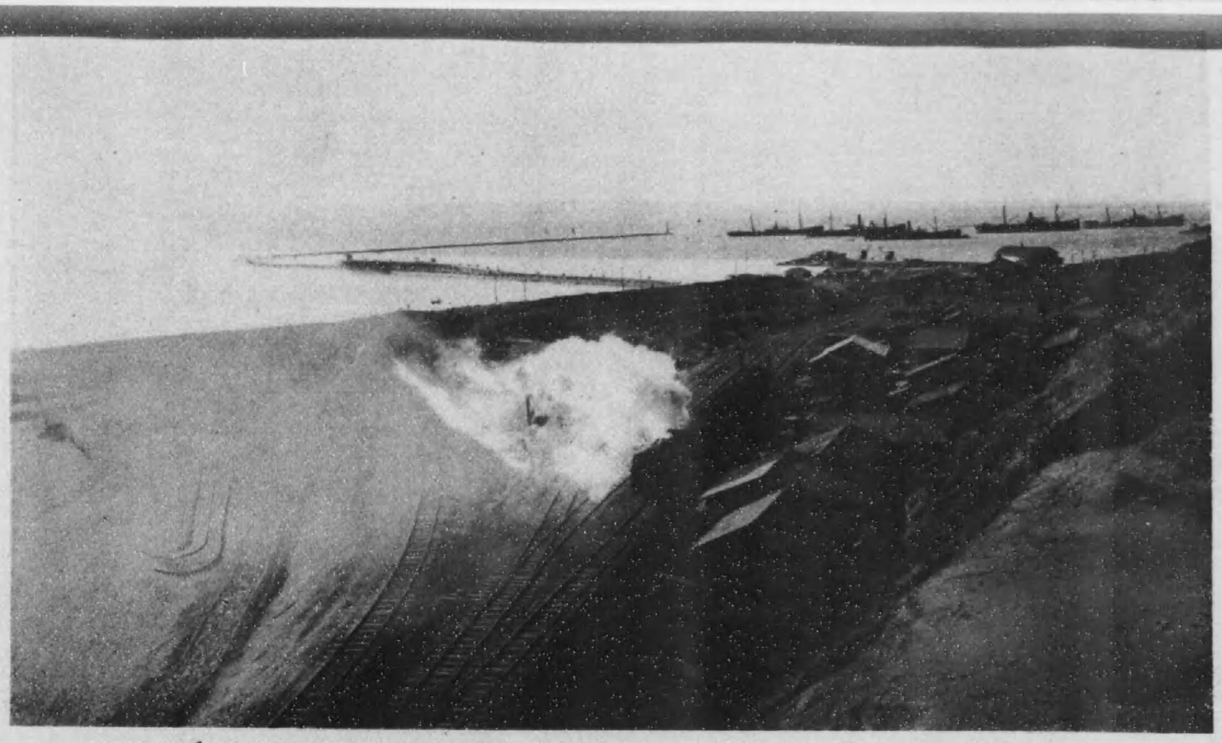


手宮石炭船積高架棧橋



室蘭驛構内石炭艀積荷役狀況

室蘭驛西部構内



釧路港（南防波堤石炭積込桟橋ノ前面。白色ノ部分ハ結氷シタルモノナリ）

北海道の港灣

一　緒論

面積

北海道は本島及三十有餘の島嶼より成り、其面積本島五千九十二方里、諸島千六十三方里、合計六千百五十五方里に達し、四國、九州及臺灣の總面積に匹敵し、本島には沃土遠く連り三百萬町歩の農牧適地を有するのみならず、千古不鉞の天然森林は鬱として聳え、地下には殆んど無盡藏とも稱すべき石炭を埋藏し、加ふるに千三百五十五里に亘る海岸線には魚介、海藻頗る豐富にして世界三大漁場の一と讃へらるゝに依り、産業は日に月に進み、拓殖經營五十有餘年にして今や生産價額五億を突破するの盛況を呈せり。

陸上運輸機關

陸上運輸機關亦著しき發達を遂け營業哩は國有鐵道線千三百五十三哩九分、地方鐵道線百七十二哩六分、軌道五十四哩四分を算し、國有鐵道主要幹線は稚内、大泊間航路に依りて樺太と通じ、南は函館青森間航路を介して本州の幹線と連絡し、更に客載貨車渡船を運航して貨物の船車積替を省略し、水路の爲に遮斷されたる不便不利を刈除し得たりと雖も、由來鐵道輸送は迅速を貴ひ、輕快を旨とするものなれば、運賃の低廉にして、巨離に鈍感なると、且は輸送能力の强大なる點に於ては、到底海運に及はさること明瞭なり。

海上運送

されは四面環海にして海上運送を本旨とすべき道内集散貨物は、總て港灣地帶に集中され、其後背地域の生産增額するに從つて、商港の殷盛を來し、商港の繁榮するに伴ひ港灣を自然の儘に放任し得さる爲、人工に

北海道の港灣

依りて防波、浚渫、其他海陸連絡に要する諸般の設備を整へ、以て港の效用を增大せんことを欲求するに至れり。蓋し此等の風潮を劃致したるは近時急速輸送の傾向盛んとなり、船舶は荷役の爲に徒費する時間を節約し、收益期間を增進せんとする結果にして、强ち他港との對向上に基因せるものとのみ斷するを得ず。

港灣施設

故に小樽港は勿論、函館、室蘭、釧路港等港勢に適應せる企劃の下に、漸を追つて船渠を造り、埠頭、棧橋、其他の繫船岸を整備して、海陸連絡を完ふせんとするは、寧ろ、當然なるべきを考ふ。而して本道の港灣を究はめんとするには、既往に於ける產業發達の趨勢を觀取し、更に、將來の推移を卜知する心要あるを以て、以下產業發達の狀勢を概說し、更に進んで、物資の集散狀況及各港灣の特長を指摘して海陸連絡運輸の圓滑を圖らんとす。

二　產業發達の狀勢

發達史の大要

神代時代

北海道は神代に越洲（コシシマ）と稱し、大八洲の內に數へられしが、其後渡島、蝦夷島又は蝦夷地と呼び、土人「アイヌ」族は海岸或は河邊に群居して、專ら漁獵を事としたり。而して鎌倉時代藤原泰衡が、源頼朝兄弟の不和に座して敗れ、其殘黨が義經と共に本道に逃れたるが、恐らく大和民族の本道に移住したる嚆矢たるべしと唱へられ、次て鎌倉幕府は安東某を津輕領主として、蝦夷管領を兼ねしめたる爲、內地より來住するもの

鎌倉時代

漸次增加し、土人と衝突して亂を起したること一再ならざりき。

されば安東氏の武將武田信廣渡道して各所に奮戰し、之を平げしかば豐臣時代に至りて、安東氏を離れて蝦夷島主となり、姓を松前と稱し、同氏の覇業成りたるも、露國の東漸主義、東方經略は、着々步武を進め「シベリア」を略取して、日本海に出で「カムチャッカ」に廻り、更に南進して千島を浸し、切りに我が北邊を窺ひ、世論沸騰するに至りしかば、寬政十一年、德川幕府は、東蝦夷地を直轄し、文化四年には西蝦夷地も亦併せて直領とし、松前氏を陸奧の梁川に轉封して、從來の鎭島主義を破り、全島を開放して、諸人の通行を自由ならしめ、土人を愛撫して、產業を奬勵し、各地の守備を嚴にし、近藤重藏、高田屋嘉兵衞、最上德內、間宮林藏氏等の活躍ありて、施設經營上大に改められたるが、再び全島を松前藩に復封し、安政年間米、蘭、露、英、佛等の諸國と締結したる、神奈川條約の結果、箱館は開港場となり附近一帶の地を割きて直領とし、箱館奉行を置き次て全島を直轄し、拓殖經營稍見るべきものある時、明治維新の王政復古となり、新政府は開拓使を置き、更に明治二年には蝦夷を北海道と改め、長官を置き、十一國、八十六郡に分ち內十四郡及札幌附近を直轄とし、其他は舊、寺院、士族、等の支配とし、開拓十年計畫を立てしが、同四年諸藩、寺院、士族、等の支配を免し、樞要の地に支廳を置き、札幌本廳に於て政務の統一を圖り、專ら積極政策を實施したり。明治十二年、幌內炭搬出の爲、小樽の手宮より鐵道を敷設することとし、同十三年十一月、手宮、札幌間二十一哩八分竣工して、道內最初の鐵道運輸營業を開始したり、同十五年二月、開拓使を廢し、函館、札幌、根室の三縣を置き、內務省管下の一廳となり、鐵道始め炭礦、工業、等は工部省に、其他の各關係、亦中央省の所管に移り、十五年十一月、札幌、幌內間三十三哩の鐵道開通、其他二三の事蹟を除く外、事業一搬に沈滯し、民力疲弊の徵ありしかば、十九年、三縣を廢して、新に北海道廳を札幌に置き、

德川時代

神奈川條約

明治維新

手宮札幌間鐵道開通

產業發達の狀勢

兵馬の指揮權、及司法權を除く外、鐵道を初め諸般の政務を統一し、移民よりは資本の移入を主とし、興業資金に對し保證補給せる爲、北海道炭礦鐵道、製麻會社等多數大會社の設立を見たるのみならず、從來官業として經營せられたる事業をも拂下を行ひたるに依り、民間企業は遽に勃興し、幌内鐵道の炭礦鐵道會社に拂下げられたるも亦此時代なりき、二十三年七月、官制を改め長官は内務大臣の監督を受くる事となれり。

鐵道拂下

北海道炭礦鐵道株式會社は石炭及鐵道經營に一大飛躍を試み、岩見澤歌志内間、砂川空知太間、岩見澤室蘭間、追分夕張間、等相次で開通し主要炭山と小樽、室蘭、兩石炭積出港との連絡を完成して富源の開發を促進せるのみならず、室蘭、青森間、定期連絡航路を開始して、本州との交通に資せる所亦鮮少ならざりき。二十九年、道廳に臨時鐵道敷設部を置き、且北海道鐵道敷設法公布され、將來建設すべき、線路を豫定して、着々、其工程を進め、三十四年には、北海道會を開き、翌三十五年には、札幌、函館、小樽區より衆議院議員を選擧し、三十七年以來、郡部よりも之を選出することゝなれり。

私設會社の飛躍

室蘭青森間定期航路開始

函館小樽間鐵道開通

又函館、小樽間、鐵道は函樽鐵道會社の手に起工され、三十八年八月全通して、陸路、函館、小樽間、の二大都市を連絡し、更に既設線に接續して本州方面との交通に一新紀元を劃したりしが、三十九年、鐵道國有法發布と共に、北海道炭礦鐵道株式會社線、及、北海道鐵道株式會社（元函樽鐵道）を買收して之を統一し、四十年には、落合、帶廣間、竣工して、函館、釧路間、四百五十四哩全通したり。

其後大正元年に網走線全通して、同方面無盡の資源を開發し、翌二年には下富良野、深川間、線路開通して、三十二哩を短絡したるのみならず、大正十年に於ける根室線の全通、及名寄線、湧別線、の接續は本道西部地方の交通に利便あらしめ、翌十一年の宗谷線全通、亦樺太との連絡上に裨益する等、鐵道の普及發達は本道の拓殖及產業の進展に資し、以て今日の隆昌を招きたるものと推考せらる。

鐵道の普及產業の進展

生產價額

北門の寶庫と讃へられて、所有、富源は海に、陸に、藏せらるゝに拘はらず、人口稀薄にして未開發の地は、今尙蓁莽、荆棘に委し、寶庫空しく鎖して顧みられざるもの尠らざるに依り、之を開拓して美田、沃圃と化し、各種產業を勃興せしむべき、大業は、眞に今後に在るも、既往に於ける各種產業の生產額を示せば第一號表の如く、大正三、四年頃迄は生產總額、一億五千萬圓程度に過ぎざりしが、歐洲大戰の影響を受けて、大正八年には、六億二千萬圓に達するの盛況を呈し、戰亂終熄後財界の不振に伴ひ、生產價額減退したるも、漸次恢復の機運に在れば大正八年の最高記錄を突破することも亦近きにあるべしと推せらる。以下各種產業の概要を記述するに先立ちて、大正八年以降の生產價額の比率を示せば次の如く、農產業を主とした

北門の寶庫

歐州戰亂の影響

製造工業の隆昌

る道内生產は、近年製造工業隆昌となりて、之を凌駕し次て漁業、鑛業、林業、牧畜業の順序となれり。

產業發達の狀勢

種別	大正八年	同九年	同十年	同十一年	同十二年
農產業	三二%	二四%	三五%	二八%	二六%
牧畜業	一	二	二	二	二
漁業	一八	一九	二一	二二	二四
工業	二六	三〇	二九	三四	三二

鑛業	一三	一五	八	八	九
林業	一〇	一〇	五	六	七
計	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇

農産業

大正五年以前に於ける農産價額は、五千乃至七千萬圓を上下したるが、大正六年以降一億圓を突破するに至れり。曾て米穀は本道に於て不適作と見做され、屯田兵時代に之を試作して營倉處分を受けたるものすらありたる程なりしが、其後屯田兵の廢止となり、農家の多年撓まざる努力と、經驗とに依り、種子の改良耕作法の改善は、着々成功して、耕地八十五萬三千餘町歩の内、水田九萬三千餘町歩を算し、將來の農耕適地百四十五萬町歩の内、水田適地三十萬町歩と稱せられ、殊に大正九年以降造田奬勵の爲、灌漑溝、堀鑿費に對し四割以内の補助金を交附しつゝあれば、水田面積增加するに伴ひ、年々增收を見今や自給を策して道内移入を防遏せんとする狀勢にあり。又耕地の開拓は鐵道沿線を去る二十里限度とし、其以上に跨る時は運送費增大して原價に影響し不利益なる爲耕作する者少しといふ。而して大正六年以降に於ける主なる農産品の收穫高を示せば、次の如くにして其産地は上川支廳管位を占め、次て空知支廳管内なるが何れも二千萬圓以上を算し、網走、河西、後志、石狩、渡島、支廳亦五百萬圓以上に達せり。

生産價額

米の試作

造田の奬勵

收穫高及主なる産地

種別／年次	大正六年	同 七年	同 八年	同 九年	同 十年	同 十一年	同 十二年
米	千石 八二二	千石 八八〇	千石 八九〇	千石 一、一九〇	千石 一、三九八	千石 一、三八五	千石 一、四八八
大麥	四一	四六	八二	八八	九四	七一	六八
小麥	一三	一〇一	一一四	一二六	一六三	一二六	九六
裸麥	二四一	二四五	二四二	二四六	二四七	二九二	二七七
燕麥	一、〇四九	一、二五八	一、七〇七	一、八二八	二、四七六	一、六八八	二、〇二二
大豆	五二六	四二九	五四一	九〇六	一、〇〇六	六三七	五八七
小豆	五六二	二九一	三〇八	四七六	六〇〇	四二八	三九三
菜豆	一、〇一七	一、〇七四	六九六	四一六	五三一	四九九	五〇〇
豌豆	六一三	三九七	四四六	一五八	一五〇	二四一	三一三
玉蜀黍	三一九	二九六	三六七	三四〇	四一七	二五七	二七一
亞麻（實）	七三	一一六	八二	一一七	一〇三	一一、四六八 千斤	一一、〇〇〇 千斤
亞麻（莖）	一三、五六六 千貫	一七、一九〇 千貫	一三、三五五 千貫	一七、三〇三 千貫	一三、六八七 千貫	五五、六二四 千英斤	六四、四二一 千英斤
馬鈴薯	二三九、一〇五	二一一、八九	三四四、〇三八	一四九、一七五	一五一、七五三	二二三、一五〇 千貫	一〇四、〇〇六 千貫
玉葱	三、三七三	二、九一七	三、三〇九	三、一五四	三、七八四 千石	四、三一〇 千石	五、一二五 千石
薄荷	七〇四九	二、二七六	一、三二九	二、七三〇	三、五七九 千貫	三、七一六 千貫	四、二一三 千貫
甜菜	—	—	—	二、〇四六	二九、二二六	二七三、〇五七	二七三、〇五七

牧畜業

生産價額

大正三年以前は總價額百四五十萬圓なりしが、逐年增加して大正九年以降一千萬圓を突破し、空知支廳管內最も多額に上り、次て石狩、網走、渡島、河西、支廳及札幌市並に膽振、上川、後志支廳、小樽市等は何れも五十萬圓以上の產額に達し、其他函館、旭川市、釧路(國)、根室、浦河、留萌、宗谷支廳、室蘭、釧路市等なるが、最も盛なるは畜馬にして多く農作に使用せれ道外に移出さるゝものも尠からぬ數量に達せり。

生產地

由來本道は土地廣濶、飼料豐富、氣候亦適順にして、牧畜業上天惠豐かなるものあり、加ふるに積極的奬勵

奬勵方針

効を奏して、逐年著しき進步發達を遂け、特に近年乳肉製品の發達顯著なるものあり又羊毛自給の必要に迫られて朝野の家畜飼育に就て講究劃策するもの多きを以て斯業の前途、蓋し刮目して見るべきものあらん。

猶大正八年以降に於ける牛、馬、羊、豚の現在頭數、及生產頭數を示せば次の如し、

種別	大正八年 現在	大正八年 生產	同九年 現在	同九年 生產	同十年 現在	同十年 生產	同十一年 現在	同十一年 生產	同十二年 現在	同十二年 生產
牛	二〇、五六一	五、六〇八	二一、五四七	六、一三五	二三、三四六	六、五六五	二五、六四五	七、二三二	×一五九 二九、二六五	×三二 七、九八三
馬	一八一、二六一	三三、五三一	一六六、七二一	三三、九三八	一七九、八二六	二七、六九七	一九四、八五五	二五、七一六	×五、九六九 二四、一二〇	×三四五 二八、六四一
羊	一、四〇五	四四九	一、四八四	五三九	一、九七六	六三三	二、四六三	八三三	×二、八三八 三、五六一	×一、六四八 九七九
豚	一七、七〇八	一八、〇一二	三三、〇一六	三〇、九六〇	三六、一三四	三六、〇九五	三五、三〇三	三〇、四五三	×七五 三、一九七	×七一 二八、六一九

備考 ×印は官有家畜を示す。

世界三大漁場

漁業

本道は四面海を繞らし、魚族豐富にして海藻繁茂し、世界有數の漁場にして、本道の生產亦漁業に始まり、往年に於ける生產額も漁業を以て首位とせるが、漁獲物の減少するに伴ひ、長足の進步發達を見ざるも、時運の進展に連れて、漸次沖合漁業の發達を見、動力を有する漁船著しき增加を見たり。而して產額の最も大なるは、後志支廳管內にして、次で渡島、宗谷、根室、留萌、浦河、網走、釧路、(國)檜山支廳等、何れも百萬圓以上の價額に達し、其他小樽、室蘭、釧路市、及石狩支廳、函館市等亦十萬圓以上を算せり。

沖合漁業の發達

今大年八年以降に於ける、主要漁獲物產額を示せば、次の如く鰊、鱈、鮭、柔魚、鰮、昆布等は本道海產物の大宗たり。

漁獲物の種類

產業發達の狀勢

種別	大正八年 數量	大正八年 價額	同九年 數量	同九年 價額	同十年 數量	同十年 價額	同十一年 數量	同十一年 價額	同十二年 數量	同十二年 價額
鰊	一三〇、千貫 五八八	一三、四七三 千圓	一三三、千貫 七二一	三三、〇一九 千圓	一〇四、千貫 一三五	一八、一二四 千圓	一四、一一三 千貫	一六、一四五 千圓	一〇一、千貫 八九三	一六、六〇三 千圓
鮭	三、二六	四、二九二	二、一四九	二、九八九	二、一三二	三、一二六	二、一三九	二、九六八	四、二五四	四、六三四
鱈	三、七九四	二、五三二	一、八一四	一、〇八二	二、〇九五	一、三二七	一、六二二	八〇四	二、八五二	一、三三五
鰮	二、五〇六	八〇六	九、五五二	一、九六九	五、七九六	一、一三三	二、四八九	一、七七九	二九、二六一	三、六二三

鰊	二、五三二	一〇、九三二	一、〇八一	二、九八二	一、二二七	二、六〇三	二、二七七	八、九九九	一、九八三
帆立貝	三、六〇五	二、三三九	三、六六	一、六一九	三、一六二	一、四三六	四、一六二	三、一二八	一、一三三
柔魚	一、七一七	一、六三三	二、〇二二	四、三六六	五、一〇二	二、九二五	一〇、二二五	二九、一二三	二、一八八
昆布	二八、八〇八	二、九七九	三三、三三七	二、三七六	三〇、四七二	二、四四七	四一、八一	四、五三三	三、七六六

製造工業

道内の工業は未だ幼稚の域を脱せざる爲、日用品の多くは内地各府縣下より移入するものなれども、地方分散性を有する特殊工業は勿論、麥酒、製麻、製澱、機械類、工業用藥品等は工業原料品の豐富なると、且つ動力たる石炭、水力に富み、加ふるに開拓使時代官營工場を民營に移換せる爲、爾來長足の進歩發達を遂げ更に歐洲戰亂の影響に依りて急激に進暢し、今や製産總價額、一億五千萬圓を算して、農産額を凌駕するの盛況を呈し、其産額の大多數は札幌、室蘭、小樽の三市及膽振、渡島、根室、各支廳、並に旭川、函館市等にして何れも一千萬圓以上を算し、其他石狩、空知、河西、川上、網走、釧路(國)宗谷、後志支廳、及釧路市等亦百萬圓以上に達し、近來甜菜製糖業の如き大工業を計畫するもの亦續出する狀態に付、本道に於ける製造工業の將來は、益々進歩發達すべきものと認めらる。左に大正八年以降に於ける、重要工産品の生産高を示して既往發達の趨勢を窺知せんとす。

主なる製造工業

生産價額

重要工産品

種別	大正八年	同九年	同十年	同十一年	同十二年
製麻	一四、八九二千斤	一六、四一六千斤	一三、五三一千斤	一五、二七八千斤	一二、二九八千斤
澱粉	一四三、五一二	一五七、一〇一	四八、三八九	四七、四八六	四四、四一一
麥酒	五三千石	四六千石	四七千石	五一千石	五七千石
洋紙	一九六、一九七千封度	二、七〇六千封度	七、〇七九千封度	二五五、〇八三千封度	二六三、六四四千封度
セメント	六〇三千樽	七一千樽	六四八千樽	一、四〇四千樽	一、五四六千樽
製鐵	三三、六三一千貫	一七、二〇四千貫	一〇、七八六千貫	一〇、〇一九千貫	一〇、八一四千貫
罐詰	五二三千瓩	四六一千瓩	五〇二千瓩	—	一、四七〇千瓩
味噌	二、五六七千貫	二、四六九千貫	二、二四七千貫	一、九一七千貫	一、九九三千貫
カーバイト	六、三八六千封度	八、六五二千封度	千噸五	千噸六	千噸六
硫酸アンモニア	一二、〇七七千封度	一三、一一二千封度	一四、九七六千封度	千噸四	千噸五
薄荷	七八千斤	二〇七千斤	二三五千斤	二六九千斤	二八九千斤
骸炭	一〇三、一二一	二六八、〇三二	八九、二三七	一〇、六九四	(製練炭)一二〇

鑛産業

鑛業熱の勃興

各種鑛物の埋藏無盡にして、鑛業の發達亦著しきものあり、殊に歐洲戰亂に際しては、石炭、硫黄等の海外輸出激增し、鑛業熱大に勃興して活躍の盛況を極め、大正八年には八千百七十六萬八千餘圓を最高とし、

産業發達の狀勢

戰亂終熄後財界不振の爲、一時沈滯を示し、晩近稍恢復の傾向を有するものにて、其主なる產地は空知支廳所管を首位とし、次て後志、釧路(國)支廳、釧路市、網走、檜山、渡島、膽振、上川支廳等の順位にして、大正八年以降の重要鑛產高を示せば次の如く、石炭は鑛產品中の首位を占む。

重要鑛產品

種別	大正八年	同九年	同十年	同十一年	同十二年
金	七千匁	一〇千匁	一三千匁	一七千匁	一八千匁
銀	八三五	九二三	一、二八九	一、四七八	一、二八七
鐵	×一四千噸	×一二千噸	×一千噸	—	—
滿俺	一、二一七	一五九	一九八	二〇八	二三五
石炭	四、七六三千石	四、五一〇千石	三、六〇六千石	四、三三五千石	四、八八二千石
石油	六千石	八千斤	千斤	千斤	一二千斤
鋼	二、一七五×四千斤	一、五六六千噸	九三二千噸	九九四千噸	一、一六〇千噸
格魯謨鐵	一七〇千噸	二千噸	二千噸	一五一千噸	七七千噸
硫黃	×一二千噸	×一二三千噸	×一七千噸	三一千斤	×九千噸
黃銀	三一千斤	×一三四千斤	一〇千斤	二千斤	一八千斤
水銀	一千斤				

備考　×印は原鑛を示す。

林產業

本道開拓の當初には全土鬱蒼たる原生美林を以て蔽はれたりしが、開拓の進歩するに從ひ牧場、耕地、宅地等に切り開かれて漸次面積を減少せりと雖も、猶年々各種の用材、薪炭材、製紙原料材、電柱材、鐵道枕木等產額多く道內及各府縣の需要に供するは勿論、遠く支那及歐洲諸國に輸出し、其價額は二千萬圓を突破する盛況なり。內一百萬圓以上に達せるものを擧くれば、網走、渡島、上川、膽振、河西、宗谷、釧路國、空知支廳の順序なり。

各種用材

伐採制限

又大正八年以降に於ける主要材の產額を示せば、次の如く年々大なる差異なきは、伐採を制限して天然更新を圖り、一方には人工造林を奬勵して、永遠の計を樹立せる結果に外ならず。尤も鐵道建設線の開通するに伴ひ、開拓に依る伐採あるも、既設、鐵道沿線附近は之に反し減少するに依り、開拓に依る伐採は鐵道線路の建設と共に移動するを以て結局伐採量には變化なきものゝ如し。

伐採量

種別	大正八年	同九年	同十年	同十一年	同十二年
角材	五、三九一千石	四、三六七千石	三、六一一千石	三、四四二千石	四、〇六六千石
丸太	二、五二三千本	二、五四五千本	二、二七六千本	二、七〇五千本	二、八五三千本
電柱材	四七千本	八千本	一千本	二五千本	一九千本

產業發達の狀勢

銃床材	一、五四七	一、九七一	一、六七七	一、三四四
早切	五九五千木	一一一千木	三九千木	一一九千木
鐵道枕木	八一五千掘	九七五千掘	一、一九七千掘	一、一四四千掘
燐寸軸木用材	二八四千石	一二六千石	七四千石	四八千石
製紙原料用材	六千掘	一	六千掘	—
				一〇九千木
				一、〇一五千掘
				二三千石
				—

生産額

各種産業の盛衰

前記各種産業を概觀せば、鑛産業中の鐵、滿俺、銅等は歐洲戰亂當時の旺盛季に比し、未た不況の域を脱せざるも、其他の各種産業は概して順調に進展し、少しも沈滯せる模樣なきものの如し。故に生産價額の減少は物價の低落に基因し、生産額は寧ろ逐年累加せるものなることを窺知し得べしと雖も、由來粗製原料品は大量なる割合に價格低廉なるに反し、加工品は高價のもの多く、從つて價額の高低を觀て數量の增減を推論し得ざるのみならず、生産額亦各其單位を異にする爲既往に於ける各種産業發達の優劣を論し得さるなり。

産業發達の優劣

依つて項を更め鐵道貨物の移動趨勢を畧述し其大勢を觀取することゝしたり。

三　主要貨物の陸上移動趨勢

輸送概況

發送噸數

大正八年以降に於ける道内各驛發送噸數、及延噸哩、並に一哩平均發送噸數を調査するに次の如く、大正九年度の發送噸數は前年に比し二百萬噸を增加したれども、翌十年度に於て百萬噸の減少を示したるは、財界不況の影響を受けて、各種製造工業の操業短縮、又は休止となり、延て石炭の需要激減を招き、炭價暴落して、斯業者一齊に採炭制限を爲せるに起因せるものゝ如し。然して大正十一年以降は逐年遞加し、同十三年度に至りては九百九十二萬余噸を算し、大正九年度の最高記録を突破したり。又延噸哩は大正十二年度に於て既に同八年度の最高記録を突破し、同十年度に於て一哩平均發送噸數減退したるは、同年度の根室線全通翌十一年度の宗谷線全通等、比較的貨物輸送の閑散なる地帶に屬する線路延長せられたるに因るものと認めらる。

延噸哩

一哩平均發送噸數

年度	發送噸數	延噸哩	一哩平均發送噸數
大正八年	九、〇三〇、二一六噸	八八五、四三八千噸哩	八五三、三五二噸
同　九年	九、二一四、四七八	八五二、九七一	七七九、三九六
同　十年	七、八三九、三八四	七五〇、九〇六	六四六、一〇四
同　十一年	八、三九三、四七一	八二七、八二〇	六七八、七〇八
同　十二年	八、九八九、二七七	八九四、〇三七	六九八、〇八五
同　十三年	九、九二〇、五一八	—	—

主要貨物の陸上移動趨勢

發送貨物の季節的關係

猶發送噸數に就て季節的關係を觀るに、一月は休日其他風雪害の支障多く例年減退するも二月三月に入れば降雪を利用して運搬せる木材類の荷動き增加し、四月は融雪の爲小運送機關の活動を阻碍せらるゝこと鮮少ならざる結果之れに雁行し得ざるものにして、五、六、七月は川流し木材の發送となり、八、九月の頃は所謂夏枯れ季と稱し一般荷動き不況を呈し、十、十一、十二月は薪炭及農產品等の移動繁劇を極め、年々十月は其最高記錄を示し木材及農產品の移動は、恒に鐵道貨物輸送の繁劇を招致し、石炭は夏枯季を除き年間通じて輸送を繼續せり。

品目別發送噸數及延噸哩

大正八年以降に於ける主要貨物の發送噸數及延噸哩は第二號表の通にして、其首位を占むる石炭は大正十二年度に於て四百二萬余噸を算し、既に大正八年度の最高記錄を突破し、第二位の木材は大正九年に於て百七十二萬余噸を算したるも、爾後百三十萬噸内外に低下して增進率停止の狀態なりしが、大正十二年九月一日の關東地方大震火災の影響を受けて、俄に活氣を呈し翌十三年度に至りて百八十二萬余噸に增加し、其他雜穀は大正八年に於ける二十四萬余噸を最高とし、同十二年度に十八萬余噸に減少したるは其價格低落せる爲作付の變化を招きたるものなれとも、翌十三年度に至りて二十三萬八千余噸を算し、恢復の兆候を呈せり。又木炭は大正八年度に十六萬余噸を算するに過ぎざりしも、逐年累加して今や二十七萬余噸に達し、薪は一進一退あるも大約十三、四萬噸を算し、米は大正八年度に於て九萬八千餘噸なりしを現今二十萬噸を突破するに至りたるは、蓋し需要の增加を反映せるものゝ如し、右の外砂利、和洋紙、飼料等何れも十萬噸以上を算するも、其他に至りては十萬噸以下のもの多く、之を一々說明するの煩を避け、農產、林產、鑛產、水產、加工品等に大別して示せば次の如く、陸上貨物移動の最も大なるものは鑛產品にして、次て林產、農產、肥飼料、工產品、窯業品水產、畜產、嗜好品、加工食料品、布帛類等の順序なるが、鑛產中の石炭は全輸送量の四〇%を占め、木材は二〇%、雜穀は八%、に該當せり。

石炭
木材
雜穀
木炭
薪
米

主要貨物の陸上移動趨勢

種別	大正八年	同九年	同十年	同十一年	同十二年	同十三年
農產品	四八四千噸	五三四千噸	六三七千噸	六二五千噸	六八五千噸	七四七千噸
林產品	一、六五二	二、〇〇八	一、六九七	一、七七〇	一、九五一	二、一六七
鑛產品	四、三二五	四、三五三	三、四六七	四、一二八	四、六三八	四、一四三
水產品	五八	一二九	一四四	一三七	一四八	一五七
加工食料品	二〇	一一六	八四	八四	九三	一〇八
嗜好品	二九	五九	五一	四九	五五	六七
肥飼料	二〇二	二四六	二三五	二一四	二五九	二八六
布帛類	二	四九	一三	一七	二一	一四
窯業品	八一	一〇六	一一九	一六〇	二〇〇	二三八
工業品	一二八	一七五	一八一	二〇四	二三二	二六五
畜產品	三六	三六	三一	三三	二九	三三

備考　大正十三年中の數量は連帶運輸を含まず。

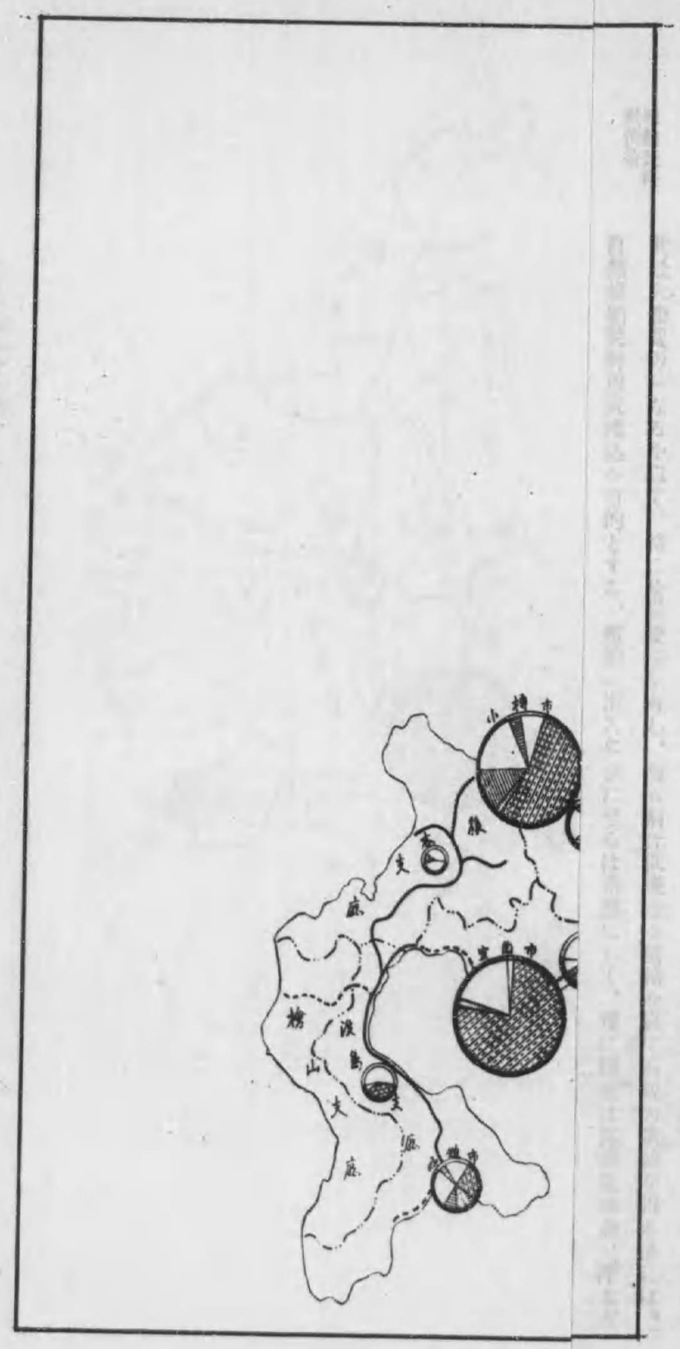
移動趨勢

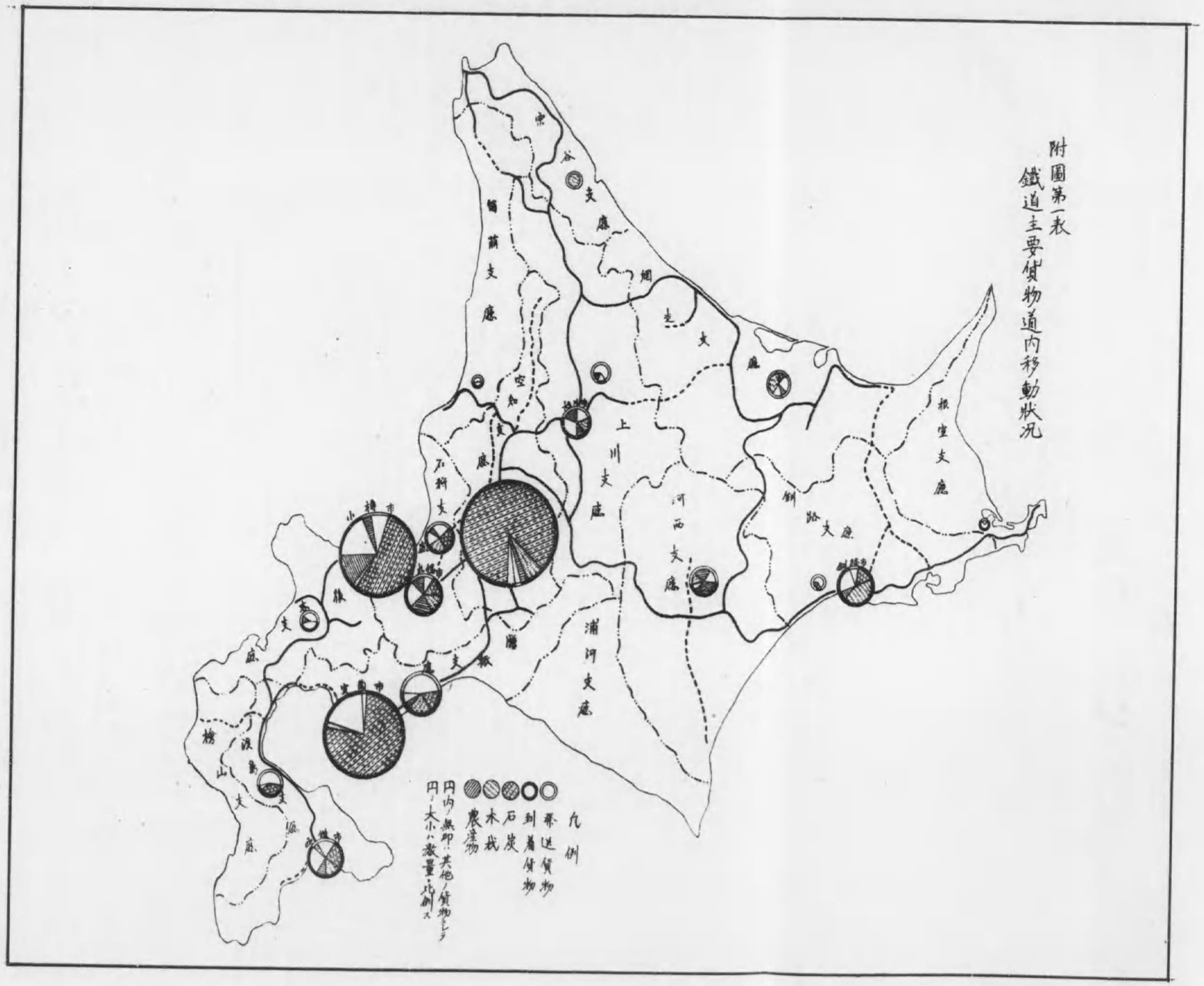
主要貨物の仕出地仕向地

大正十一年中に於ける着發主要貨物を、各市及支廳所管別に分類したるに、第三號表の通にして空知支廳管内發送石炭は、室蘭、小樽、函館市及膽振支廳、其他に送られ、空知、網走、河西、宗谷、支廳管内發送木材類は、小樽、釧路市、及膽振支廳、其他に到着し、旭川市、及空知支廳並に小樽市より發送されたる米は、札幌、小樽、函館、旭川、釧路市其他に到着あり。又麥類、豆類、雜穀等の發送は、河西支廳管内首位を占め、次て札幌市、及石狩、網走支廳並に、旭川市、後志、上川支廳等にして、其主なる着地は小樽、札幌釧路、函館、旭川、室蘭、釧路等の各都市なり。次に「パルプ」其他の製紙原料は、膽振、上川、網走、釧路支廳の發送多數を占め、石狩支廳、及釧路市に到着あり。「セメント」は渡島、空知支廳及旭川、小樽、函館、札幌市等に多數の發送ありて、空知支廳、旭川、札幌、函館、小樽市、並に石狩支廳等に到着あり。

物資は港灣を中心として集散せり

之を通觀するに附圖第一表の通りにして、道内各地の物資は、室蘭、小樽、函館及釧路港等に集中し、前記港灣地帶の物資は道内各地に分散され、室蘭、小樽、函館、釧路港等は本道の關門港として物資交換を媒介し、需要供給の調節を計るは勿論、函館港は本州對北海道との旅客交通を便にし、海陸連絡を企及して產業の發達を劃策し、而も其範圍は啻に内國關係に止らず、遠く英米又は支那露領亞細亞等の諸國に及ぼし、彼我貨物の交換を媒助する傍ら、文明の紹介に勉むるが故に、之を大にして一國產業の興隆を助長し、之を小にして地方富源の開發を來すものと云ふべし。其他室蘭港は石炭輸出港として殷盛を極め、小樽港は更に航





附圖第一表
鐵道主要貨物道内移動狀況

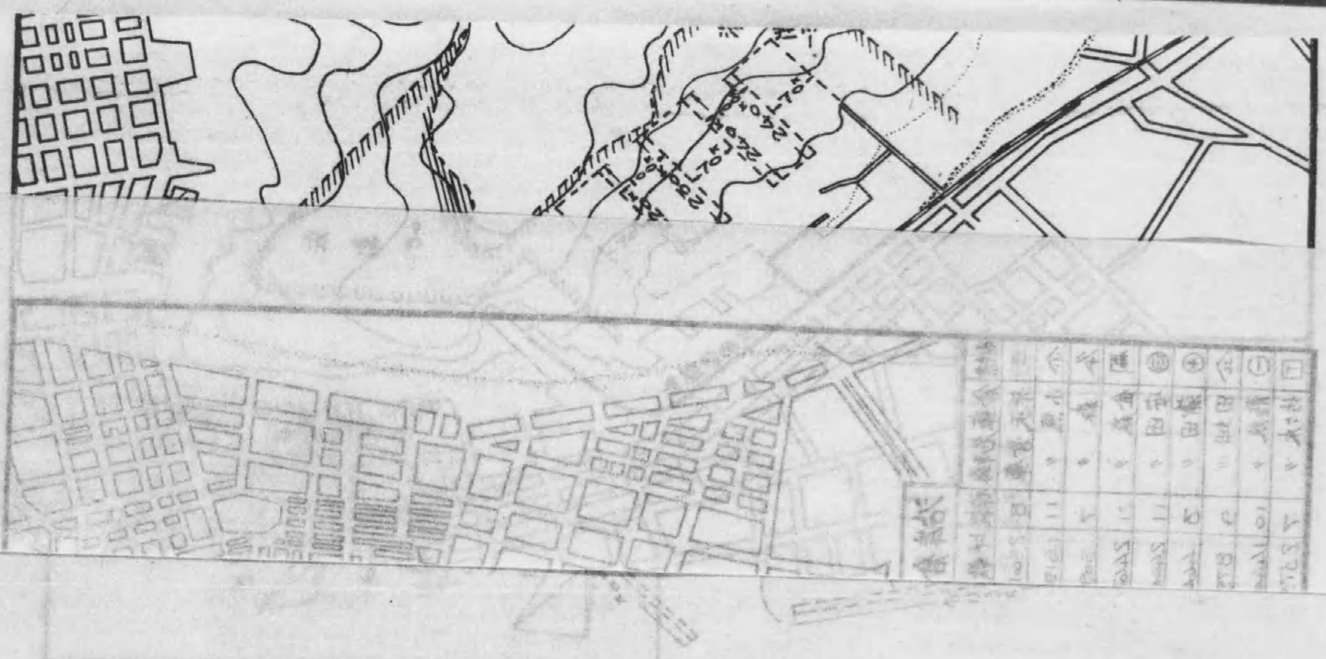
記港灣地帶の物資は道内各地に分散され、室蘭、小樽、函館、釧路港等は本道の關門港として物資交換を媒介し、需要供給の調節を計るは勿論、函館港は本州對北海道との旅客交通を便にし、海陸連絡を企及して産業の發達を劃策し、而も其範圍は啻に内國關係に止らず、遠く英米又は支那露領亞細亞等の諸國に及ぼし、彼我貨物の交換を媒助する傍ら、文明の紹介に勉むるが故に、之を大にして一國産業の興隆を助長し、之を小にして地方富源の開發を來すものと云ふべし。其他室蘭港は石炭輸出港として殷盛を極め、小樽港は更に航

船舶焚料炭供給

道内産業鐵道貨物貿易貨物

行船舶に焚料石炭の供給をも併せ行ふ爲めに、港内船舶常に輻輳せり。由來船舶の航行に際しては、石炭が其最大船費の一なるを以て、特に給炭設備を有し、而も割合低廉なる價格を以て石炭の供給を得る港には、自然船舶焚料用炭積込を目的とする、船舶の出入多きに至るは當然にして、現に同港は露領亞細亞、樺太方面の通航大なるに、從つて焚料炭供給を一層大ならしめたる傾向を有し、從つて陸上石炭輸送を繁劇ならしめ將來益々增加すべきものと認めらる。

されば道内産業の興替は、鐵道貨物輸送に繁閑を招き、鐵道貨物輸送の繁閑は港灣に於ける貿易貨物の消長に波及し、本道と港灣とは、實に唇齒輔車の關係にあれば、道内産業の隆昌を見ずして、港灣の繁榮を期すべからざること論なく、鐵道の建設亦富源開發の導火線となり、道内の開拓、産業の進展等に稗益する所甚大なるを以て、之が普及發達は、本道拓殖事業の進捗と密接の關係を有するものと認めらる。



定期航路の開設

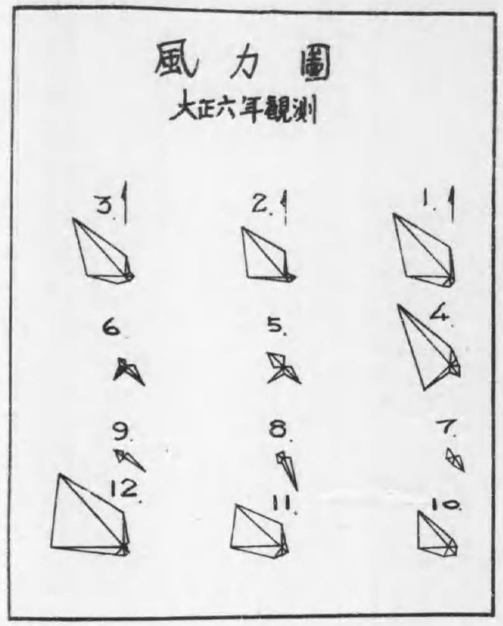
や、函館・青森間に郵便船を運航し、且東京・函館間の定期航路を開くに至りて、市況活潑となり、十五年二月開拓使を廃して函館縣を置かれ、十九年縣を廃して函館支廳となり、二十九年には函館船渠會社工場創

附圖第二表

函館港平面圖

沿岸倉庫調

商標	倉庫名稱	棟數	坪數	商標	倉庫名稱	棟數	坪數
三	弁天倉庫	8	2561	㊂	島西倉庫	8	893
小	小熊 〃	11	1.519				
冬	森 〃	7	509				
岡	金森 〃	21	2467				
安	安田 〃	11	2406				
蒲	蒲田 〃	3	466				
金	田畑 〃	9	879				
㊀	龍紋 〃	10	1440				
竹	竹ヶ木 〃	7	2375				



毎秒時六米突以上ノ風速ヲ自乗シテ各月別ニ累計シ其二ヶ年間ノ平均數ヲ風力ニ換算シ受圧面毎平方尺二封度ヲ以テ一瓩トシテ画キタリ

四　函　館　港

位置及本港發達の由來

北海道の南端渡島國の南岸、東經百四十度四十四分、北緯四十一度四十六分に位し、津輕海峽を隔てゝ青森港と對峙し、港内水深く巴狀を描きて地勢自ら風浪の憂を防ぎ、眞に天然の良港たるのみならず、更に防波堤を築造して、港の效用を一層大ならしめたる結果、大小船舶輻輳して殷盛を極むるに至りたれども、常に西北風に防げられて艀舟荷役の安全を期し難く、從つて船舶は防波堤の北端と國有鐵道繫船岸とを結びたる見透し線内卽ち五十七萬坪の水面積内に集中するものゝ如し。（附圖第二表參照）由來函館の地は松前藩の所領なりしも、寛政十一年幕府は蝦夷地警備の爲、之を直轄し各漁場に對する直捌の方法を設けて、其根據地と爲し、享和元年造船所を設け、安政年間開港場となりて、米、露、英の諸國が領事館を開設して以來、漸次繁榮に赴きたり。

天然の良港

港内水面積

領事館の開設

函館戰爭

然して維新後明治二年、佐幕黨の志士榎本武揚等艦船を率ゐて江戸を脫走し、此地に據りて官に抗し、函館戰爭となりて激戰あり、一時町勢疲弊したるも、同年七月開拓使を置きて此地を出張所と爲し、開拓使長官の來任するに及びて、市民漸く其緒に安んじ、生業を恢復するに至れり。又明治五年郵便事務開始さるゝや、函館、青森間に郵便船を運航し、且東京、函館間の定期航路を開くに至りて、市況活潑となり、十五年二月開拓使を廢して函館縣を置かれ、十九年縣を廢して函館支廳となり、二十九年には函館船渠會社工場創

定期航路の開設

設に依りて、一萬噸級の汽船を入渠せしめ得る設備と爲し、更に明治四十年函館、青森間定期連絡航路が國有鐵道の經營となるや、從來本州北海道奥地間の交通は、主として室蘭港經由なりしを、地位一轉して本港に移り、爾來港灣の修築、海陸連絡設備の改善、其他陸上設備の改良、發達等に依りて本州との交通を一層利便ならしめたりと雖も、客貨輸送上の施設は、數量の遞加に對應する一時的のものに過ぎず。而も國有鐵道所屬汽船に配するに、傭船を以てせる爲、船型、速力を異にし、後者の設備は、前者に比し、著しき遜色あり、旅客待遇上遺憾の點尠からざりしのみならず、貨物輸送に在りても其連絡地點に於ける船車積替作業は、單に積替より生ずる損傷、濡損の外、積替の爲に、各一日を費し、六十海里の近距離區間に於て、二晝夜一往復するに過ぎず、若し其れ天候の障害に際會せば、更に數日を空費する等、輸送上の支障多大なるに依り、客載貨車渡船を就航せしめて、此等の不便、不利を刈除したり。

交通路の變革

海陸連絡設備の改善

客載貨車渡航就航

翻つて市況を顧みるに、各種の產業は益々進展せるのみならず、本道沿岸は勿論遠く露領出漁の策源地として、今日の繁榮を極むるに至りたるは、寛政年間各漁場に對する直捌きの方法を設けられたる際、其根據地に撰定されたるに起因するものにして、蓋し由緒淺からざるにも拘はらず、港灣施設之に伴はざる爲、沿岸倉庫は既に飽和の域に達して發達を阻害する狀態にして、今や港灣修築の促進を圖りて、集散貨物の輻輳に利便あらしめ、以て港勢伸張の方策を講ぜんことを期しつゝあるも亦宜なりと謂ふべし。

港勢伸張

運輸の現狀

運輸系統

本市及附近に集散する貨物は、(一)鐵道運輸系統に屬するもの、(二)海陸連絡運輸系統のもの、(三)海上運輸系統に依るものとありて、第一、二の運輸は專ら國有鐵道の經營に掛り、此等に對する諸般の施設亦改善を怠らず、殊に第二に屬する海陸連絡貨物に對しては、着々改良を加へられたるのみならず、函館、青森間航路には今や三千五百噸級の客載貨車渡船を就航せしめて、船車連絡作業を簡捷ならしめ、以て從來北海道及本州の幹線鐵道が、水路の爲に遮斷され、貨物輸送上に種々の障害を蒙りたる不便不利を刈除し、更に純貨車渡船を增備して輸送能力の增進を企圖しつゝあり。然るに海上運輸系統に屬する船積貨物を收容すべき沿岸倉庫は著しく不足なるのみならず、所在地域には鐵道線路の連絡なき爲、鐵道に繼送さるゝ貨物の全部が艀舟又は車馬にて小運送せざるべからず、而も倉庫地帶は鐵道繼送上不便なる反對位置に在りて、交涉簡便ならず、加之海上運輸を取捌く港灣設備は、天然の地形を利用して僅かに一文字の防波堤を築造したるに過ぎず、總て碇繫荷役なれば一々艀船積替の煩累あり、殊に本市に於て消費さるゝものを除く大部分の集散貨物は、海上又は陸上運送に依りて再移出さるゝものなるが故に、艀船賃、及艀船積替に要する仲仕賃を重複負擔せざるべからざる如き、或は艀船保險料の支拂、其他積替より生ずる荷損、減量等、經濟上直接間接に蒙る影響、蓋し鮮少ならざるなり。

貨車渡船の効果

碇繫荷役の不便不利

海運貨物　大正十一、十二年中に於ける海運貨物の貿易徑路を示せば、第四號表の通にして外國貿易輸出貨物は支那及關東州方面に仕向けらるゝ海產品が主にして、輸入は支那及南洋方面の燐礦石、支那及關東州の食鹽、豆糟肥料等なり。

外國貨物貿易徑路

內國貿易貨物は移出入共青森港首位を占め、主なる移入品は藁工品、米、蔬菜及果實、木材等にして、移出は木炭、鹽干魚、海產肥料、飼料、木材、豆類、「セメント」、木製品、經木、蔬菜及果實、雜穀等とし、第

內國貨物貿易徑路

二位の伏木港を觀るに移入品の主なるものは米、藁工品、陶磁品にして、移出品は「セメント」、鹽干魚、海産肥料等なるが、樺太の移入品は海産肥料、鹽干魚、昆布、罐詰等にして、移出は藁工品、食鹽、「セメント」、果實及蔬菜、木製品、米、鐵製品、藥品等にして、以上の外移入又は移出高にして一萬噸以上を算するものを擧ぐれば神戸、東京、新潟、釧路、大阪、横濱、四日市、船川、室蘭、名古屋港等とす。

要するに本州方面より藁工品、米、其他の食料品並に日用品を移入して、道内及樺太方面に移出し、道内及樺太方面より移入したる、鹽干魚、海産肥料、其他林産、農産、工産品等は、本州方面に移出さるゝものにして、本港が海産物の集散地として繁榮せる傍ら、道内需要となる本州方面の物資を媒介するものゝ如し。

本州對札幌方面の比率

鐵道貨物　札幌方面の輸送は鐵道に依るも、本州方面との交渉は函館、青森間航路を介するものなるを以て、事實海上運送なり。依つて大正元年以降函館驛着發貨物に就き、海上運送卽ち本州方面、及札幌方面の陸上輸送とに區別したるに、第五號表の通にして、大正元年頃は四五對五五の比率なりしが、本州方面は輸送能力に制限せられて、增加率低下せるのみならず、大正十年以降石炭の運送は全部鐵道輸送となりたる結果、札幌方面との取引繁劇となり、晩近には二二對七八の比率を示すに至れり。

發送貨物

發送貨物中の鹽干魚は秋田、福島、山形、青森、群馬、宮城、岩手、茨城、山梨、靜岡、埼玉の各縣及東京市等にして、其他道内は後志支廳並に札幌市に仕向けらるゝもの多く、海産肥料は青森、栃木、靜岡、埼玉、縣下の到着何れも一千噸以上を算し、木材類は、青森、福島、秋田縣下に送致さるゝものあるも一千噸以下に過ぎず、主として道内の渡島、後志支廳管内に仕向けられ、其他米及藁工品は何れも道内移動にして渡島支廳首位を占め、次て後志、網走支廳、札幌市及河西支廳等の順序なり。

到着貨物

到着貨物の石炭は空知、留萌支廳管内、木材は網走、渡島、宗谷、上川、後志、支廳管内發送多く、木炭及薪は渡島、後志、網走、釧路、膽振、河西支廳、管内發多數を占め、鹽干魚は後志、渡島、網走、留萌支廳の順序にして、生鮮魚は後志、渡島、米は上川、空知、雜穀は渡島、石狩、河西、空知等なる外、渡島支廳管内の「セメント」、石材、大豆、生野菜、石狩支廳管内の麥酒等尠からざる數量あり。

本港の後方地域

次に本州方面よりの到着貨物中藁工品は青森、秋田縣下の發送最も多く、米は秋田縣及東京市、其他青森縣下の發送にして、生甘藷は千葉、埼玉、靜岡縣下の産にして、和歌山、靜岡縣下の柑橘。福島、山形縣下の柿、梨等亦相當數量に達し、取引先の大部分は東北六縣及關東地方にして、道内は札幌以南に集中せらるゝを以て、之を本港の後方地域と見做すを得べし。

市内集散概況

猶發着貨物の市内集散狀況を觀るに大約次の如き比率にして、札幌方面の到着は陸路車馬搬出多く、本州方面發送は艀舟搬入大なるも、概して車馬を利用して小運送するものと認めらる。

輸送徑路	札幌方面	本州方面	計
總計 艀船搬出	100 %		100 %
總計 車馬搬出	三四%		一六
總計 計	37 %	63	100
	六六%	一〇〇	八四
艀船搬入	47 %	53	100
	一〇〇%	一〇〇	一〇〇
車馬搬入	10 %	90	100
	七%	五三	三一
計	64 %	36	100
	九三%	四七	六九
總計 艀船	47 %	53	100
	一〇〇%	一〇〇	一〇〇
總計 車馬	74 %	26	100
	二八%	九	一八
總計 計	42 %	58	100
	二%	九一	八二
	48 %	52	100
	一〇〇%	一〇〇	一〇〇

海陸連絡の狀勢

本港は多年北海道の代表的港灣となり、北海道と言へば函館を連想する程の繁榮を來したるに依り、物資移動の大勢は海上運輸系統に屬するものか、或は陸より海へ、海より陸へ、移送さるる、所謂海陸連絡貨物たるべきかを、大正十一、十二年中の實績に徵し且後背地域との關係を併せ觀るに、第六號表の通にして大正十一年に於ける米及籾は海運にて九萬一千餘噸を移入し、鐵道便到着八千四百餘噸を加算せば九萬九千餘噸となり、內鐵道便發送八千三百餘噸、海運移出一萬六千餘噸、計二萬四千九百餘噸を差引、七萬四千餘噸は本市の消費又は貯藏となり、石炭の輸入五千三百餘噸、鐵道便到着十萬餘噸、計十萬六千餘噸の內、鐵道發送六百餘噸、海運に依る移出五萬一千餘噸、計五萬二千餘噸を差引、五萬三千餘噸は等しく本市の消費或は貯藏たるべきを考ふ。又雜穀、薪炭、海藻類、其他にして移入より移出の大なるものは、前年よりの貯藏か、然からざれば當市の生產たるべきものと推察せらる。

本道の代表的港灣移動狀勢

消費量

生產量

而して之が年度末に於ける決算は輸入四十萬一千餘噸、移入八十四萬四千餘噸、鐵道到着三十四萬四千餘噸、計百五十八萬九千餘噸にして、內鐵道便發送十三萬七千餘噸、輸出十六萬五千餘噸、移出百一萬五千餘噸、計百十八萬餘噸を差引、二十七萬一千餘噸が本市の消費又は貯藏となるべき算定なれども、內外貿易貨物輸移入百二十四萬五千餘噸に對し、鐵道便發送は十三萬七千餘噸に過ぎず、又鐵道便到着三十四萬四千餘噸に對し、內外貿易貨物の輸移出は百十八萬餘噸を算し、大正十二年中に於ては輸入二萬六千餘噸、移入百八萬四千餘噸、鐵道便到着三十八萬九千餘噸、計百五十萬餘噸の內、鐵道便發送十三萬一千餘噸、輸出三萬七千餘噸、移出百十二萬一千餘噸、計百二十九萬一千餘噸を差引、二十萬八千餘噸は本市の消費又は貯藏となりたる計數なるべし。尤も輸移出及鐵道便發送貨物中には、本市の生產たるべきものを含むも、今之を審かならしむべき調査資料なきを遺憾とす。

然して內外貿易輸移入百十一萬一千餘噸に對し、鐵道便發送十三萬一千餘噸にして、鐵道便到着三十八萬九千餘噸に對し、內外貿易の輸移出が百十五萬九千餘噸となるを以て、海陸連絡貨物は比較的少く、集散貨物の大潮流は海上運輸系統に屬し、而も對岸青森港との取引最も繁劇を極め、青森港は本州北部に於ける關門港として、貿易貨物の增加を來しつゝあるは國有鐵道の函館、青森間輸送能力に制限せられて、函館發本州方面行貨物が滯滯勝となる結果、同方面行貨物を青森迄海上輸送し、青森より更めて鐵道便として夫々仕向地に送達せらるゝものなるが、秋季旺盛を極むる鹽魚の如きは、之が爲函館、青森、兩港に於ける中繼費增大し、每噸三十五圓を損失し現今諸掛り低減方協定成りたるも猶且十圓餘の失費を餘儀なからしめつゝありと云ふ。

集散貨物の大潮流

對岸青森港との取引關係

北海道對本州方面相互の取引が、一旦青森打切りとなりて、海運業者の手を介するに至りたるは、青森、函館間航路が國有鐵道の經營となる以前、卽ち航路の爲に陸上輸送を中斷されたる際、青森、函館兩市の商取引關係を結びて今日に至りたる事情潛在し、俄かに之を打開し得ざるべしと雖も、幹線鐵道が水路に依りて遮斷されたる不便不利が、貨車渡船就航と共に刈除され、强ち青森市の中繼を要せず。寧ろ函館との直取引が利益とするに於ては、青森、函館間輸送力の充實するに伴ひ、現在に於ける青森、函館兩港移出入貨物の幾部は海陸連絡貨物となりて、鐵道輸送に轉嫁すべき性質を有するに依り、函館驛の本州方面着發貨物に

貨車渡船の影響

對しては相當考慮を要すべきものと認めらる。

道内奥地と本州方面との交渉

猶從來本港に於て海陸連絡貨物と稱し、船車積替を爲せる鐵道輸送中の道内奥地發本州行、及本州發道内奥地行、鐵道貨物數量は第六號表其の二に掲記せる如く、貸切扱は前者多數を占め、小口扱貨物は後者の方遙に大なるが、常に本州方面行貨物優勢にして、道内到着貨物は劣勢なり。然して函館發着貨物と道内奥地發着貨物の比率は、大約次の通にして大正四年以前は、道内奥地發送貨物極めて不振なりし爲、函館發送貨物を勸誘したる結果、道内奥地發着貨物少數にして、函館發着貨物大部分を占めたるも、同五年以降、道内奥地着發貨物漸次增加し今や全く反對の現象を呈するに至れり。是れ道内奥地開發せらるゝに伴ひ、内地との交渉頻繁となり、爲に函館發貨物は船腹或は青森以南陸路輸送力に累せられて、抑制を受けたるに起因せるも、大正九年以降の主要品目を觀るに、奥地發貨物の鹽干魚、肥料等の增加せるは函館の商權を脅威するものに非らざるなきかを疑はる。

貨車渡船と函館の立場

加之貨車渡船に依りて鐵道貨物が輕快に輸送さるゝに至りては、道内奥地沿岸漁業區が新に鮮魚の販路を本州方面に求むることゝなり、一層函館發送貨物は不利の立場となるべきを考ふ。故に函館發本州方面行貨物を增送せんとするには、勢ひ空車注入を回避し盈車到着を增加せしめざるべからず、幸に本港内國貿易移入貨物中青森港移出たる、藁工品、米、蔬菜果實、綿、及綿織物等何れも一萬噸以上を算するに依り、之を鐵道貨物に轉移せしむれば自然道内入込貨車の增加を來し、延て函館發送貨物の輸送を圓滑ならしめ得べき理にして、其他關西地方より道内に送らるゝ雜貨を鐵道便直通輸送を計畫さるゝ向もあれば、下り貨物が漸次優勢となるべきこと明瞭なり。

青函間下り貨物の充實

年次　函館發　道内奥地發　計　函館着　道内奥地着　計

年次	函館發	道内奥地發	計	函館着	道内奥地着	計
大正元年	七八%	二二%	一〇〇%	六〇%	四〇%	一〇〇%
同　二年	七一	二九	一〇〇	六五	三五	一〇〇
同　三年	六四	三六	一〇〇	四六	五四	一〇〇
同　四年	六一	三九	一〇〇	四四	五六	一〇〇
同　五年	四四	五六	一〇〇	四〇	六〇	一〇〇
同　六年	四三	五七	一〇〇	三二	六八	一〇〇
同　七年	四〇	六〇	一〇〇	二三	七七	一〇〇
同　八年	三七	六三	一〇〇	二二	七八	一〇〇
同　九年	三八	六二	一〇〇	二三	七七	一〇〇
同　十年	三四	六六	一〇〇	二一	七九	一〇〇
同　十一年	三〇	七〇	一〇〇	二一	七九	一〇〇
同　十二年	三四	六六	一〇〇	二三	七七	一〇〇
同　十三年	三一	六九	一〇〇	二六	七四	一〇〇

運輸量の推定及荷役能力對比

大正元年以降に於ける内外貿易貨物の輸移出入、及鐵道貨物の着發數量を調査するに、第七號表の通にして

外國貿易貨物の推移

外國貿易貨物は、大正十年以前多少の消長ありたるも概して順調に進展し、同十一年に於て著しき增加を示したるが、翌十二年に至りて輸出入共減退し不振を極めたるは、支那に於ける日貨排斥、及我軍の尼港撤退並に米價低落、毛皮革類の露領輸出禁止等に累せられたると、且つ食鹽が中繼貨物として露領方面に輸送せられたるとに基因し、內國貿易貨物の推移

內國貿易貨物の大正四年及同九年に於ける衰退は、財界不振に依るものにして同十年以降の急劇なる增進は、豐漁の爲鹽干魚、鰚等の移出增加し、從つて藥工品の移入遞加したるに起因したるものゝ如く、概して自然增加と見做すべきか、又鐵道貨物の推移

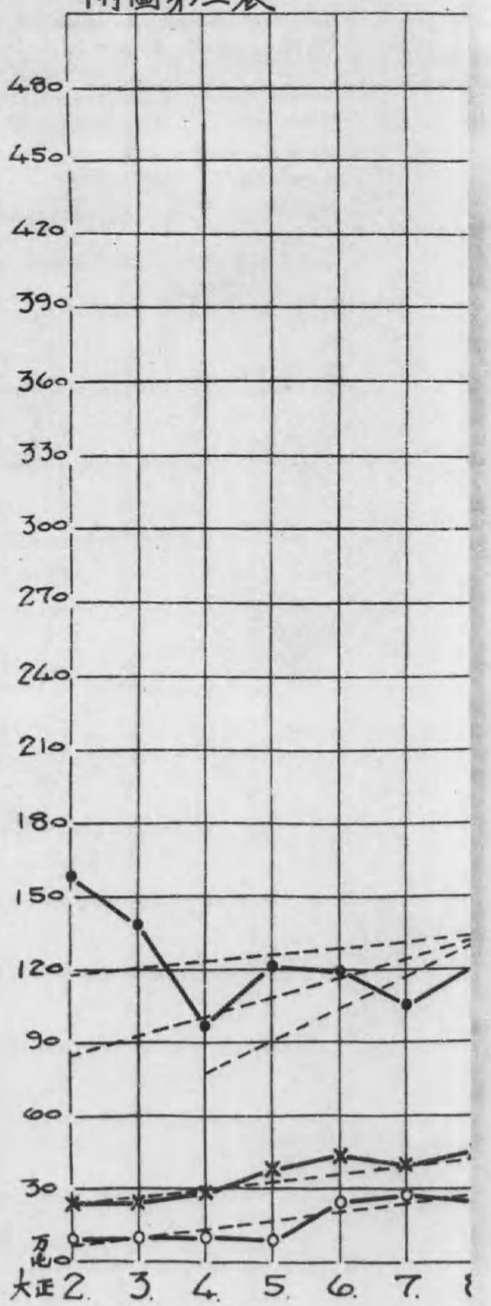
鐵道貨物の着發は、年に依り一進一退あるを免れざるも比較的增進率の低位にあるは本州方面との取引が、常に輸送能力の制限を受けて、罐頭の餘地なかりし結果なるべし。

直線式最小自乘法に據る推算

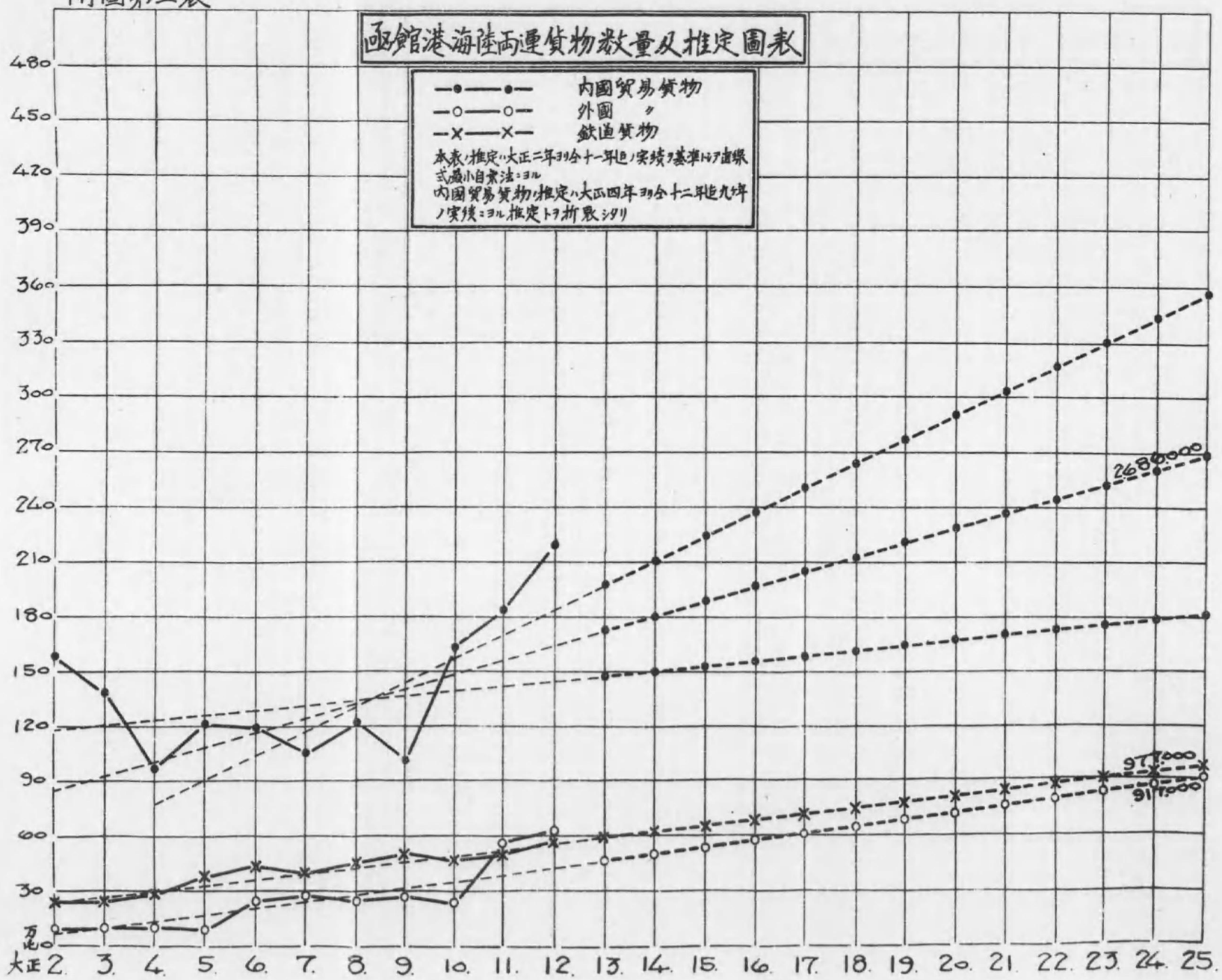
故に將來貨車渡船能力增進の曉は、急劇に累進すべきものなること明かなれども、此等の變化を考慮せず大正二年乃至同十一年に於ける實績を基礎とし、直線式最小自乘法に依りて將來の運輸量を推定したるに、附圖第三表の通にして鐵道貨物、及外國貿易貨物は、既往の實績に徵し適正なるものと認めらるゝも、內國貿易貨物は、增進率低く現在の運輸量と著しき懸隔を生じ、妥當ならざる嫌あるを以て、更に大正四年乃至同十二年の實績を基準として試算したるに、推定量と最近の實績とは相近接せる計數を得たるも、將來果して此增進率にて累進すべきや、否や、疑なき能はず。尤も將來に對する推定は、極めて困難にして其何れが適正なるべきかを豫測し得ざるも、姑く其中間直線を採りて將來の運輸量を卜知することゝし、大正二十五年の推定運輸量は、外國貿易九十一萬七千餘噸、內國貿易二百六十八萬六千餘噸、鐵道貨物九十七萬七千餘噸を得たり。

大正二十五年の運輸量

附圖第三表



附圖第三表



鉄道貨物の推移

るものゝ如く、概して自然増加と見做すべきか、又鐵道貨物の着發は、年に依り一進一退あるを免れざるも比較的増進率の低位にあるは本州方面との取引が、常に輸送能力の制限を受けて、擡頭の餘地なかりし結果なるべし。

直線式最小自乗法に據る推算

故に將來貨車渡船能力増進の曉は、急劇に累進すべきものなること明かなれども、此等の變化を考慮せず附圖第三表の通にして鐵道貨物、及外國貿易貨物は、既往の實績に徴し適正なるものと認めらるゝも、内國貿易貨物は、増進率低く現在の運輸量と著しき懸隔を生じ、妥當ならざる嫌あるを以て、更に大正四年乃至同十二年の實績を基準として試算したるに、推定量と最近の實績とは相近接せる計數を得たるも、將來果して此増進率にて累進すべきや、否や、疑なき能はず。尤も將來に對する推定は、極めて困難にして其何れが適正なるべきかを豫測し得ざるも、姑く其中間直線を採りて將來の運輸量を卜知することゝし、大正二十五年の推定運輸量は、外國貿易九十一萬七千餘噸、内國貿易二百六十八萬六千餘噸、鐵道貨物九十七萬七千餘噸を得たり。

大正二十五年の運輸量

港内に於ける船舶收容力査定基準

港灣施設として、前述の如く國有鐵道經營に掛る繫船岸壁の外何等の設備なく、總て碇繫荷役なる爲船溜に於ける艀舟荷役力の推定は、甚だ適正ならざるも恒例に依り船舶一噸當りの所要水面積を八坪とし、船船の停船日數を五日間と査定し、(以下各港灣之に倣ふ)西北風に妨げられて艀船荷役の安全を期し難き區域を除き、防波堤北端と國有鐵道岸壁低部を結びたる被覆有效水面積五十七萬三千坪の内、常時港内碇泊艀船、及乘艀、其他船舟、七百九十隻の使用面積十七萬三千七百七十坪を控除する時は、五百噸級以上四、五千噸級以下の大小船舶を同時に、三、四十隻を碇泊せしめ得べく、一ヶ年の船舶登簿噸數四百五十五萬五千餘噸となり、之を大正十一、十二年中の實績と對比せば次の如くにして、僅か百五十萬噸の餘裕を存するに過ぎざる狀態なり。

港内に碇泊せしめ得べき船數

沿岸倉庫の收容能力

加之現存せる沿岸倉庫、百三十四棟、其延坪數、二萬四千百二十四坪にして收容能力、七萬二千噸、假りに繁忙期に際し月二回轉換するものとせば月十四萬四千噸、年間百七十三萬噸内外を消化し得るに過ぎず。故に本港々勢に立脚し猶且港灣の現狀に顧みて時勢に適應すべき修築工事の完成を必要とすべきは今更贅言を要せざるなり。

港灣修築の必要

年度	隻數	登簿噸數	貿易貨物總噸數
大正十一年	一一、五〇八隻	三、〇四六、一六八噸	二、四二六、一三八噸
同　十二年	一二、三七七	三、〇五七、一五九	二、二七〇、九八九
推定能力	——	四、五五五、〇〇〇	一、七三〇、〇〇〇

沿岸に於ける艀船の混雜

猶本港沿岸倉庫は港岸に並行し或は船入場を設けて設置されたるもの尠く、大部分は沿岸間口狹き割合に

奥行深き爲、艀船荷役力低下し延て先着艀船の荷役待ちとなり、倉庫附近は常に艀船密集して混雜を極むる如きは、畢竟港岸線延長の短少なるに起因するものと認めらる。されば倉庫の内沿岸に相當距離ある場所は車馬にて小運送せしむる設備と爲し、一棟の倉庫は水陸兩通路を有し、鐵道便發着貨物は主として車馬を利用するものゝ如く運賃は艀船に比し毎噸十錢内外高率なるものゝ如し。

艀船と車馬貨の比較

停車場構内に於ける貨物積卸場中、艀船にて搬出入するもの卽ち積卸場の一方を線路とし貨車積卸に供し、他方は水路に面し艀船荷役に便せしむるもの、と車馬にて小運送する片側線路、片側道路、に接するものとに區別し、更に一般貨物、及散物、荒荷とに分類して作業能力を調査したるに次の如く、一般貨物は艀船、車馬共に大差なしと雖も、散物、荒荷、の車馬荷役は艀舟荷役の二分の一にも滿たざるのみならず、貨車渡船能力增進して貨物船を廢止するに至らば、連絡上家は總て自驛艀舟荷役に供せらるゝものなるが故に、假りに改築の爲、現在の一般貨物艀舟荷役場撤去せらるべしとするも、其比率は一般貨物が七六對二四の割合にして、總計は七一對二九の比率となり、艀舟荷役力强大なる割合に車馬荷役力貧弱なり。

貨物積卸場及荷役の分類

車馬荷役能力の不足

然るに現在に於ける小運送狀況は、前述の如く（運輸の現狀鐵道貨物參照）車馬搬出入旺盛なるにも拘はらず、設備之に伴はざる爲、艀舟荷役場の一部を車馬荷役に供して不便を忍びつゝあり、殊に近年家庭用煖爐の焚料を石炭に改むるもの增加し、其大部分は車馬搬出なるを以て改築に當りては之が荷役に就き充分なる考慮を要すべしと雖も、本港の將來は益々繁榮を極め出入船舶一層增加すべき傾向を有し、而も室蘭又は小樽港に於ける船車積替費及中繼に起因する損傷減量等を考慮する時は、遙かに鐵道便直通を利益とするのみならず、輪西長萬部間鐵道全通するに於ては、愈々鐵道便着炭を歡迎すべきに依り、艀舟荷役となる散物荒荷積卸場は之を活用するに足るべく、本港集散貨物の大宗たる海産物亦主として本州方面に送達せらるゝものなりとせば、貨車積の儘直通せしむるを利益とするものも尠からざるべきを以て、同方面に於ける輸送量の劇增は何人も之を豫想し得べきに依り、荷向先の決定したる貨物は直接停車場構内に持込ましむる必要を招致するのみならず、沿岸倉庫は現に不足を告げ、鹽魚積船舶の入港をも抑制して、小樽港に逆送し、或は青森、伏木港に轉送して陸揚せしめたる實例、乏しからざるに依り、從來本州對奥地發着貨物の船車連絡に充當せる、一千餘坪の上家は直ちに利用の途あり、寧ろ時ならずして狹隘を感ずるに至るべきものと認めらる。

鐵道貨物上家の利用

到着石炭の增加

種類	艀船搬出入 面積	艀船搬出入 荷役能力	艀船搬出入 %	車馬搬出入 面積	車馬搬出入 荷役能力	車馬搬出入 %
一般貨物	四二〇坪	一五三、三〇〇噸	五三	三七七坪	一三七、九七〇噸	四七
同連絡上家	一、一八八	四三三、六二〇		—	—	
散物荒荷	三、一一〇	五六六、〇二〇	六八	一、四四三	二六二、四四四	三二
計	四、七一八	一、一五二、九四〇	七四	一、八二〇	四〇〇、四一四	二六
改築後の異動（但し決定せるもののみとす）						
一般貨物	一、一八八	四三三、六二〇	七六	三七八	一三七、九七〇	二四
計	四、二九八	九九九、六四〇	七一	一、八二〇	四〇〇、四一四	二九

本州方面貨物の增加

前述の如く本州方面との取引は、遂年遞加し貨車渡船後一層躍進すべき氣勢顯著なるにも拘はらず、本市

の發送貨物は道内奥地發送貨物の爲に抑制せらるゝ虞ありとせば、貨車渡船能力充實すると否とは本市として緊切なる問題たるべしと雖も、本航路に於ける貨車渡船能力を顧みれば、翔鳳丸級の汽船が一回十五屯貨車二十輛を搭載し、一日三往復するものとし一車平均積載貨物屯數を十屯五分とせば、一日六百三十屯、更に純貨車渡船が十五噸貨車四十三輛を搭載して一日一往復し、貨物四百五十二噸を輸送し得るものとせば一千八十二噸となる。

貨車渡船能力

繁忙季に處するの途

故に繁忙季に際しては翔鳳丸級の汽船を臨時運航せしめて、貨車二十五輛、貨物二百六十三噸、を増送せしむることも亦敢て困難ならずと認めらるゝに依り、直面せる輸送能力には問題なく、輸送量の増進するに伴ひ更に純貨車渡船を増配せば足り、要は出貨の狀勢如何に歸着すべし。然れども貨車渡船數を繁忙季に對應せしむる丈常備せしむる時は、閑散季に之を抑留せしむる結果となり、船舶建造費、其他船員諸給與、等莫大なる額に達し不利益なるに依り、年間平均輸送量に雁行し、繁忙季には船操りにて增送せしむる程度に止め、輸送當事者亦閑散季に際しては季節物先送りを企圖し、以て船舶の收益期間を増進せしめさるべからず。

純貨車渡船の增備

港勢

本港の任務

本港々勢を按するに、露領亞細亞漁業場に輸出する米穀、食鹽雜貨類は多く之を内地市場に仰き、單に外國輸出として手續上變形せるのみにして、露領亞細亞より輸入する鹽鮭、鹽鱒、罐詰等は勿論其他鰯、鮑、海參、昆布、貝柱、鱶、鰭等亦詰換、或は簡易なる手入、に止めて之を支那市場に輸出するを外國貿易の双壁と爲し、内地各縣、及北海道、並に樺太方面、相互の集散貨物に對する積替、或は再移出を爲すを以て、内國貿易の幹根と爲し、專ら海上運輸系統に屬せり。

海上運輸系統

然して本港は北海道の南端渡島半島の邊陬に位し、後背地域に大生産、若しくは消費地、乏しきにも拘はらず、今日の繁榮を招來したるは、遠海漁業經營上の經驗に富み、銀行其他個人投資者も金融に便宜を與へて事業遂行を助成し、仲買業の問屋筋、亦巧に商勢を掌握して各地の商人に信用を博し、函館の市價を標準として取引さるゝに至り、海産物の集散地としては、寛政年間以來の古き歴史を有せるのみならず、出入船舶の增加するに伴ひて、露領亞細亞、及關東州、支那等相互の中繼貨物取扱ひをも併せ行ふことゝなり、今や中繼港としての價値をも認めざるべからざる狀態にあり、左に大正四年以降の内外中繼貿易貨物數量を摘錄して參考に供せんとす。

後背地域

遠洋漁業

中繼港の任務

抑々函館の地は津輕海狹を擁して米亞交通の要路を扼し、露領亞細亞其他の貨物を吸收して大陸諸國に媒介するものなるが故に、極東露西亞の寶庫と稱せられ、世界三大漁場たる、勘察加及「オホツク海」の漁權、其他西比利亞、及勘察加、並に北樺太、の豐富にして且優良なる毛皮類等も亦有利なる生産消費の要件を具備するものなるを以て、本港の任務亦重大なるべきを考ふ。依つて本港は北海道對本州方面相互連絡の要津に當り海産物の集散地として繁榮する外、北米合衆國、極東露西亞及支那、關東州、に對する中繼港としての任務をも盡さゞるべからざるものと認めらる、

重要任務

外國中繼貿易貨物

年次輸出輸入計

大正四年	一七二、二三九噸	七、七六九噸	三六	
同五年	一九七、四二三	八一、五四四	二七八、九六七	
同六年	二四九、〇二七	六四、九六五	三一三、九九二	
同七年	二七〇、〇八二	八二、一七四	三五二、二五六	
同八年	二四一、五六八	八一、四五六	三二三、〇二四	
同九年	二六三、六四四	七九、二九四	三四二、九三八	
同十年	一六八、〇一八	六四、〇〇六	二三二、〇二四	
同十一年	二二三、二四二	七五、六九五	二九八、九三七	
同十二年	一三一、四七一	八〇、二七五	二一一、七四六	

內國中繼貿易貨物

年次	移出	移入	計
大正四年	七一、八〇一噸	一〇〇、八二一噸	一七二、六二二噸
同五年	七九、七三七	一一三、一五七	一九二、八九四
同六年	九八、八六八	一三二、〇一二	二三〇、八八〇
同七年	一一三、〇二七	一二五、八七九	二三八、九〇六
同八年	一四三、八五八	一五五、六五一	二九九、五〇九
同九年	一三六、〇三六	一六九、〇四九	三〇五、〇八五
同十年	一三八、九一九	一五九、〇三八	二九七、九五七
同十一年	一三四、〇四五	一八三、八九五	三一七、九四〇
同十二年	一三四、二三六	一五五、一八五	二八九、四二一

海陸連絡設備の改善

國有鐵道の繫船壁

國有鐵道の經營に掛る函館、青森間連絡船用繫船岸は、既に竣工して三千噸級汽船二隻を同時に繫留せしめ得る外、將來之を擴張して同時に三隻を繫留せしめんとし、本港の一美觀たるも其他は港灣施設として何等觀るべきものなく、特に沿岸倉庫は既に飽和の狀態なるのみならず、物揚場延長短少の爲艀船荷役能力を低下せしめ、加ふるに防波堤亦不充分にして西北風を防遏し得ざる結果、艀船荷役の安全を期し難く、爲に比較的高率なる車馬運送の發達を誘引したるものと認めらる、而して本港貿易貨物の大宗たる海產物の集散狀況を顧るに、季節物の鹽鮭、鹽鰊等は散積の儘入津し、陸揚げの上荷造りを爲し、一時貯藏して時機を待ち、需要に應じ、價格の模樣に依りて、各方面に分配さるゝものなるが、仕向地は本州方面にして貨車渡船就航せる今日に於ては鐵道引込線の必要をも招來すべし。

海產物の集散狀況

中繼貨物の荷役狀況

又中繼貿易貨物は一旦陸揚げ倉庫入りと爲し、便船を待つて目的地に移送せらるゝものなるが故に、貨物積替を至便にし、中繼輸送の爲に倉庫設備を完全にし、通過貨物に對する取扱自由ならしむるを要す。

內港設備完成の急務

されば沿岸の整理は勿論、港內諸掛りの高率等單に成行きに任せて、袖手傍觀することなく、本港將來の發達を助成する爲には、港灣の修築、繫船岸壁の整備、上家倉庫の增築、等本市自ら進んで之か解決の任に

拓殖第二期計畫中の港灣修築

膺らざるべからず。今や本道拓殖第二期計畫着手されんとして、本港修築計畫案亦計上されたりといふを觀るに、現在の防波堤を北方に二千四百呎、又第二防波堤を西南西に三千九百呎、何れも延長して港門を北方に開口せしめ、幅員は防波堤頭部の中心に於て千二百呎と爲し、被覆有效水面積百七十萬坪を得、港内設備改良として浚渫、埋築工事の外、第一防砂堤の南方海上に幅七十間長二百二十間一個及幅七十間長二百四十間二個の繫船立體埠頭三基を築造するものなれども、財政緊縮の爲實行案として繫船埠頭一基に止め、殘餘二基は之を他日に讓ることゝとせるが如し。（附圖第二表參照）

繫船埠頭

鐵道の連絡

然して本計畫案繫船埠頭に對する鐵道引込線の敷設は最も容易にして、海陸連絡貨物に對する荷役簡捷を期し得べしと雖も、現存せる沿岸倉庫地帶に鐵道引込線を敷設することは、事實簡便ならざるを以て實行不可能なるべし。然れとも此等既設倉庫の存在を認め、且新設せらるべき繫船埠頭倉庫との共榮を保たしむる爲には、沿岸倉庫附近浚渫工事の竣工と相待つて、貨車渡艀船を配し沿岸倉庫にて直接貨車積卸を爲さしむれば、鐵道線路を敷設したると同樣の效果を擧け得べく、渡船可動橋亦現在の車運丸渡船設備を充當し得るを以て、實行容易に付現存せる沿岸倉庫の利用を傷くるが如き憂なきものと認めらる。

既設倉庫に對する貨車渡艀船の配屬

本港の眞價

天然の良港

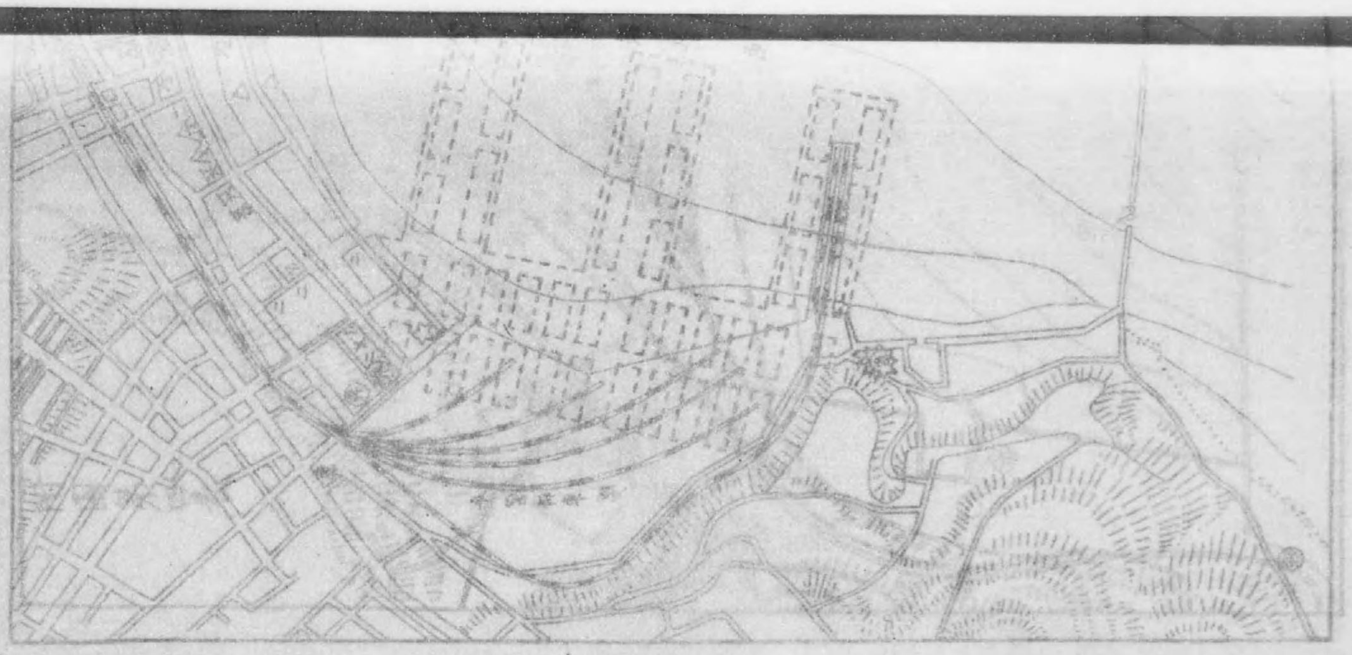
本港は山岳に抱擁せられて灣入深く、港内靜寧にして天然の良港たりと稱するも、其水面積僅かに二三十萬坪程度に過ぎざる故、出入船舶の增加、貿易貨物の累進に伴ひ、天然の儘にして其效用を全ふせしめんとするは恰も木に頼りて魚を求むる類なりと雖も、築港すべき範圍は海濱の狀況、商業の性質、及其多寡に應じ更に費用を參酌して決せらるゝものにして、本港か遠洋漁業の策源地にして海産物の集散地たりとせば、將來如何に發達するも限りあり又東大陸を始め、極東露西亞、及支那、關東州、に對する中繼港として發達を期するとも貿易貨物の增加するに伴ひ、經費及時間を節約せんと欲して中繼を省き、直接海外取引となりて中繼港は漸次其勢力微弱に赴き、現に各國に於て嘗て中繼港を有したることあるも、近時漸く其數を減少したる實例に徵し明かなるを以て中繼港に對しては大なる期待を爲し得ざるべし。

本港將來の港勢

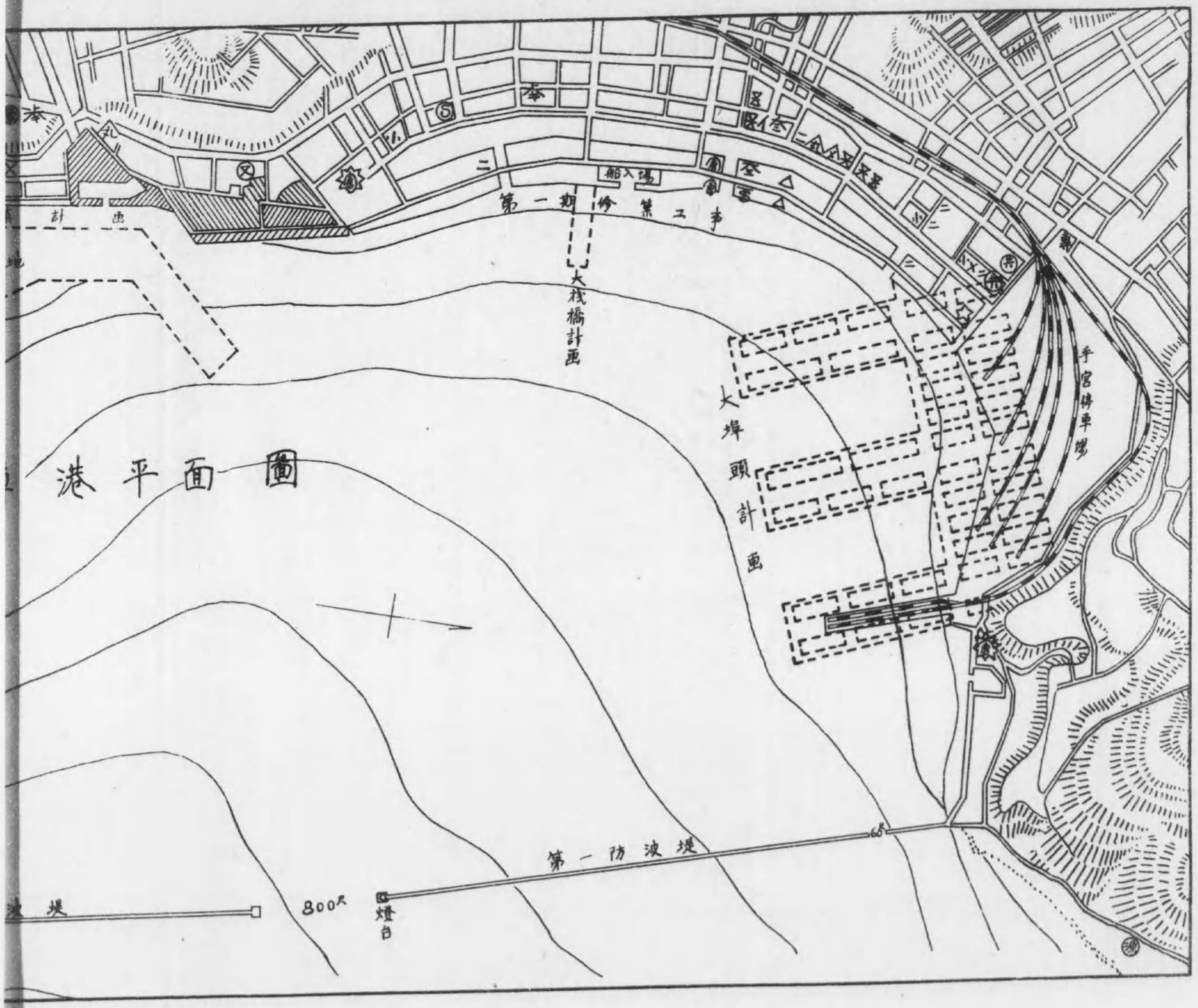
工業立國策

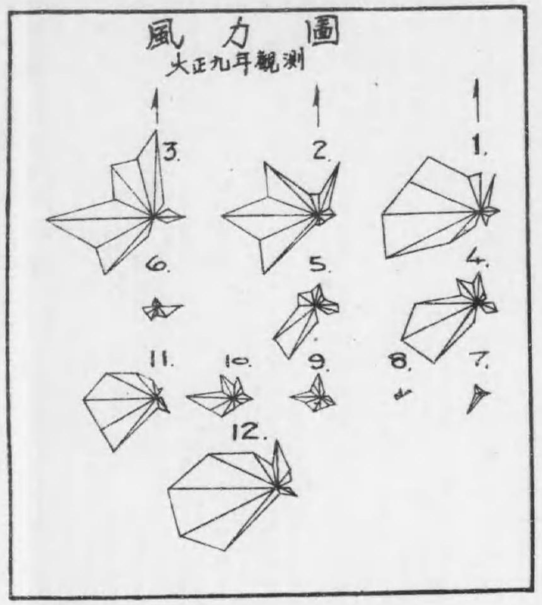
果して然らば將來本港設備を如何に之を利用し、如何にせば本港の隆昌を傷けざらん乎とせば、唯工業立國策あるのみ、幸に市民各自が夫々講究せられて劃策を怠らず、製造工業としては製紛、製罐、豆糟、毛皮革、曹達、綿絲、製紙、燐寸、人造絹絲、海産品加工、洋灰、人造肥料等を起さんとし、地積四百萬坪を有し、海陸交通の便具はる龜田平野は、優秀なる工業適應地として乙を是認したりと云ふ。由來商港の繁榮は後背地域に大生産、若くは大消費地を控ふるに非らざれば、假令地形上要素を備ふるとも、發展を來し難きは勿論に付本港永遠の繁榮を期し苟くも一大商港たらんと欲せば、須べからく製造工業を起し、市民各自の絶大なる活動と、多大の奮勵努力に依りて、一大貨物集散地と化し、以て由緒淺からざる本港の聲價を傷けざらんことを敢へて希ふ所以なり。

本港の聲價



小樽港　　図1



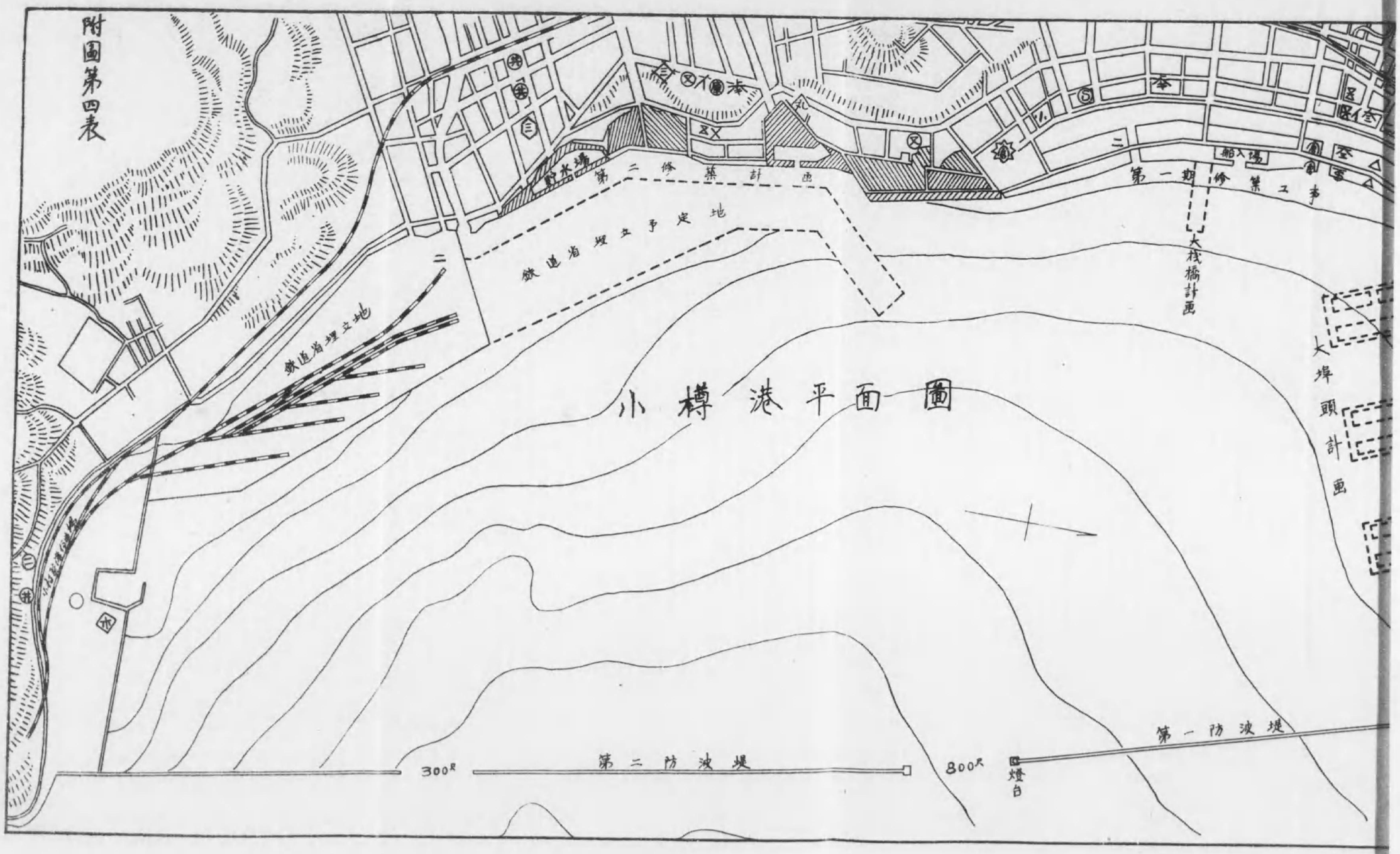


毎秒時六米以上ノ風速ヲ自乗シテ各月別ニ累計シ其二ヶ年間ノ平均数ヲ風力ニ換算シ受圧面毎平方尺ニ封度ヲ以テ一瓩トシテノ画キダリ

沿岸倉庫坪数調

商標	倉庫名稱	棟数	坪数	商標	倉庫名稱	棟数	坪数
鳳	稲積倉庫	20	1.369	二	西谷倉庫	4	424
イ	板谷 〃	6	591	二	郵船 〃	9	1587
又	猪股 〃	6	532	△	集鱗 〃	2	528
小	小樽 〃	5	599	〃	石近 〃	1	297
三	岡崎 〃	7	426	奈	藤山 〃	3	485
奈	高橋 〃	7	1.796	允	佐藤 〃	2	564
又	岡田 〃	4	190	玉	小樽物産 〃	1	770
濱	浪華 〃	5	954	X	廣海 〃	2	190
中	中村 〃	18	1.399	五	渋澤 〃	16	2640
共	共同 〃	10	2.722	分	木村 〃	1	50
S	小樽商品 〃	4	490	漁	漁港 〃	2	282
二	北都 〃	2	240	北	北海製罐 〃	2	1829
○	栗山 〃	2	480	專	專賣局 〃	9	996
三	日東 〃	4	155	☆	糧秣廠 〃	1	212
小	小樽木材 〃	2	150				

附圖第四表


小樽港平面圖
第二修築計画
第一期修築工事
大桟橋計画
船入場
鉄道省埋立地
鉄道省埋立予定地
大埠頭計画
第二防波堤
300尺
800尺
第一防波堤
燈台

五　小　樽　港

位置及廣袤

後志國の北端に在り東經百四十度一分、北緯四十三度十二分に位し東は小樽郡に、西は高島郡に連り、背後は蜿蜒起伏連亘せる山嶺を控へ、北は高島の茅柴岬、南は熊碓の平磯岬を以て抱擁せられ、石狩灣に面して港口を東北に開き、港内水深く天然の良港たる素質を有し、更に工費七百三十六萬圓を投じたる築港は既に完成し、第一防波堤と第二防波堤間は八百呎の大港門を設けて大船の出入に供し、第二防波堤と第三防波堤間にも小港門を設けて漁船の出入に便し、百三十萬坪の靜穩なる水面積は好く百數十艘の汽船を停泊せしむるに足り、本港の繁榮を促進したる亦築港完成に起因する所鮮少ならざるべし。

天然の良港

本港修築

市營修築

市營港灣修築第一期工事は大正十二年九月竣工したるが、之と關聯し將來の國有鐵道埋立工事と聯絡を保ちて、海陸連絡設備を完成せしむべき第二期工事は、同十二年十月市會の協賛を經、翌年十月港灣調査會の可決を見たるに依り、起債の認可あり次第起工し四ヶ年にして竣工の豫定なり。（附圖第四表參照）

計畫の大要

市内堺町地先より南方勝納川附近に到る沿岸を埋築し、將來國有鐵道埋立工事完成の曉に之と連絡を保たしめ、量德町通前面より勝納川流末附近信香町地先一帶の海面を貯木場と爲すものにして、即ち第一區中港岸に接したる部分は繫船岸壁とし從來の不便なる碇繫荷役を接岸荷役に改め、其後方には鐵骨亞鉛板張りの上家を建設して貨物取扱上に便し、內部埋立地には市街、道路、及第一期工事と連絡せる道路を築造し、又國有鐵道埋立埠頭工事完成の曉、之れと連絡すべき鐵道線路用地を存置し、其餘は倉庫地と爲し國有鐵道埋立豫定地と相對せる一區以下の部分は、艀船通航、及繫留に便する爲幅員三十三間の運河を設くることとし、在來の入舟町船入潤は水面積の一部分を殘し埋築して倉庫地に充て、三區埋築地亦所要の通路敷地を除き全部を倉庫地と爲せり。

接岸荷役に改良

鐵道線路敷設用地

倉庫敷

貯木場

又貯木場としては厩町地先築港工事工場用地跡、及其前面、並に有幌町、信香町の在來沿岸を利用するに過ぎざるに依り、第四區の大部分を之を充て突堤を築造して水面積二千八百六十餘坪を被覆し、且沿岸を埋築して二千二百餘坪を得て、將來鐵道貨物線引込に充つると共に陸上貯木場として使用し、且水中貯藏木材に對する蟲害を少からしむる爲、勝納川の河水を導水して貯木場に注ぎ以て鹹水を緩和し國有鐵道埋立工事完成の曉は、本工事及市街との連絡を保たしむる爲、二ヶ所の運河橋を架設する豫定にして、工事施工の便宜上之を四區に分轄したり。

工區別	埋築面積	港岸線延長	摘要
第一區	八、九四三坪	二三二間	內百六十間は繫船岸壁とす
第二區	二、五四七	二一五	別に船入場水面積千百九十六坪あり
第三區	四、〇七八	一二九	
第四區	四、六三六	二三九	別に突堤面積百八十一坪貯木場水面積二千八百六十四坪とす

繫船岸壁　第一區に於て直接港岸に面せる部分延長百六十間を繫船岸壁としたるは、國有鐵道埋立豫定埠頭に近接することなく且附近一帶の水深亦多大の淩渫を要せず、比較的經濟的に施工し得るものにして千五百噸級の船舶を同時に三艘の接岸荷役を爲さしめ得べし。然して其岸壁有效延長を百五十間とし、一間當り一ヶ年の取扱を七百五十噸と査定する時は年額十一萬二千五百噸を消化し得べき見込なり。

接岸荷役能力

上屋及倉庫地　上屋地、繫船岸壁に接續せる地域一千二百九十五坪なるも、沿岸幅員三間通を貨物積卸取扱用として控除する時は、建物敷地として八百十五坪を得るも、其內事務室、通路、其他の所要積三割を差引五百七十坪となり、一面坪當りの貨物收容力を平均二噸として、平均留置を三日間として、年間取扱日數を三百日とせば十一萬四千二十噸となり、繫船岸壁荷役能力と大差なきを以て、岸壁前端より三間の後に、間口四十九間、梁間四間半、梁下高十八尺の鐵骨亞鉛板張の上屋三棟を建築することゝしたり。又倉庫敷地の面積一萬百四十八坪の內、通路其他の所要積として其の四割を控除する時は、實際倉庫內貨物蓄積有效面積六千八十八坪一面坪當り收容力を四噸とし、在庫期間五十日を見込む時は、年間取扱貨物量十七萬七千七百九十三噸となる計算なり。

倉庫敷容能力

貯木場　陸上二千二百七坪、水面二千八百六十四坪、計五千七十一坪なるも、筏の通航路、車馬の通路として五割を控除する時は、有效面積水中一千四百三十二坪、陸上一千百三坪となる。然して之が利用を各地の實例に徵するに水中貯木場に在りては水深六呎、水面上十二呎迄、陸上貯木場に於ては地上十二呎迄、

面積

水中貯木

陸上貯木

疊積貯木し得べき見込にして、一面坪當りの疊積容量、水中貯木場は六十四石八斗、陸上は四十三石二斗となる計算なるも實際に當りては疊積せる木材の空隙を考慮するを要し、其空隙に關する算定は木材個々の材積の大小及曲直等に依り容易に一定し難きも、平均一割内外と見做し水中貯木を五十八石三斗、陸上貯木を三十八石九斗、と査定する時は前者八萬三千四百九十一石四斗、後者四萬二千九百三十六石六斗、計十二萬六千四百二十八石、を一時に收容し得る算定にして、當港既往に於ける木材取引の狀況に徴すれば平均九十日内外を以て在荷の一轉機と爲し居るが故に、一ヶ年間に四回の轉換を爲す計算となり、年額五十萬五千百十二石二斗、卽ち十二萬六千四百二十八噸八分を消化し得べし。

在貨の一轉機

荷役能力　本計畫の立岩以南、勝納川間貨物取扱量を前項の計算に準據する時は、次の如くにして總噸數四十一萬八千三百四十一噸となる。

上屋取扱量	十一萬四千百二十噸
倉庫取扱量	十七萬七千七百九十三噸
貯木場同	十二萬六千四百二十八噸

運輸の現狀

北海道の關門港

小樽、札幌の二大消費地や農產、林產、鑛產物の生產無限と稱する奥地を後背として發達し、今や函館港の繁榮を凌駕して眞に北海道の關門港たる感ありと雖も、本港に於ける主要移出物たる農產品は奥地より鐵道輸送し來り、南小樽又は手宮驛到着後車馬又は艀舟にて沿岸倉庫に運搬し、更に倉庫より艀舟にて本船に積替を爲し、木材亦停車場構内より海中に投込み筏組として本船に積込むものにして恰も、僻地に散見する小港の如き狀態を呈せり。

幼稚なる荷役

又手宮驛到着石炭は船舶焚料過半を占め、殊に露領亞細亞、樺太等との交通頻繁となりたる結果、船舶焚料一層增加したるが輸移出炭は室蘭港の半數にも滿たざる爲、國有鐵道の經營に掛る石炭船積高架棧橋の利用、亦比較的低下したるも高架棧橋を利用したる場合の船積費は、次の如く艀船取り船積費の三分の一にも滿たざる結果、近年船舶焚料炭艀船取りの場合にも高架棧橋を利用するもの漸次增加したり。而して高架棧橋を利用する場合に在りても到着の儘高架棧橋に押上ぐる所謂直通炭、と一旦貯炭場に取卸され更に貨車積の上高架棧橋に押出さるゝ押出炭、とは船積費用に於て倍額に相當するのみならず、押出炭は貨車積卸回數を增加する爲に石炭を紛碎すること多く、從つて一般に直通炭を歡迎する傾向を有す。

石炭船積高架棧橋の利用

港灣貯炭

然れども北海道の炭坑は坑所貯炭極めて少く主として港灣貯炭なるが故に、九州に於ける港灣の如く之を全然車上貯炭たらしめ得ざる事情あるも、近時運炭船に大型汽船を使用するもの增加するに伴ひ、高架棧橋設備上にも缺陷を生じ、加ふるに貯炭場より高架棧橋に通ずる線路は著しく迂回して急勾配を押上ぐると、且は曲線の關係にて押上機關車に大型を使用し得ざる、等の不便もあり。其他船舶焚料炭船積設備等は到着石炭の增加と共に改善を要すべきこと勿論なるべし。

艀船の遭難

猶本港は築港完成したる今日に在りても、今猶艀船の遭難夥しく爲めに艀船保險料の高率なる他に類例を見ずと稱せらる。尤も本港には測候所なき爲價格の變動其他商取引の利害關係を考慮し、故意に遭難せしむものありと聞く。此等不正行爲今にして反省するなくば延て本港將來の發達を傷くるなきかを憂ふ。

高架棧橋船積	貨車取卸料	同積込料	同棧橋卸料	船舶揚均料	棧橋使用料	計
直通炭押出散	錢	錢	錢	錢	錢	錢
	二、三	一、八	四、七	六、〇	一九、五	三〇、二
艀船取船積	貨車卸料	艀貨	計			
	錢	錢	錢			
吸入	二、三	一一四、〇	一一六、三			

外國貿易

海運貨物　大正十一、十二年中に於ける海運貨物の貿易徑路は、第八號表の通にして、外國貿易の主なるものは米國より軌條、小麥粉、石油類を、露領亞細亞より木材類、支那、關東州より食鹽、豆糟、等佛領印度よりは砂糖等を輸入し。英米兩國へ豌豆を、英、米、支那、濠州、白國、等へ木材類を、米國へ隱元豆を露領亞細亞へ米、及玉葱、其他を輸出するものゝ如し。

內國貿易

又內國貿易の移入品中藁工品は數量に於て首位を占め、米、肥料、生魚介、食鹽、蔬菜及果實、木材、鐵材、藺製品、砂糖、礦油、和洋酒、織物類、等にして、移出の最大量は石炭、木材にして其他豆類、海產肥料、藁製品、食鹽、木炭、燕麥、鹽干魚、雜穀、和洋酒、米、油類、等にして何れも一萬噸以上を算し、本港內國貿易貨物中の主要品たり。然して本港と最も交涉多きものは橫濱、伏木港なるが伏木港よりは藁工品米、織物類、製綿、人造肥料、等を移入して石炭、海產肥料、燕麥、豆類、木炭、和洋紙、木材、生魚介等を移出し、橫濱よりは人造肥料、砂糖、鐵材、藁工品、麥其他を移入して石炭、木材、木炭、燕麥等を移出し、新潟、東京、大阪、神戶、樺太、門司、七尾、滑川、天鹽等は移出入何れも五千噸以上を算し、其他船

主なる取引港

川、名古屋、直江津、眞岡、敦賀、四日市、下關、青森、尾の道、清水港は移出に於て、魚津、酒田、夷、利尻島、佐渡等は移入に於て、五千噸以上を算し樞要なる取引港たり。

鐵道貨物　本港々灣地域に現存せる小樽、南小樽、小樽築港、手宮、の四驛に着發する鐵道貨物を大正十一、十二年中の實績に徵するに第九號表の通にして、到着貨物の首位を占むる石炭は主として石狩炭田に屬し、美唄炭最も多く次て萬字線、幾春別、砂川、及幌內線、其他茂尻、夕張線、等なるが近時芦別附近より到着するもの亦尠からざるも大正八、九年頃石炭の需要旺盛なりし當時の如く留萌炭田系に屬する石炭は到着少く現今は四、五千噸程度に過ぎず、第二位の木材は網走支廳管內首位を占め、次て上川、空知支廳等何れも二萬噸以上を發送し、第三位の雜穀は河西支廳管內發送最も多く、空知、網走、上川支廳、等亦五千噸以上に達し、第四位の薪炭類は膽振、支廳の發送に次て河西、網走、空知支廳等の順序なり。

到着貨物

發送貨物

又發送貨物の首位を占むる藁工品は膽振、後志、空知、網走、河西、上川、支廳管內に仕向けらるるものにして、第二位たる鐵及鋼の主なる到着驛は上川支廳及札幌、旭川市並に石狩、宗谷、網走、河西、空知支廳管內等にして發送貨物の總量は到著貨物、總量の五分の一にも滿たざる如きは、加工品又は食料品等が其主なるものにして、到着貨物の如く石炭、木材、雜穀、薪炭等大量貨物少き結果に外ならざるも鐵道貨物の到着と海運貨物輸移出數量大なるに反し、輸移入數量と鐵道發送貨物とは共に少額なるを觀ても、本港集散貨物は主として海陸連絡運輸系統に屬し常に出超なることを窺知し得べし。

運輸系統

海陸連絡の狀勢

小樽港

海上運送と陸上輸送との比較

大正十一、十二年中に於ける本港内外貿易貨物と小樽外三驛發着鐵道貨物數量を品目別に調査して、之を對比するに第十號表の通、大正十一年に於ける米の移入五萬一千噸餘、鐵道便到着一萬七千餘噸、計六萬八千餘噸、の内鐵道便發送一萬六千餘噸、移出一萬六千餘噸、計三萬六千餘噸を差引きたる三萬二千餘噸は本市に於て消費せられたるか、或は貯藏となりたる數量なるべく、雜穀は輸入四千餘噸移入一萬七千餘噸、鐵道便到着十二萬六千餘噸、計十四萬八千餘噸の内鐵道便發送一萬四千餘噸、輸出二萬七千餘噸、移出十萬六千餘噸、計十四萬八千餘噸を差引百二十九噸は本市の消費又は貯藏となり。石炭は海上輸移入なく、鐵道便到着百二十一萬七千餘噸の内、鐵道便發送一萬四千餘噸、輸出一萬五千餘噸、移出六十五萬八千餘噸、計六十八萬八千餘噸を差引五十二萬九千餘噸、外に船舶焚料炭として四十七萬四千餘噸を積出したるに依り、結局五萬五千餘噸が、消費又は貯藏となりたる數量なり。之れに反し大豆、鹽干魚、澱紛類味噌、醬油類、肥料、飼料、鐵及鋼、油脂蠟等にして海陸輸移入計より輸移出計の方大なる計數を示したるは前年よりの貯藏ありたるものと知り得へし。

貿易貨物の潮流

同年度末の決算は外國貿易輸入七萬三千餘噸、内國貿易移入六十三萬一千餘噸、鐵道便到着百九十三萬二千餘噸、合計二百六十三萬七千餘噸の内、鐵道發送三十六萬三千餘噸、輸出十三萬九千餘噸、移出百三十六萬一千餘噸、計百八十六萬四千餘噸を差引七十七萬三千餘噸、が本市の消費又は貯藏となれるものにして海上輸移入七十萬五千餘噸の内、三十六萬三千餘噸を鐵道便にて發送し、鐵道便到着百九十三萬二千餘噸の内百三十六萬一千餘噸は海上移送されたること丶なり、陸より海へ移送されたるものは七割七分に相當し、海より陸へ繼送されたるものが五割一分を占む。

海陸連絡運輸の旺盛

大正十二年に海上輸入五萬餘噸、移入七十二萬餘噸、鐵道便到着百九十二萬八千餘噸、計二百七十萬餘噸の内、鐵道便發送三十五萬三千餘噸、海上輸出十二萬二千餘噸、移出百二十八萬六千餘噸、計百七十六萬二千餘噸を控除したる九十三萬七千餘噸の内、船舶焚料五十九萬二千餘噸を差引四十一萬四千餘噸は本市の消費又は貯藏となれる數量にして、陸より海へ移送されたるものは七割三分にして、海より陸へ繼送されたるものは四割六分を相當せり。尤も其内若干は本市に於て生産されたるものを含むと雖も、大數を動す程度に非されば海陸連絡運輸の旺盛を反映するに足り、其前途に多大の繁榮を豫期し得べく、本港に於ける陸上設備を完全ならしむるに至らば、道内の生産消費地と、海外とを最も低廉に連絡するを以て、内は商工業の發達を助長し、併せて外國貿易の隆昌を招來すること極めて容易なるべきを考ふ。

運輸量の推定及荷役力の對比

外國貿易の推移

大正元年以降に於ける内外貿易貨物の輸移出入量、及小樽外三驛鐵道貨物の着發數量は第十一號表の通にして、外國貿易輸入は大正九年以前增進率低く且つ大なる消長なかりしが、大正十年以降露領亞細亞の木材類入津ありて擡頭したるも、同十二年に至りて伐木事業頓挫し稍々沈滯を示し、輸出の大正四年以降累年低減したるは、主要貿易品たる木材類の輸出が從來素材なりしを、近時仕向先の用途に依りて之を製材加工して、船積するに至りたる結果なり。

内國貿易の推移

内國貿易移入は大正五、六年に減退したるも、同七、八年の好況時代に增進し同九年の不況に際して又著しき低下を示したるも爾後年々累加し、移出は大正五年末より翌六年に亘り、歐州戰亂の餘波を受けて一時

衰退したるも、其後順調に發達して今や百三十萬噸を突破する盛況を呈したり。

鐵道貨物の推移

又鐵道貨物の發送は多少の消長あれども、遂年累進し到着貨物の大正五、六年に於ける減少は、小樽築港驛到着木材並に手宮驛到着石炭其他減少したる結果なれども、同八年に至りて之を挽回し其後多少增減ありたれども今や二百萬噸を超過し、鐵道到着貨物の增減と海上輸移出、及輸移入と鐵道發送貨物とは、大約其盛衰を共にするもの〻如し。然して大正二年以降同十一年迄の實績を基礎とし、直線式最小自乘法に依りて、將來の運輸量を推算したるに、附圖第五表の通にして外國貿易貨物は增加率なく、內國貿易貨物は大正二十五年に二百五十三萬一千餘噸、鐵道貨物の同年度推定は三百三十二萬九千餘噸と算定したり。

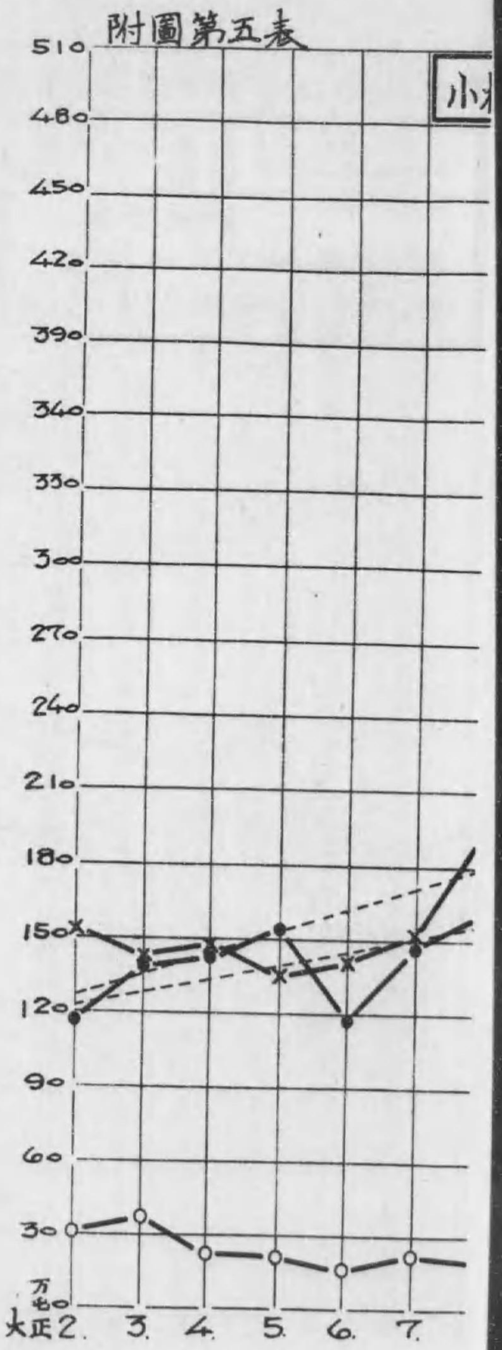
大正二十五年に於ける運輸量

港內碇泊せしめ得べき船數

本港の水面積を百三十萬坪とせば、百噸以上四、五千噸級以下の船舶を同時に百數十隻を繫留し得べく、一ケ年間の船舶登簿噸數千百八十六萬二千餘噸となり、之を大正十一、十二年中の實績と對比せば次の如くにして、大約現在の二倍に相當する船舶を出入せしめ得べしと雖も、本港は船舶用焚料炭積込みの爲入港するもの增加すべき氣勢顯著なれば、入港船舶の增加と共に貿易貨物增大せしめ得ざること勿論なり。而して其內幾何量が接岸荷役を必要とすべきかは容易に決定し得ざるも、木材、石炭は總噸數の三割を占むるに依り假りに之を除きたるものの、五割を接岸荷役たらしむるものとせば、大正二十五年には約九十九萬六千噸を消化せしめざるべからず、故に目下施工せんとする陸上設備は殆んど其三分の一にも滿たざる程度なれば、引續き第三期第四期と漸を追ふて竣工せしむるを適當とすべし。

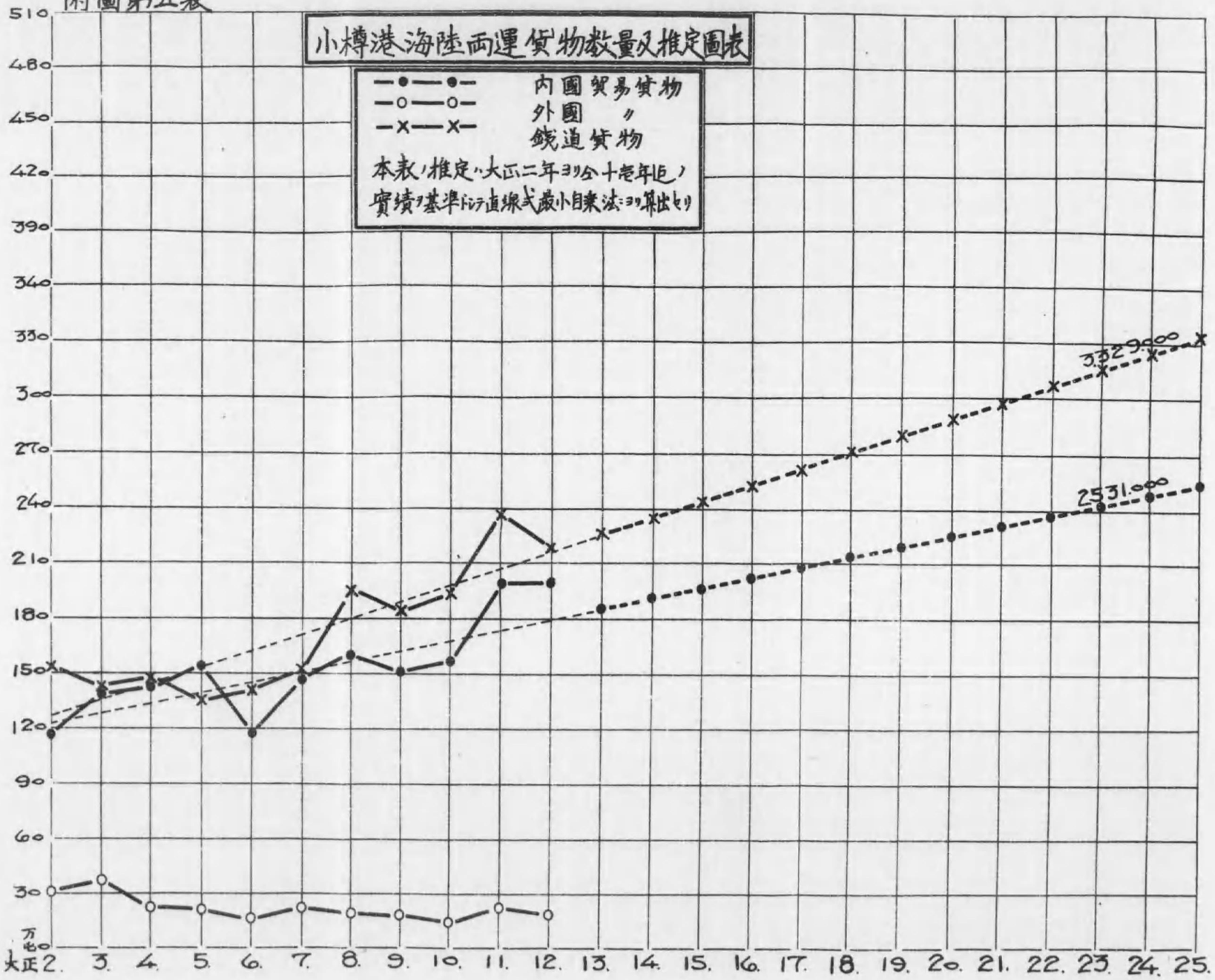
接岸荷役の必要程度

年度	隻數	登簿噸數	貿易貨物總噸數
大正十一年	二二、八五〇隻	五、二六九、七七七噸	二、二〇五、五四五噸



小樽港	一般貨物	散物荒荷	計
南小樽	—	—	—
	—	—	—
	六四〇	一、二六、八〇〇	一、三三、一九四
	一、三三四	三六一、七二五	三三五、九〇三

附圖第五表



港内碇泊せしめ得べき船數

接岸荷役の必要程度

一ケ年間の船舶登簿噸數千百八十六萬二千餘噸となり、之を大正十一、十二年中の實績と對比せば次の如くにして、大約現在の二倍に相當する船舶を出入せしめ得べしと雖も、本港は船舶用焚料炭積込みの爲入港するもの増加すべき氣勢顯著なれば、入港船舶の増加と共に貿易貨物増大せしめ得ざること勿論なり。而して其内幾何量が接岸荷役を必要とすべきかは容易に決定し得ざるも、木材、石炭は總噸數の三割を占むるに依り假りに之を除きたるものの、五割を接岸荷役たらしむるものとせば、大正二十五年には約九十九萬六千噸を消化せしめざるべからず、故に目下施工せんとする陸上設備は殆んど其三分の一にも滿たざる程度なれば、引續き第三期第四期と漸を追ふて竣工せしむるを適當とすべし。

年度	隻數	登簿噸數	貿易貨物總噸數
大正十一年	二二、八五〇隻	五、二六九、七七七噸	二、二〇五、五四五噸

衰退したるも、其後順調に發達して今や百三十萬噸を突破する盛況を呈したり。

鐵道貨物の推移

又鐵道貨物の發送は多少の消長あれども、逐年暴進し到着貨物の大正五、六年に於ける減少は、小樽築港驛

同　十一年　一三、九三七　六、二〇〇、七五二　二、一八〇、九五五

推定能力　——　一一、八六二、五〇〇　——

鐵道貨物の小運送

石炭船積高架棧橋

貨物積卸場及荷役の分類

翻つて鐵道貨物の輸送狀況を顧みるに、小樽及南小樽の兩驛に於ける小運送は總て車馬搬出入なれども、小樽築港及手宮兩驛は車馬にて小運送するものと、艀船にて搬出入するものとあり。殊に手宮驛に在りては船積石炭輸送繁劇なる爲め、海上に突出せる幅員七十呎、延長九百四十八呎、高さ滿潮面上六十一呎餘、の石炭船積高架棧橋を築造し、石炭積取汽船四隻を同時に繫留せしめて、一車三十噸の積載能力を有する鐵製石炭車四輛を連結し、石炭搭載の儘機關車にて棧橋上に押上げ、石炭車の自動製置と棧橋の漏斗設備とに依りて、直ちに船艙内に落下せしむるものにして、其汽船積能力は一ヶ年約二百萬噸と稱せらるゝに依り、石炭の取扱を切り放ち他の貨物に就き、車馬荷役艀舟荷役とに區別し、更に一般貨物及散物荒荷とに分類して作業能力を調査したるに次の如し。

驛名	種別	艀船搬出入 面積 坪	艀船搬出入 荷役能力 實績 噸	車馬搬出入 面積 坪	車馬搬出入 荷役能力 實績 噸
小樽	一般貨物			五〇三	一六七、三三五
	散物荒荷			三八〇	六九、三四〇
	計			八八三	二三六、八八五
南小樽	一般貨物			八八四	二四四、九一五
	散物荒荷			六四〇	一一六、八〇〇
	計			一、五二四	三六一、七一五

場限取扱及荷の整理役制

沿岸倉庫敷地引線

然して小樽、南小樽及小樽築港等は取扱の制限荷役場の整理に依りて之を緩和し得べき見込みなるも、手宮驛に於ける艀船荷役場の不足は停車場構内の沿岸延長短少なる爲擴張の餘地なき故、市營第一期埋立地の倉庫敷地に鐵道引込線を敷設して小運送費の節約を計り、且荷役場の混雜を救濟せざるべからず。又鐵道貨物の市内集散狀況を調査したるに次の如き比率を示し、專用側線にて積卸されたるものは、總て海陸連絡貨物にして水運關係なる爲結局全般に於て艀船扱となりたるもの多數なれども、停車場構内にて積卸されたるものは車馬にて搬出入するもの大部分を占む。而して此等の物資は市内の生產消費に限らず、沿岸倉庫出

總計			手宮			小樽築港		
計	專用側線	散物荒荷	一般貨物	計	專用側線	散物荒荷	一般貨物	計
一、一四一	—	五四四	三七〇	三七〇	—	—	一〇〇	一〇〇
三四四、〇六〇	—	一〇六、〇〇一	一三五、〇五〇	一三五、〇五〇	—	一〇六、〇六〇	七、〇〇〇	一一三、〇六〇
二二六、七四二	一四〇、三六一	八四、二二一	二六二、九九九	四六六、九九九	一四〇、三六一	八四、二二一	二六、四三一	二六、四三一
一、四四一	—	八〇一、一	一四六	一、四六六	—	八〇一	四〇〇	四〇〇
四六、一四一、一	—	三六、二一〇、一	四六、一六〇	四六、一六〇	—	三六、二一〇	一、四〇〇	一、四〇〇
九、九七三	九、九七三	二、二四一	一、二四一	一、二四一	—	二、二四一	一、二四一	一、二四一
一九〇、一七四	一、二四一	一、二四一、〇六〇	一、二四一、〇六〇	一、二四一、〇六〇	一、二四一	一、二四一、〇六〇	一、二四一、〇六〇	一、二四一、〇六〇

由發車場馬の遞送

の遞送比較賃率

型式

入のもの亦車馬を利用するもの多し、嘗て統計學者の計算したる比較を觀るに、海運賃を一とせば運河は四に該り、鐵道賃は二〇にして道路の車馬賃は實に六〇に相當すと唱へられ、賃率の高き陸上小運送を如何發達せしめたる理由奈邊にあるか、曰く手宮驛構内艀船荷役力不足の爲車馬を利用するものなりと、是れ一應首肯するに足らと雖も、函館港其他に在りても車馬の利用比較的旺盛にして、賃率亦艀船賃と大差なきを顧みれば、或は冬季海上作業の困難なるに累せられて、比較的艀船賃高率なるに反し、陸上に轉を使用して輕快なる運搬を爲し得べきと、且つは優良なる馬匹を得ること容易なる爲、車馬賃低率なるに起因するに非らざるなきかを考ふ、果して然らば統計學者の證明も本邊には之を適用し得ざる結果となるべき乎。

種類	專用線	荒荷	一般	計
搬艀出船	38	20	42	100
搬車出馬	一〇	三一	三〇	四一
計	一〇	三一	三〇	四一
搬艀出船	15	27	53	100
搬車出馬	—	六八	七〇	五九
計	一〇	一〇	一〇	一〇
搬艀入船	6	94		100
搬車入馬	—	四四	三四	三四
計	四	四四	三四	三四
搬艀入船	4	3	93	100
搬車入馬	一〇	五六	六六	六六
計	一〇	五六	六六	六六
搬艀入船	3	4	93	100
搬車入馬	一〇	一〇	一〇	一〇
計	一〇	一〇	一〇	一〇
總計 艀船	28	16	56	100
總計 車馬	四〇	三三	三二	四〇
總計 計	四〇	三三	三二	四〇
總計 艀船	1	22	79	100
總計 車馬	四三	六七	六八	六〇
總計 計	四三	六七	六八	六〇
總計 艀船	12	20	68	100
總計 車馬	一〇	一〇	一〇	一〇
總計 計	一〇	一〇	一〇	一〇

猶海上高架機械は木造「ドレッスル」型にして、四十箇の石炭積出漏斗を有し、室蘭港の設備と同一型式なり。而して同港に於ては大正八年百三十四萬噸を最高とし、爾後設備の一部に改良を施して能力增進を企圖

したる結果、年間二百七十萬噸を消化し得べしと稱せらるゝも、本港に於ける高架棧橋は、貯炭場の位置、構内配線、其他押上線に半徑四鎖の曲線、ある等設備上の缺陷ありて、室蘭港同樣の能力を發揮し得ざるべきを以て、大約二百萬噸と見做すを適當とすべし。其外艀舟取りとなる貯炭場面積は一萬七千坪を有し、最大貯炭能力十三萬噸に達し年間約百三十萬噸を消化し得べしと稱せらるゝも、今假りに其三割減と見積り九十一萬噸と査定する時は、海上高架棧橋と合せ二百九十一萬噸の船積能力を有するにも拘はらず、大正元年以降の船積石炭は第十二號表の通にして、大正七年以前は五十萬噸にも滿たず同八年以降急劇に增加して同十一年には百十六萬六千餘噸を算し、高架棧橋の利用亦增進したりと雖も、船積能力の二分の一に過ぎざる狀態なるを以て充分の彈力を有するも、本高架棧橋は木造の爲年々多大の保修費を要し、加ふるに修繕中積込作業を休止せしむる如きは、輸送上の影響亦尠からざるのみならず、水中杭は海蟲の爲著しく侵蝕され既に危險狀態に達せるを以て、應急補强施設として大正十二年度より鐵筋混凝土管、被覆工事を施し、僅かに目前の危險を防止しつゝあり。

石炭汽船積能力
石炭艀船積能力
石炭船積高架棧橋の缺陷

本港の任務

本邦に於ける有數の商港
後背地域の大富源

拓殖事業の進捗と歐洲戰亂に因る海運界の殷盛に伴ひ、且樺太、露領亞細亞方面の交通頓に劇增したる結果、船舶の出入亦頻繁にして、本邦に於ける有數の商港となり、前途に多大の繁榮を豫期し得べきは、背後に石狩、後志、膽振、北見、天鹽なる、三市、七支廳の大富源を控へ殆んど全道の過半を占め、其範圍内の生產物にして道外に移出せらるゝものは、總て本港を經由せざることなく、此等各地に供給せらるゝ物資亦本港に依りて集散せらるゝものなるが故に、本港は本道の關門港として否北日本に於ける一大貿易港として其使命の益々多端なるべきを感ぜらる。

美唄炭の活躍

猶美唄炭は夕張炭の如く瓦斯發生に基因する採掘上の障害尠きのみならず、炭質は不粘結性にして發熱力强く、且夾雜物極めて少なき爲汽罐用として最も優良と見做され、現に美唄炭坑は新に竪坑を開鑿し、芦別炭坑亦事業の擴張を策して、斯業躍進の機運に在るが、陸路輸送距離に於て本港は室蘭港より三十餘哩近距離となり、加ふるに常に備船上の便宜ある爲、美唄、空知、幌内炭は、本港積出を便宜とするは勿論にして夕張炭と雖も現在の如く室蘭港を唯一の積出港としては、商畧上其他に不便を感ずるに依り、火山灰輸送を目的として敷設せられたる夕張、栗山間鐵道全通の曉は、必要に應じて本港船積輸送にも利便あるものゝ如く推せらる故に本港は石炭の撤出は勿論航行船舶にも焚料炭を供給し所謂石炭港としても重大なる任務を兼帶すべきものと認めらる。

石炭港

海陸連絡施設の改善

市營第一期修築

港内は常に大船巨舶を浮べ、倉庫上家は沿岸を圍繞し、一見其殷盛を誇るに足ると雖も、其施設は多く舊式にして不經濟を忍ばざるべからず。加之本港に於ける石炭船積海上高架棧橋亦木造の爲、水中杭は海蟲に侵蝕されて改築を要する狀態に付、海陸運輸の聯絡を圓滑ならしめ且荷役簡捷を圖り經濟上の缺陷を補足すべき、市營第一期修築工事は既に竣工し、手宮以南立岩間に於て艀荷役に依り、農產品海產物及一般雜貨等年間約百萬噸を取扱はしめんとして、沿岸八百間に亘る公有水面五萬三千坪を使用し、島形及半島形に埋立

を爲し、地積三萬二千七百坪を得、且在來海岸に存在せる倉庫を其儘活用せしめんが爲に、埋立地との中間に水深八呎、幅員二十二間、長七百五十間、の運河を存置し之と港内との連絡上幅員十五間の航路三條を設けたり。

又南濱町地先第三區埋立地の中央部に面積二千七百餘坪の船入場を設け、小舟の繫留、及船客の昇降に便し各區埋立地を縱貫連絡すべき幅員七間の幹線道路を設け、且鐵道との連絡に便する爲道路に沿ひて幅四間半の臨港鐵道敷設用地を存したるに依り、先以て手宮驛より連絡する鐵道引込線を急施し、引續いて第二期修築工事を完成せしめんとするも此等は當面の懸案を解決するに過ぎざるを以て、將來を達觀し組織ある陸上設備を施して益々增加せんとする貨物の集散に對し支障なからしめ、以て本港永遠の隆昌を期せざるべからざるは勿論なり。

市營第二期修築

拓殖第二期計畫中の港灣修築

港灣施設として其筋にて目下計畫されつゝあるものを仄聞するに附圖第三表點線にて示したる如く、現在の手宮驛地先高架棧橋所在地より北濱町新埋立地運河入口に至る海岸を一直線に埋立て、更に之を直角に海面を櫛齒狀に滿潮面上、高さ六呎に埋立て、三個の埠頭を形成し、各其幅員を六十間、長さ百九十間とし、各埠頭間船渠の幅員を八十間とせり、埠頭の沿岸に水深二十呎、二十五呎、及三十呎三種の繫船壁を築造し一千噸乃至八千噸級の船舶繫留に適せしめ、專ら貨物船の用に供し、南濱町第二火防線通正面に於て、新埋立地海岸港口に向ひ、幅員二十間、長さ九十間、の棧橋を築造し其兩側の水深を二十五呎に浚渫し、以て三千噸級の客船及貨客混用船の繫留に充て、埋立地の面積は手宮驛地先中に於て、約五萬四百坪なり。

又陸上設備としては岸壁に沿ひて上屋倉庫を建設し、其前面に鐵道線路と移動起重機用、特別廣軌鐵道を敷設し、本線と連絡せしめ其他上下水道、電灯電力の裝置、等總て荷役上必要なる設備を施すものにして、專ら農産品及一般雜貨の取扱に對する諸設備なるものゝ如し。

築港の本港に及せる影響

風浪の慘害

防波堤築造以前の本港は、灣形廣濶に過ぎ冬季西北風に際して起る激浪は、遠く大洋より颶旋して灣内を襲ひ、船舶の碇繫安全ならざるのみならず、餘勢延て陸上家屋を犯し、或は沿岸構造物を破壞する等の慘害名狀すべからず。猶春秋東風に起因する荒浪は、屢々浮船の航通に危難あらしめ、水陸の交通を杜絶し、貨物積卸に不便を與へたるを以て、南北防波堤の築設を以て、修築事業中の最も緊急なるものとなし、就中北堤は西北風に際して起る所の激浪怒濤に對し、本港の大半を被覆し防波の效用上特に緊要なるを以て、本港の北端「ボンドマリ」に起り平磯岬に向ひ延長四千二百五十呎とし、其堤頭は水深四十五呎にして本港海岸の中央字立岩を距る四千五百呎に在り、本堤の始點に近く幅五十呎の航通路を設くるものを第一期工事と爲し、十ケ年繼續事業として明治三十五年五月工を起し、事業央にして三十七、八年の戰役あり、工事進行上爲に多少の影響を受けたるも、幸に四十一年五月を以て全く豫定の功を竣へ、第二期工事たる南防波堤は明治四十一年第一期工事に相踵て施工せるものにして、平磯岬に起り對岸字「ボンドマリ」に向ひ北十九度西方一直線に七千八百呎、北堤と相對して港口九百呎を存するものなりしが、波浪及海流の實驗に徵し、或は灣形、水深、海底地質、等に稽へ、設計を變更して本堤を二分し、陸地より三千七十六呎の半島堤と爲し、水路幅員三百八呎の副口を距てゝ、島堤三千二十一呎を築くことゝし、更に北堤千三百八十三呎を延長して

北防波堤の築設

南防波堤の築設

港口より襲はるゝ激浪の障害

第一安全區域

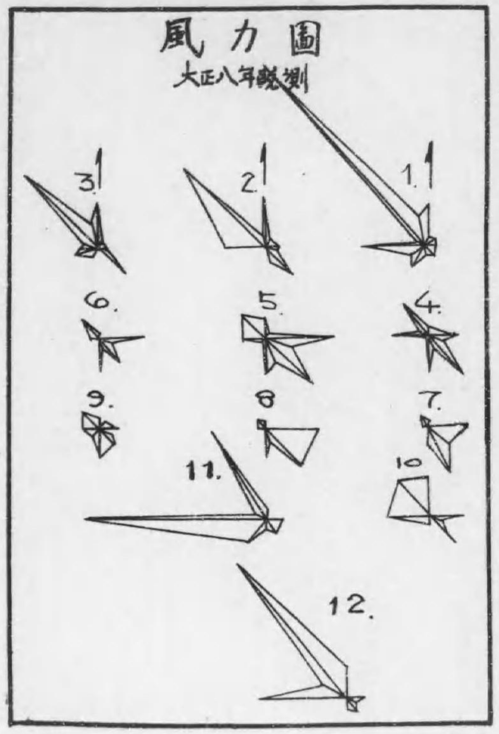
石炭木材荷役場の位置決定

港門を北方最深部に移設し、港口を八百呎に短縮して、兩堤頭に港灯を建設し、大正十年竣工したり。

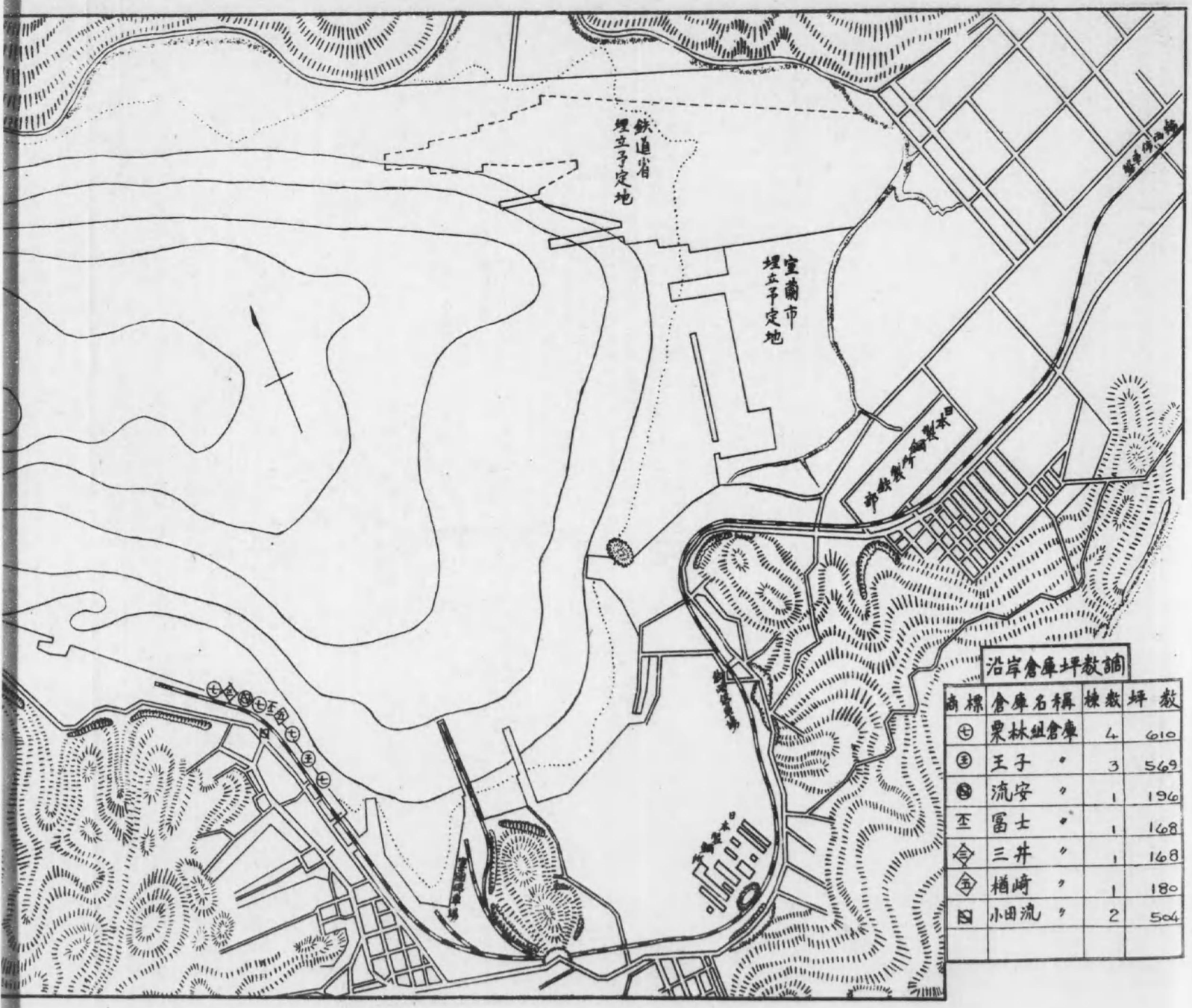
然して副口は港内海流の循環を容易ならしむる必要より起りたりと傳へらるゝが、三百呎の副港口の爲に國有鐵道の埋立地たる小樽築港驛附近沿岸は、風浪の爲再三破壞されたる事實に徵し、國有鐵道の豫定埋立地亦大港門より襲はるゝ激浪に妨げらるゝ虞れあり、故に防波堤築造に依りて港内を靜穩ならしめ本港の發達に稗益せしこと、蓋し鮮少ならざるべしと雖も、被覆せられたる水面積百三十萬坪の内、船舶の碇繫に便にして艀船荷役の十全を期し得べき區域は、北防波堤の提頭と船入川流末との見透し線内、約七十萬坪程度に過ぎざる爲、船舶は總て此附近に集中し沿岸倉庫は勿論、商取引の中心亦該圏内に密集するを以て、埠頭設備計畫案は農産品其他一般雜貨の取扱に最も適當なるのみならず、現在殆んど利用せられざる南防波堤の西南區域を活用せしむる點よりする時は、木材及石炭の取扱を國有鐵道埋立豫定地附近に移すを妥當とすべし。然れども本港に於ける移出炭は單なる貨物炭のみならず、船舶焚料炭として艀船積となるもの亦尠からざる數量に達するを以て、繫留船舶とは常に最短距離に連絡せしめ、且貯炭場に對しては艀船荷役能力を增進せしむる爲に、可及的物揚場延長を擴大せさるべからず。

加ふるに南防波堤の西南區域は啻に風浪の障害あるのみならず、海底地質は粘土、及火山灰盤多く船舶の投錨に不適當なりと見做され、現在の手宮停車場地先とは效力に於て雲泥の差あり、依つて埠頭設備に伴ふ石炭、木材類の取扱場移轉に關しては、愼重考究の上悔を後世に貽さゞらんことを要す。

加ふるに南防波堤の西南區域は啻に風浪の障害あるのみならず、海底地質は粘土、及火山灰盤多く船舶の投錨に不適當なりと見做され、現在の手宮停車場地先とは效力に於て雲泥の差あり、依つて埠頭設備に伴ふ石炭、木材類の取扱場移轉に關しては、愼重考究の上悔を後世に貽さゞらんことを要す。

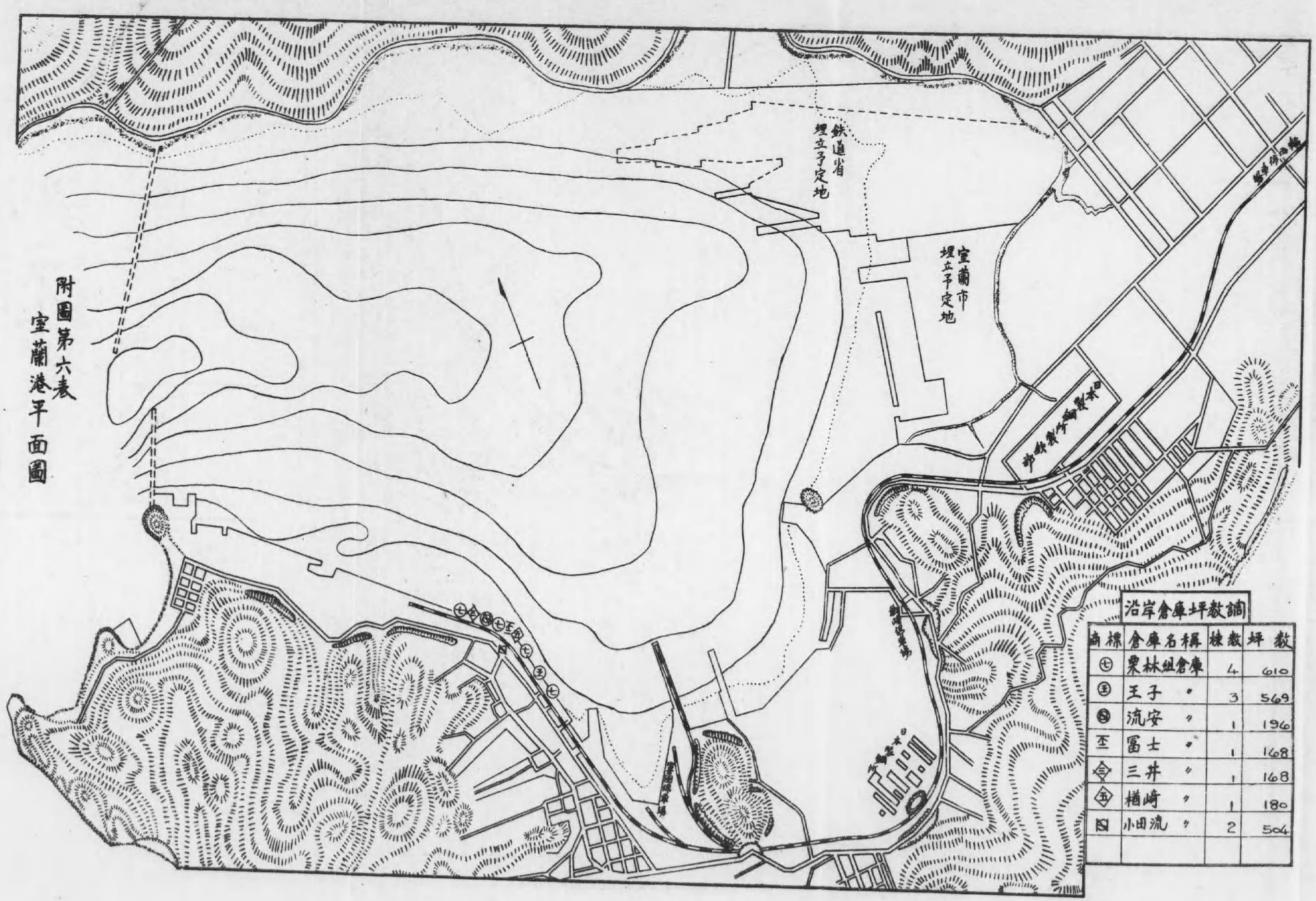


毎秋時大米突以上ノ風速ヲ自乘シテ各月別ニ集計シタル二ヶ年間ノ平均數ヲ風力ニ換算シ受壓面毎平方尺二封度ヲ以テ一粍トス



沿岸倉庫坪數調

商標	倉庫名稱	棟數	坪數
㊐	栗林組倉庫	4	610
㊐	王子 〃	3	569
㊐	流安 〃	1	196
㊐	冨士 〃	1	168
㊐	三井 〃	1	168
㊐	樋崎 〃	1	180
㊐	小田流 〃	2	504



附圖第六表
室蘭港平面圖

沿岸倉庫坪數調

商標	倉庫名稱	棟數	坪數
㊐	栗林組倉庫	4	610
㊐	王子 〃	3	569
㊐	流安 〃	1	196
丕	富士 〃	1	168
三	三井 〃	1	168
五	樋崎 〃	1	180
四	小田流 〃	2	504

六　室　蘭　港

位置及廣袤

噴火灣の南端に位置し東南北の三面は丘陵を以て抱圍され、港口を西北に開き内浦灣に面し幅員一浬にして、其間に海拔百二十尺、面積二千五百十四坪、島上に燈臺を設備せる大黑島あり。灣形巴形を爲して深く陸地に入り、東西一里二十六町、南北一里十町餘、港域三百四十二萬九千八百餘坪にして、水深大干潮平均十二呎以上、三十呎にして、硬盤に達すること遠く、海底地質は概ね細砂砂泥なれば錨爪に適し風濤の害少く天然の良港たり。

天然の良港

本港發達の由來

明治三年千舞鶴之室蘭の兩地に農民の移住を見、同五年には室蘭渡海場を設けられ、更に札幌に通ずる本街道を開鑿せられてより北海道の表玄關となりて漸次戸口を增し、同二十年頃現在の輪西驛附近に屯田兵の移住あり、同二十五年室蘭鐵道の開通以來石炭積出港として船舶の來往繁く、同二十六年には青森、函館、室蘭間の定期航路開け、翌年特別輸出港として發展したりしが、其後函館、小樽間鐵道の開通に依り奥地方面との交通上、非常なる變動を生じ函館港に繁榮を奪はれたる姿なりしも、同四十年日本製鋼所工場及製鐵所等の設立に依り一層の繁榮を招來したり。

北海道の表玄關

交通路變革の影響

修築計畫の大要

防波堤の築設

南北の防波堤を築設し二百三十八萬坪の水面積を被覆するものにして、南堤は港口の南岸祝津岬より北に向ひ延長千八百三十呎、北堤は對岸「ポロモイ」岬より南西に向ひ延長三千二百呎とし、共に水深五十呎の箇所に及び、兩堤頭は港門千二百尺を隔てゝ相對し、兩堤頭には滿潮面上三十五呎光達十浬の自動明暗の港灯を設く、又港内要部八萬三千七百余坪を水深二十四呎に、同二十八萬坪を三十呎に、浚渫し港内水深三十呎以上の面積約百三十五萬坪を得て安全區域を增大し、以て船舶の碇舶並に作業を保障して港灣の效用を一層增進せしめんとするにあり。

有効水面積

工事竣工程度

本工事は國庫支辨總工費三百五十萬圓、六ヶ年繼續事業として大正七年四月工を起せしが、歐洲戰亂終熄後財界不況の余波を受けて、既定年度及工費にて完成するに至らず、更に工費百五十萬圓を追加し、十三年度より五ヶ年を延長して之を繼續することゝなり、十三年三月末に於て南防波堤千六百呎、北防波堤千二百呎の築設及水面積卅三萬坪の浚渫を完成したり。（附圖第六表參照）

石炭船積狀況

運輸の現狀

本港の移出貨物百五、六十萬噸の内百二、三十萬噸が石炭にして、其六割以上は夕張系を以て占むる狀態なれば、夕張炭坑の盛衰は延て本港貿易貨物の消長を招くと云ふも敢て過言ならざるなり。而して石炭船積作業は、主として國有鐵道の經營に掛る海上高架棧橋を使用し、石炭列車を棧橋上に索き入れ、漏斗狀の船積機に依り石炭を貨車より直ちに船舶内に送り込む裝置にして、三、四千噸級の汽船なれば同時に四隻、五六千噸級の汽船なる時は二隻を繫留せしむ。而して一日の最高標準船積能力を九千六百噸と稱するに依り、石炭車一輛の積載能力を三十噸として三百二十輛分の石炭を要し、内一列車の連結車數を二十五輛として、一日四列車を指定急送するものとせば、百輛を即日船積に供し得べく、差引二百二十輛を抑留せしむる必要あるを以て、之に對應せしめ得べき側線の增設を爲して、船積費用の節約を助成することゝしたり。

船積費用節約の助成

又本港に於ける石炭船積費用は、左記の通にして直通炭は小樽港より低率なるが、押出炭は反ッて高率なる故、可及的直通炭の增加を計らさるべからず、又石炭以外の貿易品にして主なるものは輪西製鋼所の鐵及鋼、並に王子製紙會社苫小牧分社の洋紙にして、其他木材、薪炭、鮮魚、等なれども日本製鋼所着發以外の貨物は、艀船荷役にして沿岸倉庫は總て鐵道の連絡を有し、陸上荷役を簡捷ならしむる利便あり。

雜貨の荷役狀況

種別		高架棧橋積	貨車積卸及船艙掻均料	棧橋使用料	棧橋繫船料	計
直通炭						
押出炭		二、〇錢	一〇、八錢	一四、八錢	一、六錢	二七、二錢
			三六、〇	一四、八	一、六	五四、四
種別		艀舟取船積	貨車卸料	艀船取費		計
船積料	入積（叺）	二、〇錢	二、〇〇	一〇五、〇〇錢		一〇七、〇〇錢
	入積（散）			七五、〇〇		七七、〇〇
焚料	入積（叺）		二、〇〇	一一三、〇〇		一一五、〇〇
	入積（散）			八〇、〇〇		八二、〇〇

海運貨物　大正十一、十二年中に於ける海運貨物の貿易徑路を觀るに、第十三號表の通にして、外國貿易貨物中輸入の主なるものは、佛領印度又は支那の石炭、及鑛石にして鐵鑛は輪西製鐵所にて消化せらる。輸出は支那の木材、洋紙、及香港、「フイリツピン」、露領亞細亞、の石炭等二、三萬噸程度に過ぎざるなり。

外國貿易

內國貿易

內國貿易貨物の移出は百五、六十萬噸に達し內石炭は百二十萬噸以上を突破し、其主なる移出港は横濱を首位とし、次で名古屋、石濱、釜石、大阪、直江津、船川、清水、青森、半田、神戸、七尾、伏木等何れも一萬噸以上を算し、鐵及鋼は東京、大阪、横濱、名古屋港に仕向けられ、木炭の主なる仕向港は東京及青森其他横濱、新潟等にして、洋紙及木林は大阪、東京、青森港を主とし、鮮魚は青森港にのみ限られて移出さるゝもの〻如し、而して移出量の最高は横濱港にして次で青森、名古屋、東京、大阪、石濱、釜石、清水、直江津、七尾、船川港等の順序なるが、横濱港より移入するものは鐵製品、蔬菜、果實等其主なるものにして總量僅か四、五千噸に過ぎず、青森港よりの移入は米、藥工品、蔬菜、果實が主なるものにして移入總額に於て首位を占め、函館港よりは藥工品、「セメント」其他を移入し、鹽干魚、海產肥料其他を移出して移出入略均等を保ち得るも、其他の諸港は多く空船入港の上石炭其他を積出すもの〻如し。

主なる取引先

鐵道貨物　本港々灣地帶と認めらるゝ輪西、御崎、室蘭の三驛に着發する鐵道貨物を、大正十一、十二年中の實績に徵するに第十四號表の通にして、到着貨物の首位を占むる石炭は夕張系大部分にして、萬字線幾春別線、美唄炭、其他砂川、及幌內線、送出のもの亦尠からず。木材及薪炭は膽振支廳管內發送大多數にして、次で上川、宗谷支廳、管內なるが洋紙は膽振支廳所管の苫小牧驛發送首位を占め、石狩支廳管內江別驛發送も亦尠からざを數量に達せり。又發送貨物の主なるものは鐵及鋼並に其製品にして、苫小牧の諸工場、及夕張炭坑、其他旭川、札幌市等に仕向けられ、米は膽振支廳所管に分散するもの多く、空知支廳管內各炭坑に向け送り出さるゝもの亦相當數量に達す。

到着貨物

發送貨物

海陸連絡の狀勢

海上運送と陸上輸送との比較

大正十一、十二年中に於ける、本港內外貿易貨物と室蘭外二驛の鐵道着發貨物數量を品目別に調査し、之を對比するに第十五號表の通にして、大正十一年に於ける米及籾の移入一萬九千六百六十八噸、鐵道便到着四千九百二十五噸、計二萬四千五百九十三噸の內、鐵道便發送四千百五十四噸、移出一千八百六噸を差引、一萬八千六百三十三噸は本市に於て消費せられたるか、或は貯藏となれる數量なるべく、薪炭の鐵道便到着三萬七千二百三十八噸なるにも拘はらず、鐵道便發送三百噸、及移出九萬四千百九十二噸、計九萬四千四百九十二噸となり、結局五萬七千二百五十四噸は、附近にて生產されたるか然らざれば前年よりの貯藏たりしものと推せらる。又石炭は輸入三千噸、鐵道便到着百七十三萬八千餘噸、計百七十四萬一千餘噸の內、鐵道便發送五千百五十三噸、輸出一萬五千餘噸、移出百二十五萬七千餘噸、計百二十七萬七千餘噸、外に船舶焚料炭三十八萬五千餘噸、差引七萬八千餘噸は市內就中輪西製鋼所の消費に掛るものと認めらる。

而して同年末に於ける決算は輸入三萬一千七百四十五噸、移入十二萬九百六十九噸、鐵道便到着二百十三萬五千四百十九噸、計二百二十八萬八千百三十三噸の內、鐵道便發送五萬九千三百九十三噸、輸出三萬三千二百九十三噸、移出百六十六萬七千六百十九噸、計百七十六萬三百五噸と船舶焚料炭を差引十四萬千八百餘噸は本市に於て消費せられたるか、若しくは貯藏となりたるものにして、輸移入十五萬二千七百十四噸の內

貿易貨物の潮流

鐵道便發送五萬九千三百九十三噸にして、約四割に該當し、鐵道便到着二百十三萬五千四百十九噸の內、輸移出百七十萬九百十二噸となり、約八割に相當するを以て本港內外貿易貨物の潮流は、海陸連絡運輸系統に屬するものと認めらる。

又大正十二年中に於ける輸入二萬一千四百六噸、移入十一萬二千九百九十四噸、及鐵道便到着二百廿三萬三千百七十六噸、計二百卅六萬七千五百七十六噸の內、鐵道便發送四萬八千九百一噸、輸出二萬六千四百六十六噸、移出百五十七萬一千九百噸、計百六十四萬七千二百六十七噸、外に船船焚料炭三十萬餘噸を差引四十二萬二百餘噸は、本市にて消費若しくは貯藏となりたるものにして、輸移入貨物の內鐵道便發送は約三割六分に該當し、鐵道便到着貨物の內輸移出となりたるものは約七割二分に相當し、其大部分は石炭なり。

輪西長萬部間鐵道全通の本港に及す影響

全通豫定

本鐵道は噴火灣の北岸を掠め輪西より長萬部に達するものにして延長四十八哩、既に長萬部、輪西の兩方面より起工し長萬部、靜狩間は大正十二年十二月、輪西伊達紋別間は同十四年八月、何れも運輸營業を開始し殘餘二十七哩三分の區間は、同十六年迄に全通の見込なれば其時機亦目前に迫るのみならず、平坦線にして工事容易に付特別の事情なき限りは豫定通り竣工すべきものと認めらる。

本鐵道の利便

而して本鐵道全通の曉、既設函館本線經由に比べ室蘭線並に本鐵道經由は岩見澤、長萬部間に於て、四哩四分近距離にして、加ふるに前者には八十分の一以上の急勾配線が四十三哩餘に跨り、恰も全距離の三分の一に相當せり、從つて運轉時間も著しく延長さるゝに反し、後者は室蘭線にも勾配なく坦々たるものなれば速度急にして且長大なる列車運轉を可能ならしむる便宜ある外、室蘭地方對函館方面相互の交通は岩見澤經由に比し、實に百六十餘哩の近距離となれり。

輸送徑路の變革

されば從來岩見澤經由を甚しき迂回なりとして、室蘭青森間、航路を介して交通せる室蘭地方對本州方面相互、及室蘭森間、航路に賴りたる函館方面の交通上に稗益すべきは勿論、岩見澤以北對長萬部以南相互の交涉亦全部本鐵道に轉嫁すべきを以て、本鐵道の全通は唯々室蘭線を均霑するのみならず、道內奧地との交通にも利便あらしめ、殊に美唄炭の如きは小樽、青森兩港に於ける船車連絡に依る、中繼費、並に積替に因る減量、荷損を考慮する時は青森港を距る百哩の地點迄、鐵道直通輸送を利益とするものゝ如し。尤も此等は函館、青森間貨車渡船能力の如何に依りて決定され、實行容易なりとも認められず、且本港の移出炭は主として夕張系に屬するものにして、其影響少なしとするも本鐵道の全通に因りて旅客交通は勿論、貨物輸送上にも直接打擊を蒙るものは、前記室蘭青森間、及室蘭森間、定期航路なるべく、而も從來專ら前者に依りて輸送せられたる道內發本州方面行馬匹は、總て鐵道輸送に轉嫁すべきものと認めらる。

定期航路に及す影響

其他噴火灣沿岸に於ける漁獲物は、一旦本港に之を集中して青森港に移出するものなるが、青森市の仲買人は船積となれる魚類の種別及數量を豫報に依りて、取引先と夫々交涉を重ね、價格の模樣に依りて荷向先を決定し、着港を待つて陸揚の上直ちに青森より鐵道便發送せらるゝ例なれども、本鐵道全通の曉は室蘭、青森港の中繼を省き沿岸各驛より、一路鐵道便にて目的地迄迅速に送達せしめ得べき利便を招致するに依り、急送品の輸送は總て本鐵道に轉移すべき傾向あるを以て、本港內國貿易移出入數量に影響する所蓋し鮮少ならざるべきものと推せらる。

運輸量の推定及荷役能力對比

大正元年以降に於ける內外貿易貨物の輸移出入量、及室蘭外二驛の鐵道發着貨物數量は第十六號表の通にして、外國貿易貨物の輸出は大正六年以降低下して累進の狀なく、輸入は大正八年を最高として是亦漸次減退したり。內國貿易貨物の移出は大正四年以降急激に躍進し、同六年を最高として七、八及十年に低下し、九、十一年には再び增加したる等著しき消長を示し、將來の運輸量を豫測するにも困難を感ずる狀態にして移入は大正九年迄大體順調に增加したるが、同十年に至りて急に減少したる儘衰退の氣味なり、又鐵道貨物の到着は、海運移出貨物の消長と大差なく、大正八年度末に於ける石炭の增送は、翌九年の移出增加となりたるものにして、同九年以降の減少は財界の不況に累せられて、各工場の操業短縮となり、延て一齊に採炭制限を爲したるに起因したるも、同十一年以降稍々恢復の機運に在るものゝ如く、發送貨物は大正七年を最高記錄として逐年低下したり。

外國貿易貨物の推移

內國貿易貨物の推移

鐵道貨物の推移

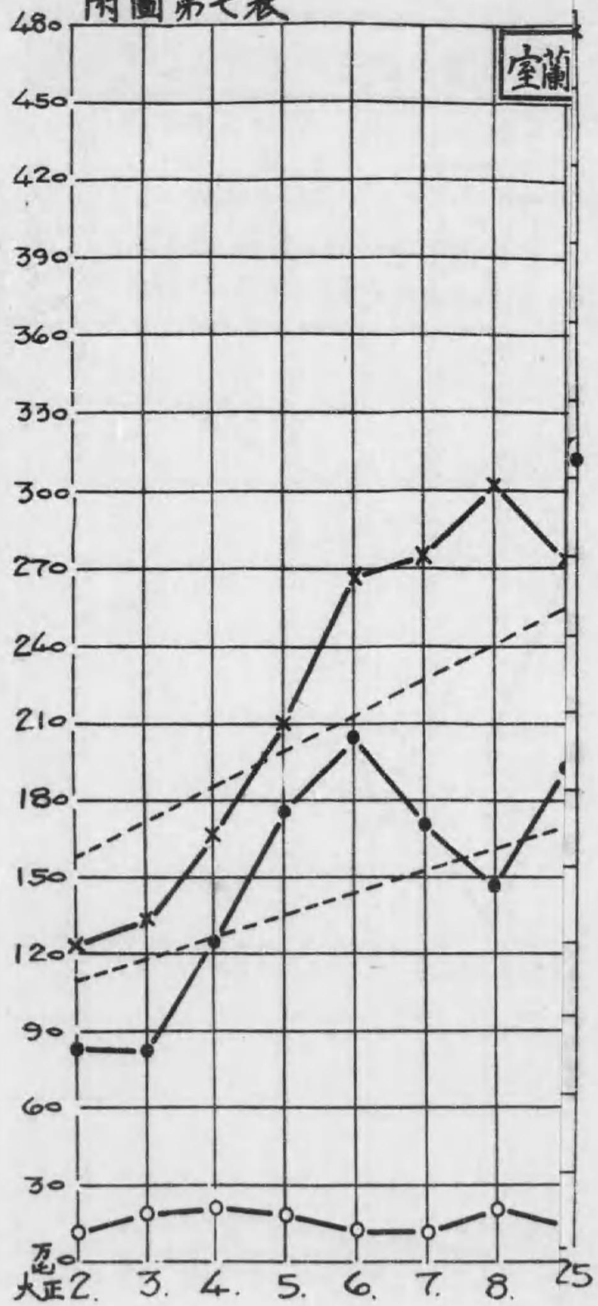
然して海陸兩運貨物數量は時に依りて著しき盛衰あり、將來の運輸量を卜知するに妥當ならざる嫌あるも、今大正二年以降十ヶ年間の運輸量を基準とし、直線式最小自乘法に依りて推算したるに附圖第七表の如く、外國貿易貨物は累進率なく、內國貿易貨物は大正廿五年に於て三百七萬二百七十七噸を算し、鐵道貨物の同年度豫想は四百七十二萬七千四百七十一噸と算定したり。

大正二十五年に於ける運輸量

本港の水面積を二百三十八萬坪とせば、千噸級以上五、六千噸級以下の船舶を、同時に二百餘隻を繫留し得べく、一ヶ年間の船舶登簿噸數二千七百九十萬噸となり、之を大正十一、十二年中の實績に對比せば次の

港內に碇泊せしめ得べき船數

附圖第七表



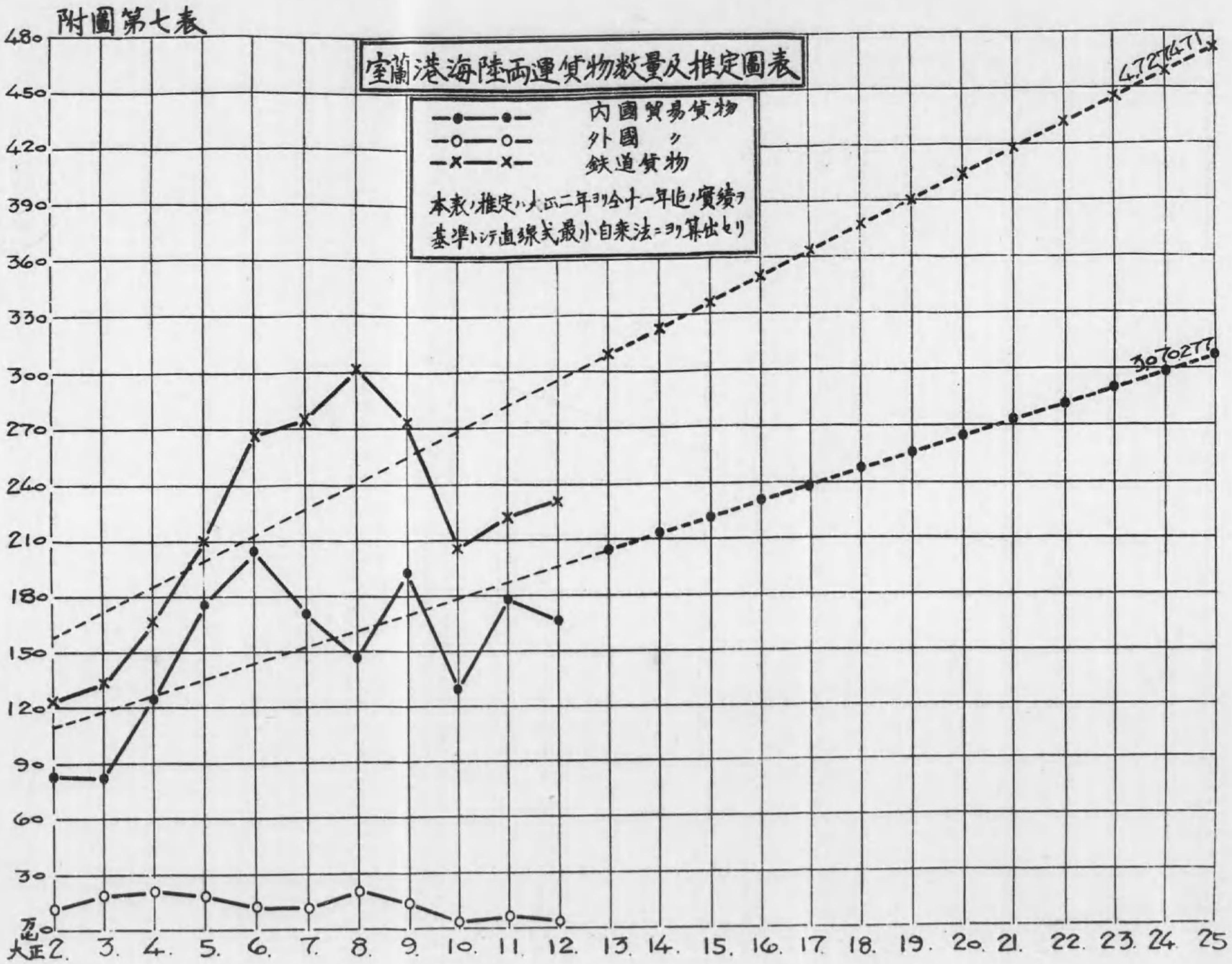
の主者は、港運移出貨物の減長と大差なく、大正八年度末に於ける石炭の増送は、翌九年の移出増加となりたるものにして、同九年以降の減少は財界の不況に累せられて、各工場の操業短縮となり、延て一齊に採炭制限を爲したるに起因したるも、同十一年以降稍々恢復の機運に在るものゝ如く、發送貨物は大正七年を最高記録として逐年低下したり。

然して海陸兩運貨物數量は時に依りて著しき盛衰あり、將來の運輸量を卜知するに妥當ならざる嫌あるも、今大正二年以降十ヶ年間の運輸量を基準とし、直線式最小自乗法に依りて推算したるに附圖第七表の如く、外國貿易貨物は累進率なく、内國貿易貨物は大正廿五年に於て三百七萬二百七十七噸を算し、鐵道貨物の同年度豫想は四百七十二萬七千四百七十一噸と算定したり。

本港の水面積を二百三十八萬坪とせば、千噸級以上五、六千噸級以下の船舶を、同時に二百餘隻を繫留し得べく、一ヶ年間の船舶登簿噸數二千七百九十萬噸となり、之を大正十一、十二年中の實績に對比せば次の

大正二十五年に於ける運輸量

港内に泊せしめ得べきし碇船數



如く、大約現在の十倍に相當する船舶を出入せしめ得べしと雖も、二百三十八萬坪の水面積總て有效ならずとし假りに其二分の一を見込むも現在の五倍に相當する船舶を收容し得るなり。

年度	隻數	登簿噸數	貿易貨物總噸數
大正十一年	四、〇九九隻	二、九六五、七二二噸	一、八五三、六二六噸
大正十二年	五、四二七	二、一四一、六五二	一、七三二、七六六
推定能力	——	二七、九〇〇、〇〇〇	——

鐵道貨物荷役の分類

鐵道貨物發着を取扱ふ輪西驛は製鐵所關係が主にして、御崎驛亦製鋼所關係發着貨物、及三井炭礦汽船會社貯炭場卸しとなるものにして、市内の集散及本港海陸連絡貨物の取扱は、專ら室蘭驛の勢力圏なり。然れども發着兩港に於ける諸掛り、中繼に依る荷損を考慮する時は海路を介して運送するよりも陸路鐵道便直通輸送を有利とするに依り、輪西、長万部間鐵道建設線全通し、更に函館、青森間貨車渡船能力充實せらるゝに於ては、本港集散貨物の幾部鐵道輸送に轉嫁すべきものと認められ、市内集散貨物亦特に列擧すべき程度のものなきを以て、一般貨物の取扱は必要に應じて適宜擴張し得るものと見做して之を省き、茲には石炭に對する荷役能力のみを調査することゝしたり。

石炭船積高架棧橋の能力

而して海上高架棧橋の石炭船積能力は機關車押上能力如何に依りて決せらるゝものなるが、晝間一日の作業を十時間と見積り、内從事員の晝食、機關車の給炭水、並に其他の休養を二時間控除して、實働八時間と見做し、第二五〇〇號型機關車一輛に三十噸石炭車五輛を聯結して之を押上げ、機關車が同一線を反行して更に他の石炭車を押上ぐる準備成り、一方押上げられたる石炭車が取卸しの上、歸り線を轉送せらるゝ迄の

所要時間を十二分とする時は、一時間五回、一日四十回、六千噸に過ぎざるも押上機關車を第九六〇〇號型とせば、六割以上を增加し得べきを以て、一日九千六百噸を押上ぐること敢へて至難ならざるべし。

石炭艀船積能力

故に一ヶ年平均作業日數を三百日と見積る時は二百八十八萬噸となるも、冬季石炭の凍結に起因する作業難もあり、旁々年間二百七十萬噸と見込むを至當とすべし。又構内貯炭場坪數は、北海道炭礦汽船會社所有地を含み、三萬九千九百二十九坪に達し、最高二十萬噸を貯炭し得べく、假りに在貨の一轉機を三ヶ月と見做し年間四回轉換するものとせば、八十萬噸を消化し得べく、更らに物揚場延長六百五十二間、外に埋立地沿岸約三百三十間に對し、一間當り一ヶ年の能力を八百噸とする時は、前者五十二萬一千六百噸、後者二十六萬四千噸の艀船積能力を有すべき算定なり。

作業能力と實績

然るに本港の輸移出炭は第十二號表の如く現今百二、三十萬噸程度にして、船舶焚料炭亦四十萬噸内外に付、高架棧橋船積及艀船積共に荷役能力の二分の一にも滿たず、一般作業概して閑散を極め、高架棧橋押上機關車の如きも、第二五〇〇號型を使用し猶且餘裕を存するの狀態なり。

石炭の需要

本港の任務

由來本邦の殖産工業は太平洋沿岸に於て發達し、石炭の需要も亦日本海沿岸よりは表日本の方遙かに大なるべきは、今更に敍說の要なく從つて表日本との交渉に最も地の利を得たるのみならず、出炭量の最大を示す石狩炭田中の夕張炭積出港として最短距離に在り、殊に天然の良港は更に人工を加へて一層の價値を發揮するに於ては、之を措いて他に求め得べからざる港灣たるべし。

石炭港の價値

或は言ふ石炭の積出港としては寧ろ苫小牧を以て適當と爲すべく、築港必ずしも天惠を撰ぶ要なしと此等は單に坑所と港灣とを最短距離に求め、以て鐵道運賃を低減せんとする企畫に外ならず、素より鐵道運賃の增加は其直接生産費に影響し、市場に於ける競爭上不利益なるべしと雖も、海陸連絡設備の改善に依りて港内諸掛りを節約し得ば、鐵道運賃四、五十哩の增加は之を相殺して餘りあり、加ふるに鐵道運賃の加さは政策に依りて左右せれ、絶對的のものにあらざるのみならず、新に苫小牧に築港して莫大なる投資を試みるよりは現存せる室蘭港を利用し、之を修築する方遙に經濟的にして且迅速に達成せしめ得べきこと明瞭なり。

運賃政策

故に本港は永久に石炭港として發達を助成し、運炭船の如きも石炭業者自身併せ經營し、傭船上の便否等考慮の要なからしむるを要す、幸にして本港積出の大宗たるべき北海道炭礦汽船會社は運炭船十五隻、登薄噸數二萬四千百噸、荷物積載量四萬七千七百噸を有し、船川、石濱を初め東京、名古屋、阪神地方は勿論遠く上海、香港、にも往復し上海、香港の歸路鐵鑛を積込み、安價にして多量の原料品を輪西製鐵所に供給しつゝあり。

海上運炭自營の必要

夕張炭の現狀

翻つて夕張炭の現狀を顧みるに炭質粘結性靑炭にして、火力强烈、緊緻なるを以て粉粹すること少く、最良炭として用途極めて廣きも、就中瓦斯製造用としては本邦中匹儔なく、又該炭の製造、汽罐燃料として優良なり。而して從來の採炭法は坑道の維持困難にして、且殘柱炭の採堀に多大の經費を要し、不利益なるを以て土砂塡充法を採用し、全部長壁法に依り二段若くは三段に採堀するの目的を以て、殘柱炭を廢し以て採炭量を增加し、且瓦斯發生を防止せんとするものなるが、漸次塡充區域の擴大に備ふる爲火山灰の增送を企圖して、夕張鐵道會社を起し、目下建設工事中なる外大規模なる機械を應用して、採炭の增加に努め、撰炭

設備を完全せしむる、等改良を圖りつゝあれば數年の後には採炭年額四百萬噸に達すべき豫定なりと云ふ。

小樽室蘭兩港共榮

されば小樽港と本港とは各其任務を異にするを以て、小樽港が石炭搬出港として繁榮を來せる爲、本港の隆昌を傷くる憂なきは勿論、共榮して始めて本道出炭の盛況を招く所以なるべし。

本港の使命

其他日本製鋼所、室蘭工場亦着々事業擴張の機運にあれば、本港は單に石炭港として殷盛を極むるのみならず工業地としての使命をも全ふすべき要素を有するものと認めらる。

海陸連絡設備の改善

海陸連絡運輸系統に屬する集散貨物中の農產、海產、其他の雜貨等は至つて少く、繫船埠頭を築造して接岸荷役を爲さしむる程度に非らず、石炭船積海上高架棧橋亦船積能力に充分なる餘裕を存し、今俄に改築を要するものに非らざれども、同船積機は舊式にして作業費莫大なると且は木造の爲、累年左記の如き修繕費を支出し、而も大正八年以降著しき增加を來し十萬圓を突破したること各二回に及び、逐年保修程度擴大するは勿論、幾年ならずして現狀を維持し能はざるに至らざるかを疑ふ。加之橋材取替の爲一部又は全部に亙り、船積作業を中止せざるべかざる場合ありて、石炭輸送上に及す影響鮮少ならざるが故に、之が對策を講じて實施することとし、一方修繕程度を制限するが寧ろ適正にして、經濟的ならざるべきかを考ふ。

石炭船積海上高架棧橋の補修

船積作業の休止

然して本港高架棧橋は淡水注入して鹹水を緩和せる爲めか、小樽港の如く海蟲の浸蝕少きに依り新設石炭船積設備完成後、猶現在の高架棧橋下層を使用し得べき見込みの場合は、之を利用して雜貨の接岸荷役たらしむれば、艀船荷役の不便を苅除し當面の懸案を解決し得べしと認めらる。

修繕費

高架棧橋保存費調

年次	室蘭驛	手宮驛
大正元年	四七四圓	二二九圓
同　二年	一、四七七	一、五七一
同　三年	五九八	一、九九二
同　四年	五、九九八	一、三五二
同　五年	五、〇三一	一、九三二
同　六年	七、五三八	一、七六三
同　七年	一〇、三四一	一二、五一七
同　八年	三一、九四六	五三、八六四
同　九年	二七、四〇七	一三〇、三九九
同　十年	三二、五六一	一四、六三八
同　十一年	九〇、九二八	七一、九七六
同　十二年	一二二、七三〇	二九、〇〇一
同　十三年	一三〇、〇〇〇	一二三、八二二

本港の價値

廣大なる水面積

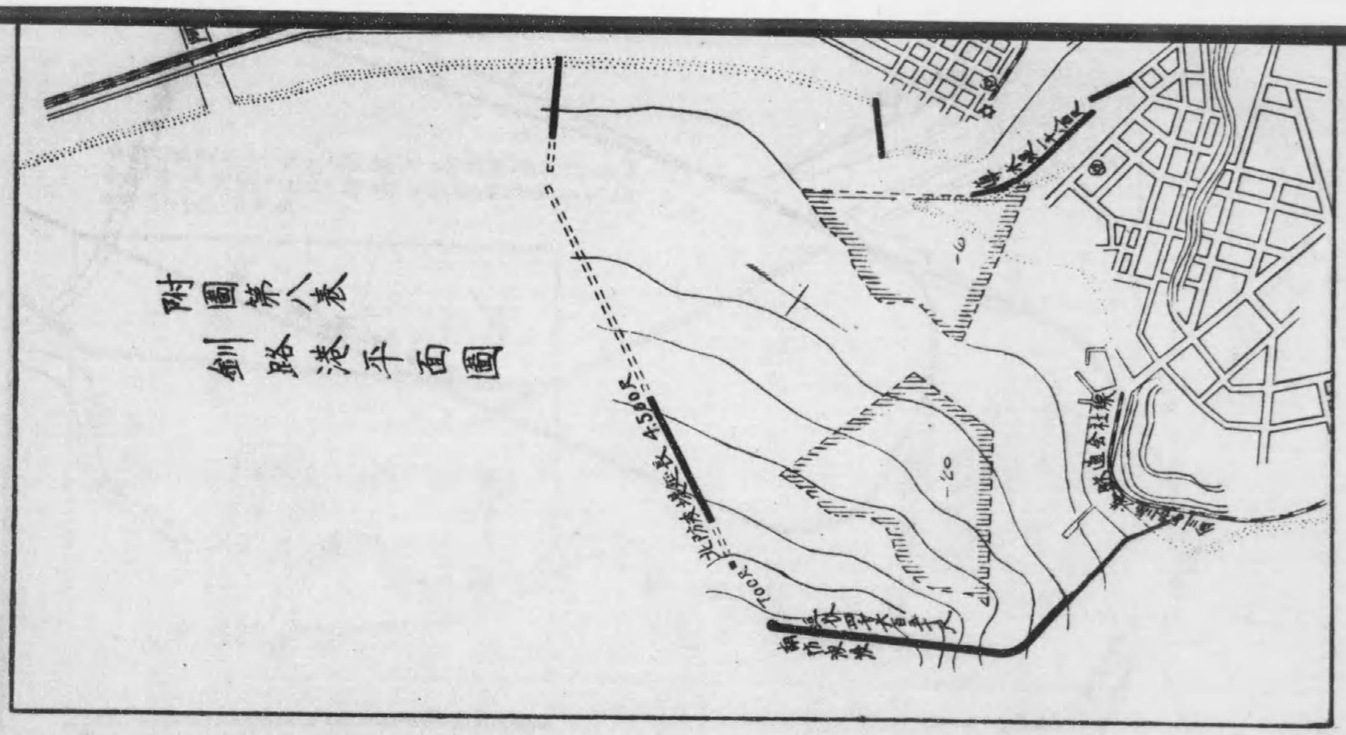
運輸交通上の價値は既に之を認めたるも二百三十八萬坪と稱する廣大なる水面積を有する港灣の眞價、果して如何なるべきか今や延長千八百三十呎の南防波堤は大略成り、三千二百呎の北防波堤亦略竣工して港内を靜穩ならしめ得たるのみならず、海底地質は概ね細砂及砂泥にして船舶の投錨に適すと雖も、市の北部は火山岩より成れる高丘地多く、南部は第三化層に屬する岡陵起伏し、東南部の輪西方面のみ展開され、一方太平洋の外海に面し、而も常に西北風強き爲恰も通風坑の形を爲し、港内輪西附近沿岸は艀船の通航すら安全ならざる狀態なれば、本港灣の安全區域は北東に向け港心に十字を畫し、南部方面卽ち現在の室蘭驛構内より北海道炭礦汽船會社船入場附近を第一安全區域と稱し、西方に當る西部埋立地域を第二安全區域と爲し、北部方面を第三位に、東部方面の輪西沿岸を第四位として、本港内に於て比較的危險多き區域と見做され、國有鐵道の埋立豫定地は卽ち第四位に該當する危險區域を選定したる結果となれり。

安全區域

國有鐵道埋立豫定地の價値

當時港灣施設計畫創定されたるのみにして未だ實施の運ひに至らず、築港成りて防波堤築設等完成の曉は其效用に依り風波の障害を防止し得べしと見做されたるかに推せらるゝも、由來本港は奥行深く北防波堤より輪西沿岸迄二哩以上の距離あり、而して防波の效用は約一哩に及ぶも殘餘の一哩の距離に於て、新に起る所の激浪は何に依りて之を防止し得べきか、是れ輪西沿岸が永久に救はれざる危險區域と見做さるる所以なるべし。

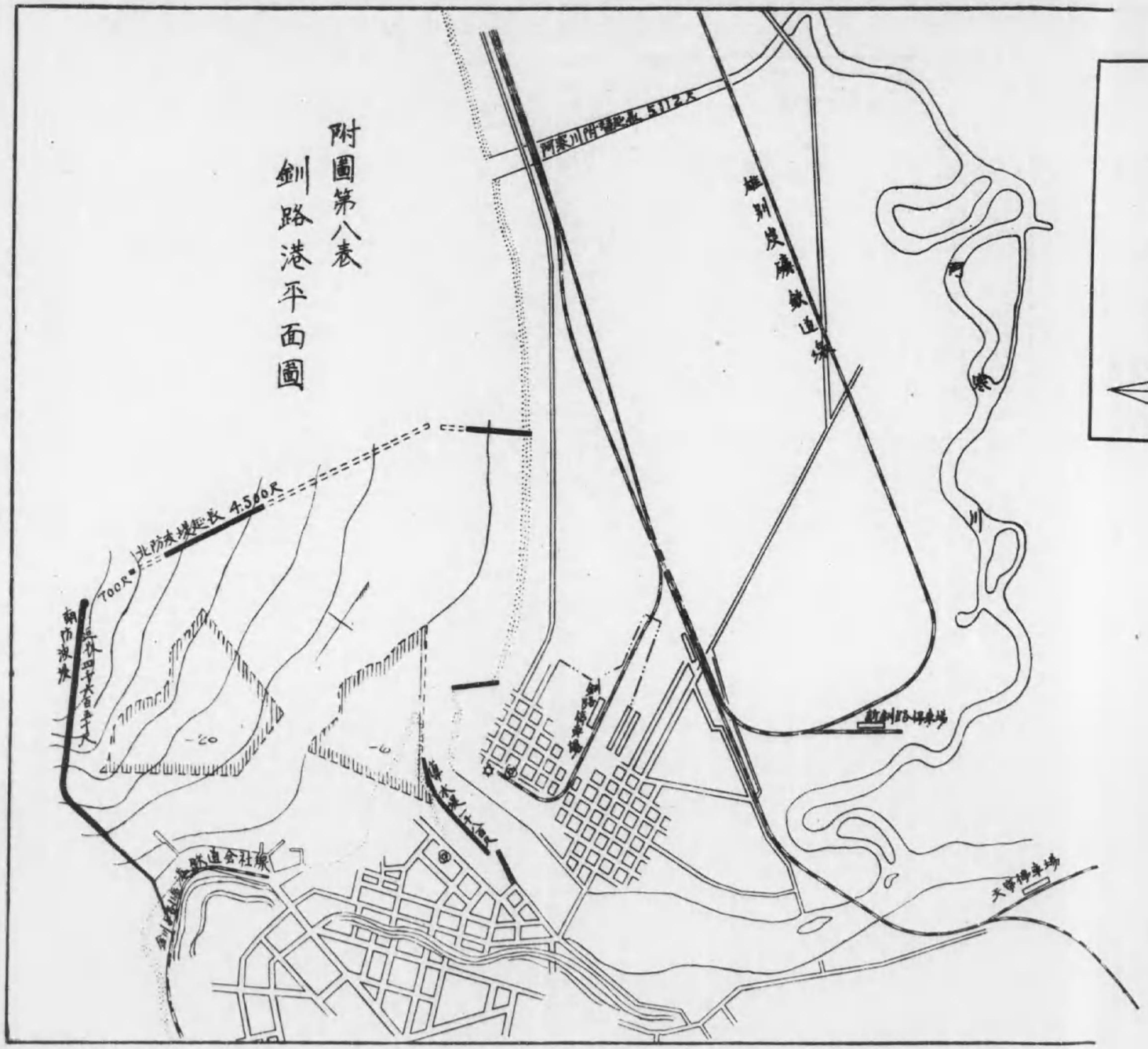
されば本港の水面積二百三十八萬坪は港勢の必要より求めたるものに非らずして、防波堤築設を短少ならしめ以て、築港費用を節約せんが爲に起り、輪西埋立附近が防波の效用薄く危險狀態に陷ることあるも、其利用時機は當分到達せざるべく、然して之が利用に際しては更に第二防波堤を築設するも可として決定されたるものと推せらる。



附圖第八表
釧路港平面圖

附圖第八表

釧路港平面圖


阿寒川附替起点 5112尺
釧路炭鑛鉄道線
河
海
川
北防波堤延長 4,500尺
700尺
新防波堤
延長四千六百尺
-20
-6
釧路港本線
釧路港本線
釧路港本線

七　釧路港

地勢及修築計畫の由來

室蘭港以東に於ける隨一の港にして、東經百四十四度二十三分、北緯四十二度五十分に位し、東南は知人岬より起れる丘陵東に連り、北西一帶は砂濱にして白糠郡に對し、南は太平洋に向つて開放し南西遙かに襟裳岬に擁せらる。然して本市を縱貫せる釧路川は遠く北方屈斜路湖に源を發し、幌石雪裡等の諸川を合して海に注ぎ、舟筏の便ありと雖も、冬季結氷するのみならず土砂流出の爲河口を閉塞され、而も河水の增減風波の强度に依りて變遷極りなく、殆んと朝を以て夕を豫測し得ざる狀態なり。

東南岸隨一の港

冬季の結氷

本港修築計畫は明治二十一年、雇技師英國人「シーエス、メーク」の設計を以て嚆矢となし、同三十一年道廳技師工學博士廣井勇氏精密なる調査を遂ぐるに及び、始めて工事設計の完成を見るに至り、同三十三年長官園田安賢氏北海道拓殖十年計畫を樹立するに當り、本港修築計畫をも之に編入して帝國議會の協贊を求めたるも、時運未だ到らずして否決され同四十年に至り、長官河島醇氏本港修築の急を認め技師關屋忠正氏に命じて再調査を爲し、十二ヶ年繼續の案を立て第二十五回帝國議會の協贊を經て、同四十二年度より着手したるが翌四十三年本道拓殖十五年計畫成るや殘程全部を編入し、更に大正五年長官俵孫一氏計畫の改訂を爲し北堤を增築して完全に港内を被覆し、同九年長官笠井信一氏本計畫に對する增訂あり。卽ち釧路川改修計畫に伴ひて港域を大ならしむる等、漸次其規模擴張せられて現在に及び、竣工期限を大正十五年度とし南防

修築計畫設計の嚆矢

起工

計畫の改訂

波堤は既に竣工し、目下北防波堤の上部場所詰混凝土を施しつゝあり（附圖第八表參照）

修築計畫の概要

水面積

市街の前面西南方に當り南北の二防波堤を築設し、六十七萬坪の水面積を被覆するものにして、南防波堤は釧路燈臺西方崖下より起り、延長四千六百五十呎とし、北防波堤は延長四千五百呎にして七百呎の港門を隔てゝ北防波堤と相對し、北端は二百四十呎の水路を隔てゝ千二百呎の防砂堤を築設す。猶港心面積七萬六千坪の部分を干潮面下二十六呎に浚渫して大船の碇繫に便し、釧路川河口附近五萬五千坪の部分を六呎の水深として、艀船及小汽船の航通に支障なからしめんとす。

防波堤

浚渫

釧路川の治水計畫

其他釧路川の支流阿寒川は土砂の流出夥しく、港内埋沒の大禍根を胎す憂あるに依り、之を港外に放流せしめんとせり。又釧路川左岸に導水堤を築設して、河水を港外に導き港内の埋沒及結氷を緩和するの目的なりしも、其後釧路川治水計畫の確立に伴ひ港域擴張の結果、之を止め將來之を除去するものなりと云ふ。

運輸の現狀

木材の荷役

本港は總て艀船荷役にして、木材類は濱釧路驛構内より釧路川に轉落せしめ筏組と爲し、停泊中の汽船に積替を爲すものなるが、輸送量の増加するに伴ひ、同驛にては之を消化し得ざる狀態となりたるに依り、新に釧路川の南岸に天寧停車場を新設し、同驛到着木材を筏組として下航せしむることゝしたり。

石炭の荷役

又春採炭船積の目的にて敷設したる釧路臨港鐵道會社線は、別保信號場にて國有鐵道根室線に連絡し、尺別其他上別保、上尾幌等、の船積炭をも港灣貯炭場に送り、猶南防波堤の幾部幅員を擴張して、小規模なる簡便船積設備を爲し、貯炭場と船積場間には輕便軌條を敷設し、電氣動力を應用せる外何等の施設なく、雄別炭は會社經營の鐵道を利用し、釧路川北岸貯炭場に送り同所にて艀船積として下港し、本船に積替へ其他尺別及上別保、上尾幌驛、發濱釧路着石炭の如きは、一旦地上に取卸されたる後車馬にて沿岸に小運送の上艀船積とする等不經濟を極むる狀態なり。

海陸連絡設備の不完全

此等は濱釧路驛が海陸連絡設備の共用地として、僅かに釧路川河口に沿岸四百四十五呎、其の内物揚場として有效延長三百六十六呎を有するに過ぎざる結果なると、且つ釧路炭田、及十勝、白糠炭田は共に創業時代にして、採炭量亦增大せざるに起因するも、港灣施設は勿論海陸連絡設備の不完全亦延て其發達を抑制するものに非らざるかを疑はる。

されば本港に依りて集散するを利便とする十勝、北見方面に於ける物資も小樽又は函館港を介し、本港對裏日本沿岸は勿論、横濱、神戸等の海運貨物も函館港の中繼を要し、海路百二十海里の遠距離を迂回して十數日を延滯せしむるのみならず、運賃の高率等需要供給に又す影響亦鮮少ならざるべし。

海運貨物の函館港中繼

海運貨物　大正十一、十二年中に於ける海運貨物の貿易徑路は第十七號表の通にして、外國貿易貨物の輸出は支那の木材、洋紙、昆布及關東州、北米合衆國、濠洲、和蘭等の木材が其主なるものにして、輸入は記錄すべき程のものなし。

外國貿易

內國貿易

內國貿易の移出は木材を首位とせしも、近時石炭に壓せられて第二位となり、其他「バルブ」、燐寸軸木、洋紙等何れも一萬噸以上を算し、其主なる仕向地は東京、横濱、大阪、名古屋、神戸、石濱、清水、新潟、釜山、仁川、直江津、伏木等にして、移入貨物にして五千噸以上のものは米、「セメント」、鐵及鋼製品、藁工

品食鹽等なるが、主なる仕出港は青森、東京、横濱、坂出、函館等なり。

鐵道貨物　本港々灣地域に現存する國有鐵道線釧路、濱釧路、天寧（大正十二年九月運輸營業開始）驛に着發せる、大正十一、十二年中に於ける貨物數量は第十八號表の通にして、到着貨物の首位を占むる木材類は、主に網走支廳管內發送にして河西支廳のもの亦尠からず、石炭は十勝、白糠炭及釧路炭田に屬するものに限られ、「パルプ」洋紙は釧路支廳にして、雜穀は河西支廳管內發送たり。又米は秋田、山形、青森、縣下の產にして、上川支廳管內にて生產せらるゝもの若干あり。又發送貨物中の木材類は小樽市、及釧路支廳管內に仕向けられ、生鮮魚の仕向地は小樽、札幌、旭川市、及河西支廳等多數を占め米、藥製品、雜穀等は根室、網走河西支廳にして肥料、及食鹽は河西、網走、支廳管內に仕向けらるゝもの多し。

到着貨物

發送貨物

雄別、春採炭の輸送　以上の外雄別炭礦鐵道線新釧路驛到着雄別炭、及釧路臨港線知人驛着春採炭は大約次の如くなるも、將來一層增加すべき傾向を有す。

種別	大正十二年	同　十三年
雄別炭	一〇五、一四九噸	一二三、九七二噸
春採炭	一二〇、六五五	一一四、五四〇

海陸連絡の狀勢

海陸兩運貨物數量の比較　大正十一、十二年中に於ける本港內外貿易貨物と釧路外二驛の鐵道便着發貨物數量を品目別に調査し、之を對比するに第十九號表の如く、大正十一年に於ける米及籾の移入九千三百七十二噸、鐵道便到着六千三百八十四噸、計一萬五千七百五十六噸の內、鐵道便發送二千四百五十一噸を差引一萬三千三百五噸が、本市にて消費せられたるか若しくは貯藏となり、木材の鐵道便到着十八萬八百九十三噸なるにも拘はらず、鐵道便發送四千八百八十一噸、及移出二十萬七千九百七十六噸、計二十一萬二千八百五十七噸となり三萬一千九百六十四噸の出超となりたるは、前年よりの貯木か然らざれば釧路川の流送木にして、石炭の出趨五萬五百二十八噸は春採及雄別炭の船積となれるものなるべく、其他海藻類、生鮮魚、及肥料等は近海に於ける採取又は漁獲物にして、大豆、製紙原料、及洋紙並に牛等は附近の生產たるべし。

而して同年末に於ける決算は移入六萬三百九噸、鐵道便到着三十七萬三千百噸、計四十三萬三千四百九噸にして鐵道便發送四萬八千二百六十一噸、輸出三萬七千八百七十七噸、移出四十六萬五千七百十噸、計五十五萬一千八百四十八噸となり。十一萬八千四百三十九噸の出超にして輸移入計と鐵道發送との比率は五五對四五、又鐵道便到着と輸移出計とは四三對五七の比を示し。翌十二年に至りても前年同樣の徑路を辿り、總計に於て移入四萬八千六十六噸、鐵道便到着三十五萬二千五百四十七噸、計四十萬六百十三噸にして、鐵道便發送四萬一千七百五十四噸、輸出四萬七千八百八十六噸、移出四十七萬八千百八十五噸、計五十六萬七千八百二十五噸となり是亦十六萬七千二百十二噸の出超となり、輸移入計と鐵道便發送は五四對四六にして、鐵道便到着と輸移出とは四〇對六〇の比率を示し、一面生產力の旺盛を反映すと雖も、由來本市にて生產せらるべきものは製板、其他海產物以外に注目すべき程のものなき故、此等の物資は多く水路艀船又は陸路車馬にて搬入したるものなるか然らざれは海運貨物數量に逸算ありたるに非らざるかと推せらる。

尤も鐵道貨物は重量噸なるに反し、海運貨物は容積噸なる爲約二割强の相違を來すべき筈なるを以て、事實貨物の出入大約均衡を保ち居るやも計り難く、何れにしても海陸連絡貨物としては木材、石炭以外、特に

記錄すべき程度のものなし。

運輸量の推定及荷役能力の對比

外國貿易の推移

大正元年以降に於ける內外貿易貨物の輸移出入量、及釧路外二驛の鐵道貨物着發數量は第二十號表の通にして、外國貿易の輸出は大正三年を最高として、四年に至りて急に減退し其後九年迄は多少の增進を示したるも、十、十一年に於て又々不振を呈したるは、木材及製板類が小樽に、海產物は函館、根室兩港に奪はれたるに起因するものの如し。

內國貿易の推移

內國貿易の移入は多少の消長ありたるのみにて格段の變化なく、移出は大正九年に著しき衰退ありたるも爾後逐年增加して順調に進暢したり。

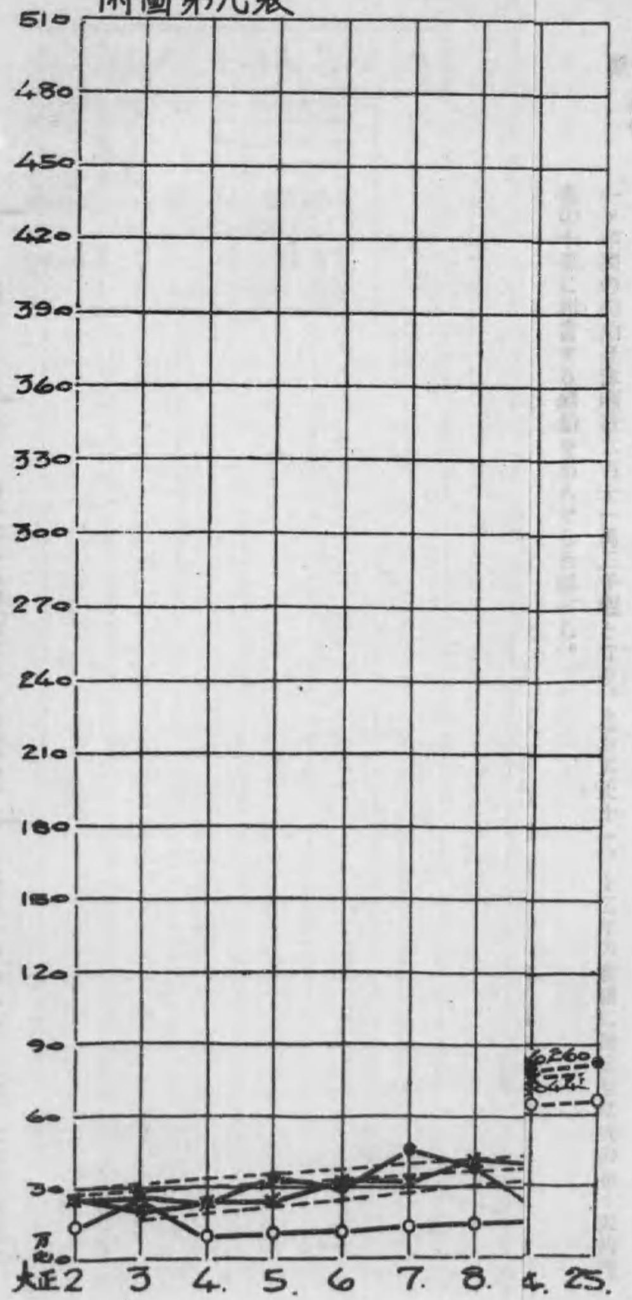
鐵道貨物の推移

又鐵道貨物の發着は殆んど盛衰なく自然の發達を遂げたり。而して大正二年以降十ヶ年の實績を基準として、將來の海陸兩運貨物の運輸量を推定する爲、直線式最小自乘法を採用して試算したるに附圖第九表の如く、外國貿易貨物は增進率を示さざるのみならず內國貿易貨物亦增進率低位にありて大正二十五年に六十六萬二千餘噸を算するに過ぎず、然れども本港の移出貨物は春採炭及雄別炭の採掘量增加するに伴ひ、既往の實績を超越して躍進すべきものと認めらるゝに依り、更に大正三年乃至同十二年の實績を基準として推定したるに大正二十五年の推定運輸量は八十萬六千二百六十噸を得たるに依り之を妥當としたり。

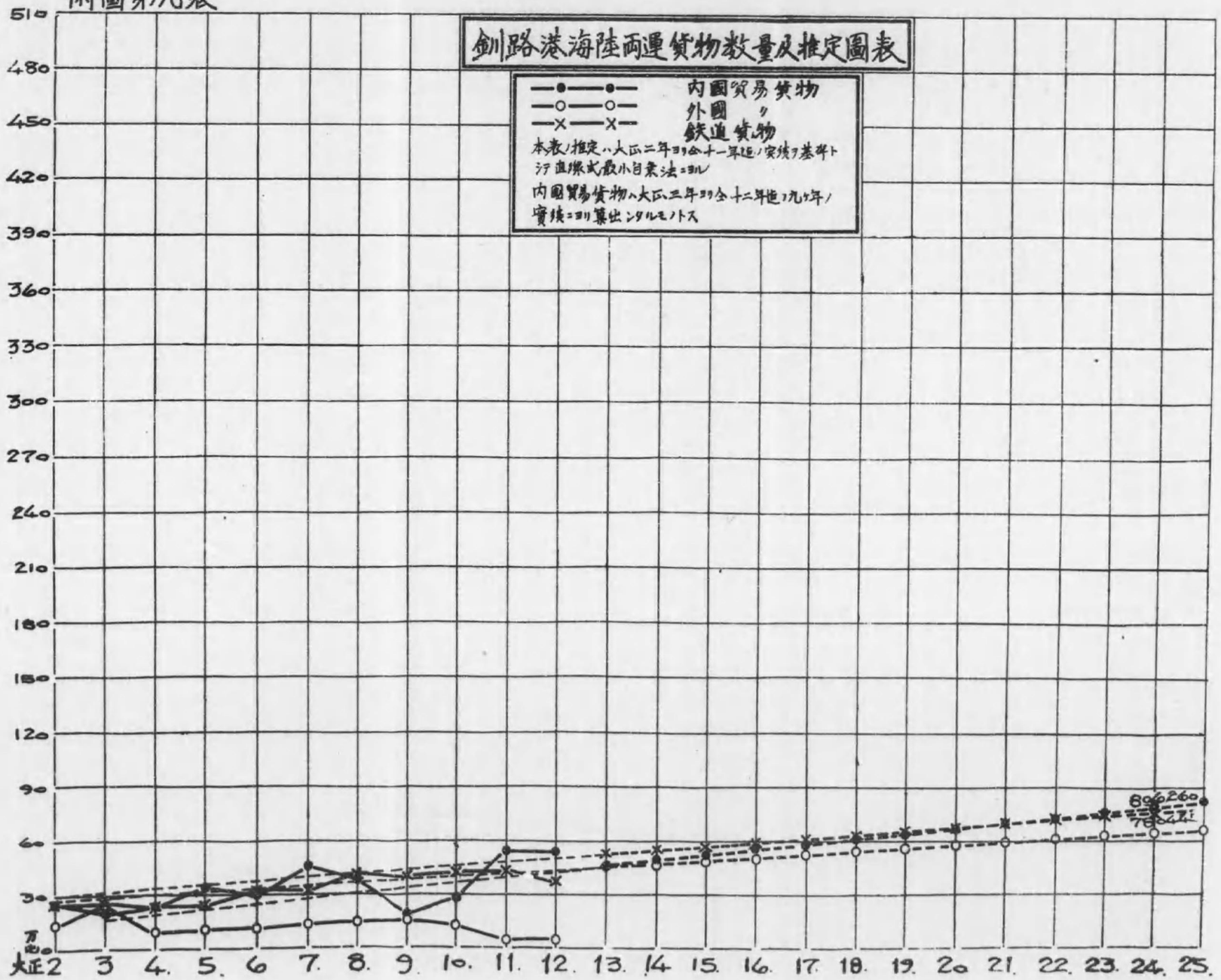
大正二十五年の運輸量

鐵道貨物は大正元年以降十ヶ年間の實績を基準として推定したるに、大正二十五年の運輸量は七十八萬四百四十五噸となれり。

附圖第九表



附圖第九表



鐵道貨物の推移

大正二十五年の運輸量

爾後逐年增加して順調に進暢したり。

又鐵道貨物の發着は殆んど盛衰なく自然の發達を遂げたり。而して大正二年以降十ヶ年の實績を基準として、將來の海陸兩運貨物の運輸量を推定する爲、直線式最小自乘法を採用して試算したるに附圖第九表の如く、外國貿易貨物は增進率を示さざるのみならず內國貿易貨物亦增進率低位にありて大正二十五年に六十六萬二千餘噸を算するに過ぎず、然れども本港の移出貨物は春採炭及雄別炭の採掘量增加するに伴ひ、既往の實績を超越して躍進すべきものと認めらるゝに依り、更に大正三年乃至同十二年の實績を基準として推定したるに大正二十五年の推定運輸量は八十萬六千二百六十噸を得たるに依り之を妥當としたり。

鐵道貨物は大正元年以降十ヶ年間の實績を基準として推定したるに、大正二十五年の運輸量は七十八萬四百四十五噸となれり。

碇泊し得べき船舶數

本港の水面積六十七萬坪とせば百噸級以上、四、五千噸級以下の船舶を同時に七、八十隻を繫留し得べく一ヶ年間の船舶登簿噸數六百十一萬三千噸となり、之を大正十一、十二年の實績に對比せば次の如く大約現在の十倍に相當する船舶を出入せしめ得べし。

年度	隻數	登簿噸數	貿易貨物總噸數
大正十一年	六九四隻	六七二、八九六噸	五六三、八七八噸
同　十二年	六一五	五三二、五七〇	五七三、九五七
推定能力	—	六、一一三、七五〇	—

荷役力の分類

釧路驛は三菱商事會社に發着する一車積貨物に限らるゝを以て、本港集散貨物を取扱ふものは、濱釧路及天寧の二驛なり、而して兩驛共釧路川沿岸を利用して、水陸連絡設備を有するに依り、艀船にて搬出入するものと車馬にて小運送するものとに區分し、更に一般貨物及散物荒荷に分類して、積卸場を調査し其荷役能力と對比するに次の如く、濱釧路驛艀船荷役荒荷の不足は三井物產會社專用側線にて緩和し居れり。

濱釧路驛

種別	艀船搬出入 面積	艀船搬出入 荷役能力	艀船搬出入 大正十三年實績	車馬搬出入 面積	車馬搬出入 荷役能力	車馬搬出入 大正十三年實績
一般貨物	二六八坪	九七、八二〇噸	四九、三三三噸	四六〇坪	一六七、九〇〇噸	一二三、〇一一噸
散物荒荷	一九九	三六、五〇〇	一一一、三七七	一、六五〇	三〇一、一二五	八三、八九一
計	四六七	一三四、三二〇	一六〇、七一〇	二、一一〇	四六九、〇二五	二〇六、九〇二

天寧驛

種別		舩船搬出入	
		面積	能荷役
散荒物荷		一、〇二〇坪	一八六、一五〇噸
			大正十三年實績 五七、四七七噸

總計				
種別		舩船搬出入		車馬搬出入
		面積	能荷役	面積
一般貨物		二六八坪	九七、八二〇噸	四六〇坪
散物荷		一、二一九	二二二、六五〇	一、六五〇
計		一、四八七	三二〇、四七〇	二、一一〇
	大正十三年實績		二一八、一八七	一六七、九〇〇噸
			四九、三三三噸	三〇一、一二五
				四六九、〇二五
				一二三、〇一一
				八三、八九一
				二〇六、六〇二

集散狀況

猶兩驛に於ける集散貨物の搬出入を舩船及車馬等に區分し、之が比率を求めたるに大約次の通にして、一般貨物は車馬搬出入多く、荒荷は舩船扱の方大なり、而して全般より之を觀る時は舩船出入となるもの多數を占むるも、此等は木材、石炭の如き大量貨物が多く舩船扱なるに起因するものにして、強ち水路の利用大なりとのみ斷ずべからず。

殊に一般貨物は舩船扱より、車馬運搬の方遙に大にして、其大部分が市内の消費又は生産或は再移出となり、小樽、函館港の如く海陸連絡運輸系統に屬するものをも、車馬運搬する爲めに大を爲せるに非らず、又海陸連絡貨物は主として停車場構内貨物上家を利用して船車積替を爲すものにして、他に適當なる上家又は倉庫を有せざるもの〻如し。

種類	舩船搬出	車馬搬出	計	舩船搬入	車馬搬入	計	舩船	車馬	計
一般	19 %	53 %	34 %	95 %	85 %	89 %	23 %	60 %	40 %
荒荷	81	47	66	5	15	11	77	40	60
計	100	100	100	100	100	100	100	100	100
	三〇%五五	七〇%四五	一〇〇%一〇〇	二四%二四	七六%七六	一〇〇%一〇〇	二八%五二	七二%四八	一〇〇%一〇〇

本港の任務

後背地域

地勢及陸上運輸系統より本港後背地域を考察する時は、釧路、根室、河西、網走の四支廳管内に及び、面積三千六十八方里に達して、全道の約二分の一に該當し、農産、林産、鑛産物等豐富なるのみならず、釧路網走間及釧路美幌間、等の鐵道建設線全通の曉は、之を本港に誘引せしめて本道東部地方の大集散地たり得べき可能性を有すと雖も、由來釧路の國は氣候適順ならず、本道住民が冬の眠より醒め、一齊に立ちて活動期に入る場合に際しても、海霧に襲はれ咫尺も辨ぜざること尠からず、而も夏季に於て最も烈しき爲農作物にも影響すること多大にして、地上生育に適せず僅かに根菜類に屬する太根、牛蒡、馬鈴薯等を產するに過ぎざるなり。

天惠に乏し

釧路港

経済的地位

されば農民の多くは農牧混業にして、作物の稔らざるものある時は之を飼料に供しつゝある狀態にして、概ね天惠に乏しく、從つて富の程度も低く、大資本家、大商店、等少き爲經濟的地位劣るを以て、小樽又は函館の如く農産品或は海産物の大集散地として、發展する如きは蓋し遠き將來たるべし。

然して消費地に於ける商家が直接根室、河西、網走等の雜穀生産地より、之を買集めて本港より積出さんとするも、海霧の爲に海路安全ならざることあるのみならず、陸上荷役亦澁滯勝なりとせば、鐵道運賃の增加は船舶一日の停泊を尠からしめて、之を相殺し得べきに依り、寧ろ小樽港積出を有利とすべし。

木材石炭の積出港

故に百日河清を待つよりは先以て本港を木材、石炭の積出港として發達せしめ、旁ら農産、海産其他雜穀等をも取扱ひ大體現狀の儘推移するものと見做すを適正とすべし。而して常磐炭は既に老境に入り採炭費增加して、市場の競爭に對抗し得ずとすれば、炭質に於ても類似し同炭より稍優良と見做さるゝ釧路及十勝、白糖炭が代りて販路を之に求むべきは論なく、採炭費の如きは殆んど露天掘にして常磐炭の比較に非らざれば、運賃の增加は採掘費の節約に依りて、市場競爭に打ち勝ち得べきものと認めらるゝに依り、本港修築完成し、釧路川治水工事竣工して港内諸掛り低減さるゝに伴ひ、出炭量亦增加して本港貿易貨物の隆昌をも招來すべきものと認めらる。

海陸連絡設備の改善

沿岸倉庫木材荷役

海陸連絡貨物を收容すべき沿岸倉庫は、僅かに五百坪内外に過ぎざる狀態なれば、此等の施設に對しても急速改善の要あるのみならず、後背地域より鐵道便にて送りたる木材を船積するにも、港心を相距る二哩の天寧停車場より下航せしめ、濱釧路停車場の海陸連絡設備亦不完全なるに依り、國有鐵道としては本港修築工事の完成と相俟つて、之が改善を企圖し集散貨物の增加に伴ひ漸を追ふて施設せば足るべしと雖も、現に尺別炭及上別保、上尾幌炭等が濱釧路驛到着後、一旦地上に取卸され、更に車馬にて沿岸に送り、然る後艀積と爲し、徒に港灣中繼費を增大せしむる時は、直接市價に影響し市場競爭上不利益の立場たらしめざるべからず。

石炭荷役

故に當面の懸案として之を解決する要あるのみならず、雄別炭亦港心を距る一哩有餘の地點に貯炭し、艀船積として下航せしめ本船積替する爲冬季碎氷船を使用する如き或は春採炭が知人貯炭場取卸し後、輕便軌道に依りて、船積場迄小運送する如きは、著しく不經濟なり。幸に現今の釧路及十勝、白糖炭は大部分露天掘にして採掘費を要せざる爲、港内中繼費の增加を負擔し得べしとするも、將來採炭費增加するに伴ひ、運送費の節約を要すべきは明かなるにも拘はらず、雄別炭礦鐵道線及釧路臨港鐵道線等何れも相當なる固定資本を投下し居り、更に臨港設備としての改善に要する費用を負擔し得べきか、假りに之を施設し得たりとするも、運賃を低廉ならしめて猶且、固定資本に對する收益を擧げ得べきや否や疑なき能はざるに依り、之を統一して完全なる施設たらしむるに如かざるべし。

石炭荷役の統一

本港の價値

港の效用

東部北海道に於ける物資の集散地として海陸連絡を簡捷ならしめんが爲に、防波堤を築造し埠頭を設けて港の效用を增進し、以て本港永遠の繁榮を期せんとするも、後背地域の生産額愈に增進せざる限りは、當分

小樽港に依りて呑吐せしむるを便宜とすること多かるべく、眞に本港を介して船積せざるべからざるものは運送費の節約を急務とする釧路、網走地方の木材及釧路、十勝、白糠炭等に歸着すべし。

特殊設備

而して木材は荷役簡便にして、何等の施設を要せざるも、石炭に對しては特殊設備を施して船車連絡を簡捷ならしむるを要す、然るに春採炭は臨港鐵道に賴り、上別保、上尾幌、及尺別炭、等は國有鐵道線を介し雄別炭は雄別炭礦鐵道を利用する等、各其輸送徑路を異にする爲、中繼諸掛り費を節約せんとして大規模の船積設備を爲せば、輸送量之に伴はず反つて不經濟なる狀態に付、須べからく本港全般の利害を考慮して、之を統一し一ヶ所に集中せしめて、貯炭場、繫船岸壁、其他特殊設備を施して所謂集約的經營に依りて、荷役の爲に碇泊する時間の節約を計り、以て海霧に因る作業の澁滯を救濟し、港灣修築の價値を發揮せしめて海運界其他普く之を世に紹介し、將來農產物の集散地たるべき基礎を茲に築かれんことを切望する所以なり。

修築の價値

八　結　論

港灣修築

港の任務

關門港は後背地に於ける生產、消費の中心地に可成近接するを有利とするも、中繼港は必ずしも後背地の存在を要せざるのみならず、假令後背地ありたりとするも、其れとの關係を顧みるよりは、寧ろ各國又は各地方に對する中繼上の便利あり、對外交通の焦點たるを要す。而して關門港が中繼貿易を兼帶することは、經濟上合理的現象なるに反し、中繼港が關門港を以て任ぜんとするは、經濟上不合理極まるものと言はざるべからず。

陸上施設の完備

されば函館港が海產物の集散地として中繼貿易を兼ね、小樽港は本道西部地方の關門港として、中繼貿易をも取扱ふことは敢へて怪むに足らざるも、港灣に適當なる設備なき爲此等の中繼貨物が本船より艀船に移し、一旦沿岸倉庫に收容され、更に艀船積と爲し然る後本船に積替へられ、海上運輸系統に屬する貿易貨物亦同樣にして、二回の艀船積替を要し、海陸連絡運輸系統に屬するものも、一回の艀船積替を爲さゞるべからず。

故に艀船積替の費用と、艀船通航の危險、荷役の敏捷を期するには埠頭若しくは棧橋を設備して從來の碇繫荷役を接岸荷役に改むるを急務とす。

而して國有鐵道は函館青森間、連絡航路經營上の必要より埠頭を造り、船車連絡を簡捷ならしめ、或は小樽及室蘭港に海上高架棧橋を築造して、石炭船積を至便ならしめ以て石炭の富源を開發したる如きは、何れも鐵道事業の附隨作業として、施設したるに過ぎざるなり。由來鐵道の主要目的は、極力多大の貨客輸送を掌握するものにして、商港と鐵道とは相互に培養作用を爲すものなるが故に、鐵道が商港設備を完備して鐵道利用の途を拓き、或は倉庫の築設して低廉なる保管料を徵する時は、貨物取扱費を低廉ならしめ自然着發貨物の增加を來して、鐵道の收益を增大すると共に、商港の繁榮をも招來すべしと雖も、此等は直接商港の盛衰に掛はるものなるを以て、國有鐵道は國家全般の利害を考慮し、社會政策上の見地より適正なりと認むるか、然らざれば船車連絡の專用に供する場合に非らざれば、之を施行し得さるべし。

商港と鐵道

依つて徒に競爭に耽らず一般貿易貨物の增加に伴ふ能力增進、經費節約に基因する諸般の施設を整ひ、永

遠の繁榮を計るべき責務は、懸つて市民各自の双肩に在り殊に港灣に天惠あり四六時中大船の出入自由なりと稱するも、自ら限度あるを以て集散貨物の增加するに伴ひ不便を招來すべきは當然の理に付、膨脹より生ずる交通量の劇增は之を如何に處理すべきかに就ては自ら進んで解決の任に膺らさるへからず。

天惠必ずしも大ならず

各港間の競爭

小樽函館港の競爭

凡そ物資の供給に當り一需要に對し數多の供給者ある場合、自由競爭行はるゝと等しく、同一市場に數種の交通ある時は、當然生すべき結果として商港間にも激烈なる競爭起るべきこと論なし。現に小樽港は函館港の海産物又は室蘭港の石炭或は釧路港の木材類を誘引し、其他釧路及根室港の昆布類は函館港に吸收され、採算上、其利益とする商港に隨時轉換して般盛其度を異にする傾向を有せり。

而して商港間の競爭は、海上運賃、港内諸掛り鐵道賃金等の三費用に依りて決定され、其影響最も大なるものは鐵道政策にして特定賃金を設定して、賃率を低下せしむると否とに依りて、商港の盛衰を來さしむることなしとせざるも、國有鐵道政策

鐵道政策

港内諸掛り

は甲の生産地海港間に特定運賃を設けて、乙に之を適用せざる如きこと絶對になく、現今の海上運賃亦距離の影響比較的尠しとせば、商港間の競爭は港内諸掛り丈に基因するに依り、函館港は海産品。小樽港は雜穀、其他石炭、木材類、室蘭港は石炭、釧路港亦石炭、木材類、其他雜穀等を消化すべき使命を有すとせば、各港其任務に基きて此等に對する港内諸掛りより、冗費を省きて集散貨物の增加を圖り、各港間の競爭は各自相戒めて之を避け、以て共榮を期せざるべからずと雖も、自由競爭に依りて進歩發達し、競爭に刺戟されて港灣設備の改善を行はしめたる事例亦乏しからざるなり。

今大正十三年九月の物價に對する冗費、即ち各港の艀船賃及仲仕賃金の比率を求めたるに次の通りにして函館港は海産品の集散地丈に此等に對する港内諸掛り比較的低廉なるもの〻如く、釧路港の高率は港灣施設の不備に起因し、築港完成後は低減し得べき見込みなりと雖も各港は是以上低減の餘地なしとせば、設備に依つて節約を企圖するより他に方策なかるべし。

物價に對する負擔率

品目	單價	函館港	小樽港	室蘭港	釧路港
魚粕一俵	一六、八〇錢	〇、〇〇六八	〇、〇〇九九	〇、〇〇八五	〇、〇〇八九
棒鱈一ケ	三九、四三	〇、〇〇三三	〇、〇〇三九	—	〇、〇〇三八
干魚同	六〇、〇〇	〇、〇〇二一	〇、〇〇二六	—	〇、〇〇二五
貝柱同	一八七、〇〇	〇、〇〇〇一	〇、〇〇一〇	—	〇、〇〇〇八
身欠鰊同	九、五〇	〇、〇一九〇	〇、〇〇七八	—	〇、〇一四〇
筋子同	二〇、〇〇	〇、〇三二〇	—	—	〇、〇四七〇
魚類同（ビール箱）	一三、九〇	〇、〇〇九三	—	〇、〇一五〇	〇、〇〇九五
同同（中箱）	二一、一八	〇、〇〇四〇	—	〇、〇〇四一	〇、〇〇五二
鮭鱒同（莚包）	七、二三	〇、〇〇八八	〇、〇一三〇	—	〇、〇一二〇
雜穀一俵	一四、四〇	〇、〇〇四八	〇、〇〇五二	〇、〇〇四一	〇、〇〇四六
燕麥類同	三、三〇	〇、〇二一〇	〇、〇二一〇	〇、〇一八〇	〇、〇二一〇

石炭（一噸）	二二、五〇	—	〇、〇八九〇	〇、〇七三〇	—
同（夕張塊）	一三、〇〇	—	—	—	〇、〇五五〇
同（釧路炭）	八四、〇〇	—	〇、〇二二〇	〇、〇二六〇	〇、〇二一〇
木材類	—	—	—	—	—

冗費の負擔率大なるもの

以上は海産、農産、鑛産、林産物中の一部を摘錄したるに過ぎざるも、物價に對する港内冗費の負擔率大なるものは、石炭、木材及燕麥等にして燕麥は單價低位なるに基因し、木材類は伐採費低廉にして原價の大部分が運送費なることに想到せは、二分の負擔敢へて苛税ならざるべしと雖も、石炭は七、八分の中繼費を負擔するのみならず、大正十三年七月調査に掛る、石炭採掘より汽船積となる迄の費用は大略次の如く、而も採掘費の節約容易ならずとせば汽船積賃に對する冗費を省くに如かざるを以て、大量輸送を掌握する國有鐵道は卒先して此等に對する特殊の設備を施して節約を計り、以て其發達を助成するが如きは蓋し適正なる處置たるべきものと信せらる。

石炭汽船積設備

坑所別	貨車乘原價	鐵道賃	汽船積賃	合計
北海道炭	六、〇〇〇噸	二、五〇〇錢	、七五錢	九、二五錢
筑豐炭	六、五〇	一、一〇	一、〇〇	八、五〇
基隆炭	四、一四	〇、六五	一、〇〇	五、七九
撫順炭	二、三七	五、四〇	、七〇	八、四七
開平炭	三、五〇〇	一、〇五	、二〇	四、七五
	四、二〇〇			五、四五

以上は資本償却、販賣諸費、及利潤、等を見込まざる直接生産費とす。

港灣の特殊設備

特殊貨物に對する機械力の應用

文化の發達に隨伴して社會組織の複雜を招來し、經濟組織の發達は其組織の複雜を意味すると異る所なく産業の發達亦、分業に依りて益々大を致すと等しく、海陸運輸に關する諸般の施設も、其取扱ひ貨物の種類卽ち嵩高品、或は重量品にして比較的安價なるもの、及相當高價にして取扱に勞力を要するもの、並に特殊の注意を拂ふに非らざれば、貨物を良好なる狀態に於て運送すること能はざるもの、等に依りて各々施設を異にし、更に機械力を應用せば最も迅速、且經濟的、取扱を爲し得るが故に、各港灣に對する海陸連絡設備に對しては、夫々改善を怠らざるも、就中本道生産品中生産額の首位を占むる石炭に就ては、現に小樽、室蘭兩港に「トレッスル」型船積高架棧橋を築造して、船車積替費を節約し得たり。

船舶焚料炭舒船積設備

然るに小樽港の積出炭は約半數船舶焚料炭にして、室蘭港亦尠からざる數量に達せるにも拘はらず、艀船積に對しては何等の施設なきのみならず、沿岸延長短少の爲貯炭場の大部分は相當距離を搬出せざるべからざる狀態に付、貯炭場に對しては船入場を必要とすべし、加之高架棧橋は木造にして既に十四ヶ年を經過して、命脈盡きんとし强て之を利用せんとせば年々多額の補修費を要し、經常費亦增大して夥しく不經濟に付改善を企圖せざるべからざるも兩港灣中最も價値ある現在石炭取扱場を捨て、比較的價値乏しき場所を選定して施設せんとする如きは、果して賢明なる處置たるべきか疑なき能はず、殊に室蘭港の如きは當分農産品其他雜貨の集散地として繁榮を極むる見込み乏しきものと認めらるゝを以て寧ろ石炭積出港として繁榮せし

車上貯炭制

むべき有意義の施設を講せざるへからず。

然して石炭汽船積費用を節約せしむるには、到着石炭積貨車より直接汽船に積込ましむることとし所謂車上貯炭制を最も便宜とするも、之を實施するに當りては坑所貯炭、採掘量、汽船積量等を調査して構内線路、所要貨車數等を決定するを要するに依り本件に就ては別途講究することとしたり。

北海道の石炭

本邦石炭の大勢

本邦產石炭中產額に於て優越せる九州炭田は既に老境に入り、採掘費增加して躍進の狀なく、常磐炭亦炭質埋藏量等多く望を囑し得ざるものとすれば、之に代りて販路の擴張を試み採炭事業の擴張を策して將來活躍すべきものは、本道產石炭を措いて他に之を求め得べからざることは何人も異論なかるべし。

十年後の出炭量

依つて既往の經過、並に各炭坑の能力、及將來の企畫、を參酌し十年後の出炭量を豫想して地帶別に分類せば次の如く約千百五十萬噸を算せり。

夕張線	四、〇〇七、〇〇〇噸
萬字線	六八九、〇〇〇
幌內線	九五四、〇〇〇
峰延砂川間	二、四九九、〇〇〇
歌志內線	一、二四一、六〇〇
幌倉上芦別間	一、一二五、〇〇〇
浦幌尾幌間	九三三、〇〇〇
留萠（含雄別）線	一二、〇〇〇
其他	三五、〇〇〇
計	一一、四九五、六〇〇

國有鐵道輸送量

以上は札幌鐵道局の調査なるが北海道鑛業組合の豫想と大差なきを以て之を妥當と認め、其內九四%に相當する一千百五十萬噸は國有鐵道に依りて輸送され、七七%は港灣着炭となるべきものと見做さるゝも、美唄炭坑の事業擴張、其他留萠築港の完成、又は長輪線の全通等に依りて分布狀態に變革を來すべきことあるを豫想し、先つ七二%に該當する八百二十八萬噸を既往の實績に徵して按分し、保留したる五%の過半は小樽港着炭となり、其他は函館、留萠港到着となりて增加すべきものと認め、各港灣着炭を豫想するに次の如し。

港灣着炭の豫想

然して小樽及室蘭港に於ける船積炭は港內諸掛りの低減に依りて隨時變化を來し延て港灣の盛衰をも招來すべき虞あるを以て諸般の施設政善に關しては素より同一步調を迚る要あるは勿論にして、此等の施設に關しては別途調査の步を進むるものなれとも、本道の港灣を究むるに當りては、道內集散貨物の大宗たる石炭が、將來港灣に向つて幾何量輸送さるべきかを、豫想するも亦敢へて徒爾ならずと信じ、玆に之を附記せる所以なり。

港灣	既往の實績に依り按分したるもの	保留せる五%を配分せるもの	計
函館	二四八、四〇〇噸	一一五、〇〇〇噸	三六三、四〇〇噸

露光量違いの為重複撮影

附表

小樽	三、二二九、〇〇〇	三四五、〇〇〇	三、五七四、二〇〇
室蘭	四、五五四、〇〇〇	—	四、五五四、〇〇〇
釧路	二四八、四〇〇	—	二四八、四〇〇
留萌	—	一一五、〇〇〇	一一五、〇〇〇
計	八、二八〇、〇〇〇	五七五、〇〇〇	八、八五五、〇〇〇

露光量違いの為重複撮影

附表

小樽	三、二二九、〇〇〇	三四五、〇〇〇	三、五七四、二〇〇
室蘭	四、五五四、〇〇〇	—	四、五五四、〇〇〇
釧路	二四八、四〇〇	—	二四八、四〇〇
留萌	—	一一五、〇〇〇	一一五、〇〇〇
計	八、二八〇、〇〇〇	五七五、〇〇〇	八、八五五、〇〇〇

第一號表　　北海道各種產業生產價額調書　其ノ一

品目	種別	大正元年	同二年	同三年	同四年	同五年	同六年	同七年	同八年	同九年	同十年	同十一年	同十二年
農業	農業人口	人 881.648	893.202	936.939	969.340	991.117	1.019.430	1.073.881	1.067.334	1.034.032	1.069.958	1.007.181	982.324
	耕地反別 田	町反 49.352. 4	55.628.7	57.602.0	60.019.3	63.313.7	67.405.0	70.874.7	73.879.2	83.846.1	93.354.9	105.282.6	118.129.8
	耕地反別 畑	町反 568.257. 7	574.396.7	596.174.1	623.260.2	647.910.0	679.132.6	724.316.8	742.239.9	755.224.1	761.222.4	742.740.3	708.316.8
	農作物總價額	円 52,392.836	30.834.312	49.684.000	53.193.902	75.664.555	111.179.142	147.417.806	191.780.976	118.925.910	153.004.258	109.075.477	124.204.312
	果物總價額	円 692.119	528.191	588.973	461.731	591.716	763.330	1.000.429	1.699·720	1.645.240	1.633.631	1.824.968	1.653.117
蠶業	飼養戶數	戸 7.441	7.953	7.594	6.775	7.145	8.199	7.990	7.045	6.456	4.774	4.654	5.402
	總價額	円 373.146	323.264	350.364	229.019	313.357	469.249	478.309	652.296	262.883	242.497	283.773	313.149
牧業	家畜 牛	頭 18.348	16.402	16.098	16.267	16.323	17.818	18.872	20.561	21.547	23.346	25.645	29.424
	家畜 馬	頭 181.920	183.298	196.882	198.556	196.607	194.566	190.543	181.261	176.721	179.824	194.855	210.089
	家畜 緬羊	頭 188	186	308	354	456	537	653	860	996	1.656	2.072	5.915
	家畜 山羊	頭 185	148	334	426	376	380	576	545	488	320	391	484
	家畜 豚	頭 10.324	6.925	6.764	8.017	7.808	9.485	11.336	17.708	33.026	36.324	35.301	32.732
	家禽	羽 811.785	820.687	786.077	763.090	911.264	1.153.054	1.054.156	1.083.521	1.096.768	1.349·984	1.728.546	1.738.221
	畜產物總價額	円 1.481.182	1.518.040	1.577.925	2.400.006	3.132.569	4.277.965	6.636.449	9.185.604	10.162.343	10.074.446	10.539.830	11.285.693
漁業	漁業人口 業主	人 —	—	—	—	—	—	—	—	—	49.492	50.861	50.121
	漁業人口 被用者	人 —	—	—	—	—	—	—	—	—	114.138	125.314	137.014
	漁船 有動力	艘 —	—	28	77	89	103	148	249	390	332	397	473
	漁船 無動力	艘 60.519	60.589	61.160	60.141	60.583	60,851	61.329	61.281	59.392	59.448	59.449	58.226
	水產價額 漁獲物	円 14.251.239	19.161.256	18.187·065	16.800.677	22.727·199	21,984,081	30.056.331	50.802.379	48.163.860	42.708.714	45.973.741	53.688.142
	水產價額 製造物	円 16.521.350	20.389.676	18.452.189	15.839.475	24.463.270	26.227.436	32.900.785	60.782.201	47.850.552	52.840.979	47.503.069	58.345.620
	水產價額 養殖	円 —	—	海獺皮 629	1.790	808	943	1.590	3.877	1.968	583.471	75.747	119.168
	水產價額 遠洋漁業	円 —	—	4.500	33.178	56.276	173.076	64.738	522.057	431.971	1.108.309	2.299.916	2.352.849
	水產物總價額	円 30.772.459	39.550.932	36.644.383	32.675.120	47.247.553	48.385.536	63.113.444	112.110.514	96.448.351	97.241.473	95.852.473	114.505.779

第一號表　北海道各種產業生產價額調書　其ノ二

品目	種別		大正元年	同二年	同三年	同四年	同五年	同六年	同七年	同八年	同九年	同十年	同十一年	同十二年
工業	工場數		609個	469	545	1.108	1.664	2.458	2.972	1.215	1.209	2.734	3.301	1.167
	職工數	男	24,151人	23.606	27.368	28.187	35.907	37.511	40.300	47.465	62.844	28.235	27.662	23.136
		女	4.266人	4.274	5.257	5.718	7.333	9.094	11.185	12.353	13.434	7.888	9.230	9.354
		計	28.417人	27.880	32.625	33.905	43.240	46.605	51.485	59.818	76.278	36.123	36.892	32.490
	工產價格	釀造物	6.255.290円	6.448.145	4.128.372	5.830.313	6.237.623	9.787.715	14.795.199	23.744.350	20.977.224	16.242.842	19.139.291	21.703.941
		麥酒	477.962円	610.291	725.304	665.864	1.377.767	2.969.666	3.650.872	5.168.422	5.980.000	5.207.569	6.227.124	5.991.934
		澱粉	890.139円	1.158.895	1.466.216	2.941.415	7.487.149	14.699.587	18.193.048	10.851.973	2.865.273	2.864.515	3.745.790	3.736.731
		諸機械	508.203円	2.798.122	3.922.911	7.570.144	11.201.463	21.187.391	25.815.703	22.173.585	18.336.638	18.666.872	20.192.601	13.524.744
		燐寸軸木	663.557円	827.542	817.617	764.506	1.003.391	1.319.872	1.197.727	1.623.296	2.032.714	804.997	346.543	326.457
		薄荷	1.579.273円	1.051.263	991.909	1.709.428	1.745.932	949.412	677.724	1.044.167	1.036.066	1.241.489	2.398·035	2.738.133
		織物	375.874円	423.689	492.117	513.062	603.371	543.837	1.029.155	933.139	765.452	1.907.793	2.264.383	2.157.228
		洋紙	4.347.901円	4.393.776	5.535.175	6.567.021	7.111.043	8.626.207	10.548.055	13.694.302	18.194.563	21.276.469	22.279.568	25.482.623
		製粉	688.082円	716.393	747.693	400,520	825.845	1.217.461	2.206.616	1.988.923	1.957.864	1.763.187	2.471.802	1.847.522
		セメント	1.106.515円	888.138	324.000	484.732	1.507.563	3.804.321	5.370.000	5.396.850	6.398.676	4.551.000	12.660.000	12.368.000
		製麻	393.434円	646.808	—	—	1.374.977	2.416.939	5.244.221	5.925.235	6.037.057	6.539.604	5.709.424	4.672.188
	工產物總價額		22,761.686円	26.697.552	28.725.768	39 313.316	63.504.632	101.504.741	140.740.186	164.699.991	150.029.107	131.301.515	149.312.784	156.251.546
鑛業	採堀坪數		163.688.859坪	165.062.619	191.539.867	195.679.165	203.179.820	209.536.002	221.531.173	247.911.468	273.311.981	258.745.819	255.561.808	277.165.328
	試堀坪數		632.128.462坪	657.207.797	692.260.469	802.699.522	968.712.084	1.442 865.457	2.005.669.326	2.502.605.901	2.572.874.383	2.174.581.079	2.174.581.079	1.182.446.436
	鑛產物總價額		18.967.838円	20.891.854	11.633.546	10.572.960	17.678.612	26.671.407	53.646.871	81.768.601	74.241.833	35.410.383	41.979.435	44.325.080
林業	御料地面積		—	—	—	—	—	—	—	—	—	911.169	946.773	946.759
	國有林面積		3.674.110町	3.594.949	3.556.658	3.480.471	3.461.219	3.449.063	3.395.561	3.340.933	3.299.289	3.504.682	3.540.038	3.537.749
	總面積		4.121.472町	3.990.918	4.049.177	4.288.972	4.505.915	5.597.042	4.554.493	4.779.467	4.875.541	6.487.768	6.633.271	6.700.142
	林產物總價額		10.925.588円	12.619.074	12.208.429	11.427.280	19.565.073	30.835.477	43.807.690	59.827.204	48.878.985	24.292,947	24.912.744	31.836.663
生產物總價額			138·366·854円	132·963·219	141·413·338	150·273·334	227·698·067	324·086·847	456·841·184	621·724·906	500·594·652	453·201·150	433·781·484	484·375·339

品目	品名	大正八年 噸數	大正八年 噸哩	大正八年 一噸平均輸送哩	同九年 噸數	同九年 噸哩	同九年 一噸平均輸送哩	同十年 噸數	同十年 噸哩	同十年 一噸平均輸送哩	同十一年 噸數	同十一年 噸哩	同十一年 一噸平均輸送哩	同十二年 噸數	同十二年 噸哩	同十二年 一噸平均輸送哩	同十三年 噸數	備考
		噸	哩	哩分	噸	哩	哩分	噸	哩	哩分	噸	哩	哩分	噸	哩	哩分	噸	
農産品	米	98.364	9.005.296	91.5	152.491	12.601.283	82.9	167.570	14.119.112	84.3	162.927	13.917.735	85.4	186.528	15 685.908	84.1	220.691	
	麥類	14.441	1.327.572	91.9	22.588	1.753.632	77.6	24.498	1.994.903	81.4	23.151	1.496.696	64.6	23.093	1.699.413	73.6	25.413	
	大豆	22.953	3.900.453	169.9	44.217	9.546.219	215.9	67.602	14.626.190	216.4	63.877	13.503.322	211.4	48.683	9.088.079	186.7	56.895	
	雜穀	244.327	53.836.279	220.3	190.107	43.323.101	227.9	224.080	37.691.079	168.2	195.798	35.037.008	178.9	184.596	31.612.858	171.3	173.296	
	生甘藷	5.394	852.296	158.0	4.319	541.284	125.3	3.600	496.809	138.0	2.811	394.098	140.2	3.881	525.117	135.3	2.131	
	生馬鈴薯	—	—	—	11.257	2.432.489	216.1	10.188	3.183.135	312.4	8.825	2.610.759	295.8	6.054	1.165.556	192.5	14.608	
	生野菜	25.612	3.879.112	151.5	36.099	4.474.959	124.0	58.762	6.556.350	111.6	88.855	9.193.319	103.5	148.936	14.100.507	94.7	170.388	
	柑橘類	—	—	—	2.900	433.190	149.4	4.219	484.313	114.8	3.655	404.838	110.8	4.725	526.727	111.5	3.333	
	其他生果	16.616	6.499.940	391.2	7.711	797.162	103.4	7.696	741.634	96.4	13.305	1.622.846	122.0	12.830	1.160.894	90.5	13.535	
	藁工品	56.629	5.987.534	105.7	62.341	6.149.915	98.6	68.979	7.597.772	110.1	61.690	5.418.005	87.8	65.841	6.838.819	103.9	66.357	
林産品	木材	1,358.097	193.840.064	142.7	1,727.154	244.399.160	141.5	1,344.006	204.169.581	151.9	1.377.511	185.798.516	134.9	1.533.425	203.370.211	132.6	1.762.323	
	木炭	162.546	11.307.901	69.6	165.386	13.102.705	79.2	216.061	27.490.357	127.2	261.563	48.522.373	185.5	276.478	59.188.430	214.1	258.383	
	薪	131.708	9.085.844	69.0	115.945	8.606.429	74.2	137.200	12.084.862	88.1	130.434	125.701.146	96.4	141.040	14.448.222	102.4	146.560	
鑛産品	石材	69.882	2.682.763	38.4	62.495	2.853.549	45.7	77.243	3.340.804	43.3	114.839	4.449.334	38.7	66.700	3.128.741	46.9	52.028	
	砂利	174.148	3.555.040	20.4	205.206	4.421.014	21.5	147.847	3.650.541	24.7	136.056	3.593.145	26.4	202.837	6.472.931	31.9	187.172	
	石炭	3,837.533	326.179.879	85.0	3.788.791	328.049.538	86.6	3,084.163	263.258.777	85.4	3.708.711	315.063.683	85.0	4.025.929	348.232.339	86.5	3.735.932	
	骸炭	61.507	3.761.264	61.2	54.325	3.602.620	66.3	29.310	2.125.948	72.5	22.456	1.892.405	84.3	199.346	26.588.720	133.4	19.640	
	鑛	51.132	2.303.286	45.0	87.846	9.154.776	101.9	34.604	4.085.961	118.1	36.752	4.738.528	128.9	14.332	402.796	28.1	9.661	
	礦物	66.031	8,225.467	124.6	95.243	11.796.774	122.9	50.880	5.277.464	103.7	45.038	4.280.842	95.0	58.598	5.929.927	101.2	67.494	
	石油類	13.308	1,372,785	103.2	14.451	1.378.311	95.4	14.683	1.528.911	104.1	13.382	1.339.967	100.1	16.187	2.136.955	132.0	20.313	
	鐵及鋼	49.859	2,202.964	44.2	40.379	4.474.524	110.8	27.653	3.289.062	118.9	50.197	5.642.881	112.4	53.077	7.152.930	140.6	50.413	
	銅	1.829	1.017.604	556.4	1.458	861.518	590.9	857	249.497	291.1	726	34.417	47.4	783	34.083	43.5	639	
水産品	海藻類	—	—	—	—	—	—	2.340	925.879	395.7	2.891	776.079	268.4	3.252	812.300	249.8	3.700	
	鹽	13.104	1,265.970	96.6	20.071	1·699.394	84.7	20.603	1.719.704	83.5	18.710	1.559.739	83.4	21.524	1.857.119	86.3	22.354	
	鹽干魚	28.923	11.241.317	388.7	57.508	21.768.388	378.5	66.470	21.041.390	316.6	63.536	19.183.665	301.9	67.275	20.393.039	303.1	71.198	
	生鮮魚	16.063	2.343.955	145.9	51.487	7.077.602	137.5	54.856	7.621.965	138.9	52.357	6.451.187	123.2	55.759	6.494.900	116.5	59.712	
加工食料品	小麥粉	6.777	459.687	67.8	8.621	755.670	87.7	10.199	902.581	88.5	8.775	762.492	86.7	10.373	902.394	87.0	13.767	
	澱粉類	—	—	—	60.138	9.068.462	150.8	33.922	4.761.541	140.4	32.274	4.215.940	130.6	31.779	4.530.133	142.6	39.567	
	砂糖類	7.875	700.748	89.0	13.125	1.098.796	83.7	17.714	1.601.853	90.4	22.922	2.679.398	116.9	28.692	3.706.702	129.2	30.560	
	味噌醬油	5.533	604.724	109.3	17.980	1.598.163	88.9	20.924	1.963.818	93.9	19.361	1.771.629	91.5	21.019	1.909.016	90.8	23.914	
	漬物類及乾野菜	—	—	—	15.785	2.424.710	154.6	1.264	144.178	114.1	838	114.222	136.3	1.596	147.845	92.6	—	
嗜好品	茶	497	59.920	120.6	32	3.688	115.3	43	6.592	153.3	26	3.194	122.8	47	4.869	103.6	96	
	煙草	877	59.196	67.5	2.811	225.375	80.2	2.219	200.054	90.2	2.018	187.322	92.8	2.701	240.319	89.0	3.054	
	清酒	9.805	1.337.187	136.4	30.686	3.053.810	99.5	25.768	2.343.862	91.0	23.357	1.983.819	84.9	25.375	2.244.836	88.5	29.199	
	麥酒	14.863	1.620.798	109.0	21.106	2.039.254	96.6	19.761	1.930.146	97.7	20.456	1.640.014	80.2	22.987	2.307.548	100.4	30.070	
	清涼飲料水	2.576	340.358	132.1	3.917	384.726	98.2	3.068	295.867	96.4	3.338	305.812	91.6	4.214	425.073	100.9	4.902	

第二號表　鐵道主要貨物發送噸數及噸哩　其ノ二

品目	品名	大正八年 噸數	大正八年 噸哩	大正八年 一噸平均輸送哩	同九年 噸數	同九年 噸哩	同九年 一噸平均輸送哩	同 噸數	同 噸哩	同 一噸平均輸送哩	同十一年 噸數	同十一年 噸哩	同十一年 一噸平均輸送哩	同十二年 數噸	同十二年 哩噸	同十二年 一噸平均輸送哩	同十三年 噸數	備考
		噸	哩	哩分	噸	哩	哩分	噸	哩	哩分	噸	哩	哩分	噸	哩	哩分	噸	
肥飼料	人造肥料	55.322	8.314.689	150.3	36.875	5.707.921	154.8	48.352	7.739.849	160.1	51.587	7.957.331	154.3	54.614	8.537.037	156.3	61.444	大正十三年發送噸數ハ連帶運輸數量ヲ含マス
	大豆粕肥料	8.830	677.966	76.8	1.868	115.263	61.7	1.628	161.824	99.4	3.461	273.688	79.1	5.710	454.899	79.7	8.456	
	魚粕肥料	50.346	25.689.291	510.3	61.777	27.439.718	444.2	49.101	14.749.144	300.4	32.229	9.355.495	290.3	56.068	13.895.447	247.8	81.059	
	其他肥料	14.907	3.132.246	210.1	7.913	1.529.088	193.2	9.127	1.898.199	208.0	8.592	2.076.905	241.7	10.995	2.016.150	183.4	15.297	
	飼料	72.169	10.140.686	140.5	138·047	17.556.553	127.2	126.456	25.150.139	198.9	118.117	20.064.603	169.9	131.223	16.251.353	123.8	120.224	
布帛類	綿	1.729	70.886	41.0	2.965	231.166	78.0	3.928	333.243	84.8	3.862	372.012	96.3	4.336	439.106	101.2	4.008	
	綿糸	9	4.130	458.9	83	14.148	170.5	38	3.827	100.7	78	13.721	175.9	195	35.217	180.6	115	
	綿織物	190	18.827	99.1	1.515	190.938	126.0	2.832	301.334	106.4	3.093	363.444	117.5	3.180	359.312	113.0	1.343	
	繭	8	5.609	701.1	92	8.567	93.1	44	4.018	91.3	67	4.170	62.2	163	26.987	165.6	180	
	絹織物	10	2.805	280.5	46	8.536	185.6	23	3.457	150.3	50	7.233	144.7	49	6.312	128.8	38	
	毛織物	114	31.977	280.5	34	3.419	100.6	44	6.272	142.5	39	4.395	112.7	108	8.297	76.8	178	
	麻苧類	—	—	—	44.168	4.729.445	107.1	5.701	2.727.977	478.5	9.396	4.464.129	475.1	12.916	2.695.855	229.6	7.968	
窯業品	石灰	2.964	450.285	151.9	2.905	391.676	134.8	2.352	253.261	107.7	2.400	322.780	134.5	2.639	340.172	128.9	1.998	
	セメント	39.069	8.214.085	210.2	54.726	10.161.058	185.7	72.859	11.352.457	155.5	111.552	14.958.765	134.1	152.994	19.796.199	129.4	196.040	
	煉瓦	35.657	2.160.724	60.6	38.225	1.948.917	51.0	32.040	1.812.713	56.6	31.503	1.561.732	49.6	26.499	1.232.129	46.5	22.961	
	陶磁器及土器	460	58.291	126.7	6.551	626.819	95.7	4.267	500.248	117.2	6.502	831.168	127.8	6.758	790.761	117.0	5.775	
	硝子類及其製品	2.360	213.173	90.3	3.845	461.911	120.1	7.072	736.493	104.1	8.000	790.502	98.8	11.018	1.142.375	103.7	10.954	
工産品	パルプ及檜樓類	29.354	13.065.597	445.1	41.852	16.319.989	389.9	46.386	7.991.907	172.3	52.649	6.528.521	124.0	47.741	5.228.400	109.5	58.382	
	和紙	—	—	—	970	202.182	208.4	825	122.279	148.2	757	109.892	145.2	1.200	184.823	154.0	1.214	
	洋紙	84.650	19.696.628	232.7	105.712	22.752.901	215.2	110.877	9.125.404	82.3	118.489	8.411.537	71.0	125.802	8.820.869	70.1	141.517	
	疊表類	108	12.188	112.8	416	28.342	68.1	666	63.220	94.9	947	98.198	103.7	1.341	145.089	108.2	1.165	
	鐵及鋼製品類	9.686	1.206.036	124.5	13.540	1.944.597	143.6	10.408	1.107.872	106.4	19.355	2.286.537	118.1	39.371	4.260.525	108.2	39.368	
	漆器	—	—	—	65	5.300	81.5	63	6.008	95.4	57	8.775	153.9	75	6.708	89.4	88	
	機械類	—	—	—	7.436	1.007.087	135.4	7.481	801.108	107.1	7.113	592.454	83.3	8.274	810.348	97.9	10.529	
	油脂蠟類	—	—	—	1.156	107.692	93.2	1.353	140.627	103.9	1.634	186.105	113.9	4.412	406.867	92.2	5.255	
	染料顔料及塗料	2.953	657.056	222.5	2.632	885.192	336.3	931	209.860	225.4	495	139.088	281.0	880	102.346	116.3	774	
	藥品類	530	63.254	119.3	624	255.128	408.9	2.074	346.525	167.1	2.098	360.779	172.0	2.350	371.987	153.3	3.181	
	燐寸類	279	51.931	186.1	238	24.512	107.0	267	29.592	110.8	273	30.749	112.6	297	29.611	99.7	281	
畜産品	鮮肉	—	—	—	130	6.348	48.8	268	21.650	80.8	355	35.824	100.9	351	23.545	67.1	503	
	皮革類	—	—	—	91	34.008	373.7	126	56.942	451.9	105	52.914	503.9	218	110.873	508.6	201	
	獸毛	—	—	—	—	—	—	3	1.986	661.9	12	3.371	280.9	1	968	967.7	30	
	牛	2.534	294.773	116.3	3.333	422.986	126.9	3.671	520.691	141.8	4.496	679.596	151.2	4.497	695.773	154.7	5.432	
	馬	33.172	6.539.790	197.1	32.029	5.493.847	171.5	27.148	5.406.490	199.1	28.169	5.093.590	180.8	23.855	3.776.810	158.3	27.235	

第三號表　鐵道主要貨物市

品名＼發送所	函館市	渡支	鳥廳	小樽市	後支	志廳	札幌市	石支	狩廳	空知支廳	室蘭市	膽支	振廳
	噸	噸	噸	噸	噸	噸	噸	噸	噸	噸	噸	噸	噸
石炭	—	—	—	—	—	—	—	—	—	2.716.372	—	—	—
木材類	—	—	—	—	—	—	—	—	—	112.735	—	—	—
米	8.353	—	14.016	—	6.783	—	19.025	—	—	—	—	—	—
麥類	—	—	11.174	—	—	—	2.062	—	—	754	—	—	—
燕麥	—	—	—	—	36.644	11.493	7.924	—	—	—	—	—	—
大豆	3.017	—	—	—	—	—	—	—	—	2.655	—	—	—
豆類	—	—	—	5.158	—	3.659	—	—	—	11.706	—	—	—
雜穀	1.549	—	—	—	—	2.925	—	—	—	—	—	—	—
生野菜	—	—	—	—	15.210	—	4.317	—	—	—	—	—	—
果物類	1.135	—	1.285	7.616	369	—	—	466	—	4.775	—	—	—
亞麻苴	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
木炭	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	100.106
薪	—	7.681	—	—	—	—	3.454	—	—	2.483	—	1.167	—
骸炭	2.522	—	—	5.211	—	—	8.974	1.591	4.794	6.597	—	—	—
生鮮魚	—	3.514	9.844	7.551	—	—	—	—	—	663	—	—	—
鹽干魚	42.431	2.464	4.826	3.128	—	—	—	—	—	—	—	—	—
鹽	1.595	—	12.471	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
石材	—	3.334	5.745	3.404	—	—	4.043	—	46.392	—	—	—	—
砂利	—	—	—	30.860	—	—	15.679	—	—	—	—	—	—
鐵	—	5.153	—	2.465	—	—	—	—	7.775	—	—	—	—
礦物	—	—	5.837	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
鐵及鋼	—	—	27.359	—	2.380	—	1.327	7.818	—	3.941	—	—	—
石油類	437	—	8.083	3.291	—	—	—	337	—	—	—	—	—
澱粉類	—	—	—	2.555	—	—	—	—	—	—	—	—	—
味噌醬油	—	—	5.740	—	5.070	—	—	—	—	3.304	—	—	—
砂糖類	—	—	10.138	—	1.815	—	—	—	—	1.383	—	7.047	—
清酒	—	—	3.885	—	2.382	—	—	—	—	7.585	—	—	—
麥酒	—	—	—	—	18.250	—	—	—	—	—	—	—	—
パルプ及ボロ紙	—	—	—	—	—	—	—	—	76.333	—	18.788	—	13.802
洋紙	—	—	—	—	—	39.004	—	—	—	—	—	—	—
鐵及鋼製品	—	—	7.363	—	3.243	—	—	3.333	—	—	—	—	—
煉瓦	1.333	—	—	—	—	19.314	2.614	1.242	—	—	—	1.162	—
セメント類	2.749	53.341	4.614	—	2.620	—	33.616	—	—	5.407	—	—	—
藁工品	3.721	—	40.332	—	—	—	—	—	—	3.318	—	—	—
肥料	14.433	19.657	23.004	7.167	—	—	—	—	—	4.038	—	—	—
飼料	—	—	4.686	—	6.521	—	1.655	—	—	6.982	3.122	—	—
馬	—	—	—	—	787	—	—	—	1.532	738	—	2.892	—
牛	212	—	—	220	232	—	292	320	—	158	—	174	—
計	83.487	95.644	200.402	78.626	102.306	76.395	2.934.089	15.107	236.932	77.358	77.371	126.000	21.236

支廳別發着數量　其ノ一發送　大正十一年

釧路市	釧路支	根室支	室廳	網走支	走廳	宗谷支	谷廳	留支	廳	摘要
噸	噸	噸	噸	噸	噸	噸	噸	噸	噸	年間
—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	100.000噸以上ノ發廳ノミ計上
—	—	—	—	82.932	36.477	—	—	—	—	〃 30.000 〃
—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	〃 5.000 〃
—	—	—	—	754	—	—	—	—	—	〃 500 〃
—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	〃 3.000 〃
—	—	—	—	2.655	—	—	—	—	—	〃 2.000 〃
—	—	—	—	11.706	—	—	—	—	—	〃 3.000 〃
—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	〃 1.000 〃
—	2.101	—	—	4.775	—	—	—	—	—	〃 2.000 〃
—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	〃 300 〃
—	—	—	—	2.483	—	—	—	1.167	—	〃 1.000 〃
—	—	—	—	6.597	—	—	—	—	—	〃 5.000 〃
—	—	—	—	663	—	—	—	—	—	〃 3.000 〃
—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	〃 1.000 〃
4.232	—	—	—	—	—	—	—	5.515	—	〃 2.000 〃
—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	〃 1.500 〃
3.202	—	—	—	—	—	—	—	—	—	〃 500 〃
—	9.641	—	—	—	—	—	—	—	—	〃 3.000 〃
—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	〃 5.000 〃
—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	〃 5.000 〃
—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	〃 2.000 〃
—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	〃 1.000 〃
—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	〃 300 〃
—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	〃 1.000 〃
—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	〃 〃 〃
—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	〃 〃 〃
—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	〃 〃 〃
—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	〃 600 〃
—	—	—	—	16.577	—	—	—	—	—	〃 3.000 〃
—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	〃 〃 〃
—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	〃 1.000 〃
—	—	—	—	1.293	—	—	—	—	—	〃 〃 〃
—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	〃 2.000 〃
—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	〃 3.000 〃
—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	〃 2.000 〃
—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	〃 1.000 〃
1,285	1.030	924	—	—	—	—	—	—	—	〃 600 〃以上〃
—	153	369	—	—	—	—	—	—	—	〃 150 〃
13.180	1.399	131.359	36.477	6.682						

第三號表　鐵道主要貨物市支廳別發着數量　其ノ二到着　大正十一年

品名＼着所管	函館市	渡支	鳥廳	小樽市	後支	志廳	札幌市	石支	狩廳	空支	知廳	室蘭市	膽支	振廳
	噸		噸	噸		噸	噸	噸		噸		噸		噸
石炭	100.600		66.716	1.180.416		—	63.277	60.488		—		1.841.052		93.124
木材類	70.213		—	195.093		—	51.111	70.020		—		50.526		123.304
米	8.111		—	16.021		—	29.691	—		—		—		5.341
麥類	—		—	779		—	17.698	—		—		—		—
燕麥	—		—	26.300		—	20.855	—		—		4.684		—
大豆	3.552		—	32.308		—	—	—		—		—		—
豆類	4.053		—	117.242		—	—	—		—		—		—
雜穀	5.747		—	8.081		—	—	—		—		1.010		—
生野菜	5.766		—	20.060		—	2.314	—		—		—		—
果物類	5.804		—	4.815		—	3.671	—		567		—		626
亞麻莖	—		—	—		1.302	—	1.429		4.524		—		—
木炭	30.360		—	56.406		—	31.205	—		—		28.121		—
薪	13.079		—	11.573		6.441	20.577	—		—		4.547		—
骸炭	—		—	2.208		—	2.677	—		—		3.000		2.829
生鮮魚	6.588		—	3.437		—	7.103	—		—		8.790		—
鹽干魚	10.040		—	3.262		—	2.135	—		—		—		—
鹽	—		—	—		582	2.518	555		—		—		—
石材	3.662		5.076	9.964		—	3.209	—		5.953		19.265		—
砂利	5.436		—	—		—	—	—		—		8.883		6.211
鐵	—		—	—		16.230	—	—		—		21.575		—
礦物	—		—	—		4.923	—	3.438		—		4.303		14.065
鐵及鋼	—		—	—		—	5.107	2.518		—		2.324		2.297
石油類	—		—	1.029		—	620	1.814		—		432		—
澱粉類	1.682		—	24.222		—	—	—		—		—		—
味噌醬油	1.237		—	—		6.418	2.397	—		—		—		—
砂糖類	—		—	3.551		—	4.956	—		—		1.674		—
清酒	—		—	799		—	1.778	—		—		816		665
麥酒	3.332		—	9.171		—	—	—		—		623		—
パルプ及ボロ紙	—		—	—		—	—	32.702		—		—		—
洋紙	—		—	9.901		100	2.336	—		—		99.571		—
鐵及鋼製品	—		—	1.079		—	5.990	1.147		—		—		—
煉瓦	1.141		1.498	4.395		—	6.275	—		1.304		—		4.077
セメント類	5.640		—	3.231		—	7.054	3.777		34.238		—		—
窯工品	6.113		—	—		—	2.785	2.528		—		—		8.585
肥料	5.337		—	2.537		—	—	—		—		4.232		—
飼料	—		1.935	3.389		—	—	—		—		—		—
馬	1.390		—	758		—	—	—		—		6.483		—
牛	304		—	750		—	415	—		—		—		—
計	239.187		75.225	1.752.777		35.996	297.754	180.416		46.536		2.111.911		261.124

品名＼着所管	旭川市	上支	川廳	河支	西廳	釧路市	釧支	路廳	根支	室廳	網支	走廳	宗支	谷廳	留支	廳	摘要
	噸		噸		噸	噸		噸		噸		噸		噸		噸	年間
石炭	—		—		—	78.886		—		—		—		—		—	50.000噸以上ノ貨物ノミ計上
木材類	50.929		—		—	185.702		—		—		—		—		—	〃
米	7.295		—		6.005	6.437		—		—		5.567		—		—	〃 5.000 〃
麥類	1.530		—		—	—		—		—		—		—		—	〃 500 〃
燕麥	4.859		—		—	—		—		—		—		—		—	〃 3.000 〃
大豆	—		—		—	11.493		—		—		—		—		—	〃 2.000 〃
豆類	7.416		—		—	6.601		—		—		—		—		—	〃 3.000 〃
雜穀	1.845		—		—	1.231		—		—		—		—		—	〃 1.000 〃
生野菜	2.400		—		38.957	—		—		—		—		—		—	〃 2.000 〃
果物類	2.903		—		644	985		—		—		—		—		—	〃 500 〃
亞麻莖	—		3.550		1.444	—		—		—		7.153		—		—	〃 1.300 〃
木炭	21.932		—		—	5.867		—		—		—		—		—	〃 5.000 〃
薪	21.720		3.506		—	3.376		—		3.925		—		—		—	〃 3.000 〃
骸炭	—		—		—	—		—		—		—		—		—	〃 1.000 〃
生鮮魚	6.016		—		—	—		—		—		—		—		—	〃 2.000 〃
鹽干魚	2.508		—		—	—		—		—		—		—		—	〃 1.500 〃
鹽	2.262		—		512	—		—		—		—		—		—	〃 500 〃
石材	4.944		—		—	10.388		—		—		—		—		—	〃 3.000 〃
砂利	—		—		—	8.813		—		—		12.540		—		5.496	〃 5.000 〃
鐵	—		—		—	—		—		—		—		—		—	〃
礦物	—		—		2.759	—		—		—		4.123		—		—	〃 2.000 〃
鐵及鋼	4.884		2.169		—	—		—		—		—		—		—	〃
石油類	452		452		—	—		—		—		487		—		—	〃 400 〃
澱粉類	—		1.830		—	—		—		—		—		—		—	〃 1.000 〃
味噌醬油	1.609		2.743		—	—		—		—		—		—		—	〃
砂糖類	3.174		—		—	—		—		500		930		—		—	〃 500 〃
清酒	1.406		—		—	—		—		—		1.278		—		—	〃 600 〃
麥酒	1.291		—		—	—		—		—		—		—		—	〃
パルプ及ボロ紙	—		—		—	17.512		—		—		—		—		—	〃 3.000 〃
洋紙	—		—		—	—		—		—		—		—		—	〃 1.000 〃
鐵及鋼製品	2.238		—		—	—		—		—		—		—		—	〃
煉瓦	—		—		—	1.066		—		—		—		—		—	〃
セメント類	9.889		—		—	—		—		—		—		—		—	〃 2.000 〃
窯工品	2.287		—		4.034	—		—		—		—		—		—	〃
肥料	7.126		—		4.051	—		—		—		—		—		—	〃
飼料	—		4.297		—	—		—		—		—		—		—	〃 1.000 〃
馬	1.084		—		775	—		620		—		—		—		—	〃 600 頭以上〃
牛	743		—		—	—		—		—		—		—		—	〃 150 〃
計	173.842		18.547		59.181	338.357		620		4.425		32.073		—		5.496	

外國貿易	品名＼國名	北米合衆國	蘭領印度	佛領印度	英領印度	大洋島	露領亞細亞	計
輸入	米及粃	—	—	17.388	16.800	—	—	擔 34.195
	石炭	—	—	—	—	—	106	噸 5.376
	燐礦石	—	—	—	—	51.328	—	擔 51.328
	石油類	446	8	—	—	—	—	千瓦倫 454
	鹽	—	—	—	—	—	—	擔 751.868
	計	—	—	—	—	—	—	噸 401.076

外國貿易	品名＼國名	其他諸國	計
輸出	昆布	1.291	擔 113.015
	鹽魚	3.183	同 276.803
	乾鰕	10	同 17.010
	貝柱	—	同 3.776
	海參	—	同 1.086
	計	—	噸 165.602

外國貿易	品名＼國名	支那	埃及	西班牙	獨逸	關東州
輸入	米及粃	—	—	—	—	7
	石炭	5.270	—	—	—	—
	燐礦石	—	—	—	—	—
	石油類	—	—	—	—	—
	鹽	312.155	255.254	96.534	65.437	22.488
	計	—	—	—	—	—

外國貿易	品名＼國名	支那	關東州			
輸出	昆布	111.724	—			
	鹽魚	209.282	64.338			
	乾鰕	17.000	—			
	貝柱	3.776	—			
	海參	1.086	—			
	計	—	—			

内國貿易	品名＼出港	青森	大阪	東京	伏木	新潟	夷	神戸	横濱	門司	根室	小樽	室蘭	江差	浦河	釧路	瀬棚	網走	樺太	漁獲物	其他	計
		噸	噸	噸	噸	噸	噸	噸	噸	噸	噸	噸	噸	噸	噸	噸	噸	噸	噸	噸	噸	噸
移入	米	56.028	—	—	12.685	9.187	1.729	2.418	1.888	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	4.805	88.740
	豆類	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	882	6.677	891	—	—	—	11.712	20.162
	蔬菜及果實	44.099	—	—	—	2.628	—	—	4.801	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	2.050	53.578
	藁工品	69.820	—	—	30.297	4.468	5.395	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	2.906	112.886
	木材	6.312	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	3.351	—	2,258	—	—	10.052	21.973
	石油類	1.516	972	567	—	1.893	—	—	1.495	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	3.162	9.605
	鐵及鋼	1.823	2.712	1.969	—	—	—	—	2.573	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	725	9.802
	海藻類	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1.870	—	—	—	1.476	—	—	—	2.038	—	12.844	18.228
	鹽	—	—	—	—	—	—	27.137	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	27.137
	鹽干魚	5.447	—	—	—	—	—	—	—	—	1.422	669	604	306	204	—	—	—	7.342	—	29.503	45.437
	生鮮魚	193	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	33.795	6.990	40.978
	穀粉及澱粉	277	—	3.644	—	665	—	—	1.870	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	741	7.197
	砂糖	—	356	3.206	—	—	—	2.394	1.511	448	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	179	8.094
	味噌醬油	10.880	—	2.059	—	734	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1.749	15.422
	煙草	7.533	—	2.891	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	32	10.456
	和洋酒	1.647	3.924	1.172	—	1.407	—	3.983	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	744	12.877
	海產肥料	—	—	—	—	—	—	—	—	—	3.167	1.285	—	—	—	—	—	—	30.463	—	10.188	45.103
	綿糸	1.014	251	606	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	172	2.043
	滿	1.072	1.158	—	535	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	294	3.059
	綿及絹織物	7.217	1.251	434	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	849	9.751
	毛織物	1.730	146	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	46	1.922
	麻及其製品	6.182	—	1.567	—	—	—	—	548	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	658	8.955
	陶磁器	5.623	—	—	1.870	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	603	8.096
	硝子及其製品	5.986	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1.024	7.010
	和洋紙	4.065	929	426	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	924	6.344
	蘭製品	3.301	—	—	855	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	266	4.422
	鐵及鋼製品	11.027	2.742	1.954	—	—	—	—	992	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	870	17.585
	漆器	1.850	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	145	1.995
	機械類	1.205	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	176	1.381
	藥品	1.151	—	760	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	4.298	6.209
	獸皮革類	411	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	65	476
	計	257.409	14.441	21.255	46.242	20.982	7.124	35.932	15.678	448	6.459	1.894	604	306	2.562	10.028	891	2.258	39.843	33.795	108.772	626.923
	其他	24.291	1.050	2.650	157	—	—	—	341	—	637	—	—	—	—	7.202	—	1.296	483	—	179.378	217.485
	總計	281.700	15.491	23.905	46.399	20.982	7.124	35.932	16.019	448	7.096	1.894	604	306	2.562	17.230	891	3.554	40.326	33.795	288.150	844.408

內國貿易	品名＼仕向港	青森	神戸	伏木	横濱	大阪	臺灣	東京	門司	四日市	敦賀	直江津
		噸	噸	噸	噸	噸	噸	噸	噸	噸	噸	噸
移	米	615	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	雜穀	40.424	—	—	3.462	1.945	—	9.126	—	2.021	—	—
	蔬菜及果實	15.759	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	藁工品	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	木材	27.575	—	—	—	2.015	—	4.609	—	—	—	—
	木炭	119.616	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	石炭	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	石油類	—	3.420	—	—	—	—	970	—	—	—	—
	鐵及鋼	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	海藻類	1.275	3.622	1.019	—	5.654	—	595	2.754	—	1.519	—
	鹽	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	鹽干類	72.451	7.329	8.676	4.882	2.293	16.320	4.969	2.980	662	3.128	3.330
	生鮮類	9.938	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	澱粉及麩粉	1.836	—	—	—	—	685	—	—	—	—	—
	砂糖	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	味噌醬油	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	煙草	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	和洋酒	675	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
出	海產肥料	18.350	6.293	8.947	4.368	4.401	—	3.745	1.111	12.433	847	1.097
	飼料	29.968	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	綿及絹織物	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	麻及其製品	8.601	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	セメント	11.750	—	12.736	—	2.810	—	19.000	—	—	—	3.033
	製紙原料	2.256	697	—	2.260	2.027	—	—	—	—	—	—
	和洋紙	883	—	—	176	—	—	—	—	—	—	—
	紙及紙製品	389	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	藥品	1.819	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	馬	2.529	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	計	366.739	21.361	31.378	15.148	21.145	17.005	34.014	6.845	15.116	5.494	7.460
	其他	36.697	—	—	4.264	—	—	876				
	總計	403.436	21.361	31.378	19.412	21.145	17.005	34.890	6.845	15.116	5.494	7.460

新潟	船川	酒田	鹽釜	釧路	室蘭	根室	浦河	瀬棚	江差	樺太	其他	計
噸	噸	噸	噸	噸	噸	噸	噸	噸	噸	噸	噸	噸
—	—	—	—	—	—	—	940	—	—	1.422	13.570	16.547
—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	8.383	65.361
—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	2.310	9.795	27.864
—	—	—	—	—	1.646	—	1.675	—	—	8.453	15.934	27.708
—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	9.313	43.512
—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	682	120.328
—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	51.571	51.571
—	—	—	—	—	408	—	—	—	—	—	4.501	9.299
—	—	—	—	—	232	584	—	—	—	471	2.570	3.857
—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	2.292	18.730
—	—	—	—	4.315	—	2.208	—	—	—	5.564	5.511	17.593
993	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	7.768	135.781
—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	471	10.409
684	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1.432	4.637
—	—	—	—	230	643	—	—	—	255	—	2.006	3.134
—	—	—	—	—	370	—	—	—	—	553	2.664	3.587
—	—	—	—	588	507	—	—	—	150	601	605	2.451
—	—	—	—	697	690	328	409	284	—	—	4.319	7.402
—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	3.256	64.848
—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	405	30.373
—	—	—	—	—	84	—	255	124	114	201	1.504	2.282
—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	188	929	9.718
16.753	29.213	6.785	5.800	7.714	4.386	2.523	—	—	—	5.030	59.090	177.623
—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	227	7.467
—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1.873	2.932
—	—	—	—	—	479	—	304	—	—	1.354	1.955	4.481
—	—	—	—	—	171	—	—	—	—	1.233	1.891	5.114
—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1.681	4.213
18.430	29.213	6.785	5.800	13.544	9.616	5.643	3.583	408	519	27.350	216.201	873.827
443				245	597					3.481	89.622	136.225
18.873	29.213	6.785	5.800	13.789	10.213	5.643	3.583	408	519	30,861	305.823	1.015.052

外國貿易	品名＼國名	北米合衆國	蘭領印度	クリスマス島	露領亞細亞	支那	關東州	佛領印度	計
輸入	米及粃	—	—	—	251	—	—	8.184	噸 8.435
	木材	1.889	—	—	10.012	—	—	—	立方米 11.901
	燐鑛石	—	—	103.535	—	17.612	—	—	噸 121.147
	礦油	588	33	—	—	—	—	—	千瓦倫 621
	鹽	—	—	—	—	15.876	7.495	—	噸 23.371
	豆粕	—	—	—	—	27.500	7.075	—	噸 34.575
	計	—	—	—	—	—	—	—	噸 26.591

外國貿易	品名＼國名	支那	關東州	英吉利	露領印度			其他諸國	計
輸出	米	—	—	—	4.792			—	噸 4.792
	銀杏草	—	3.252	—	—			—	同 3.252
	乾鰕	34.572	—	—	—			595	同 35.167
	鹽鱒	104.394	16.049	—	—			—	同 120.443
	昆布	151.653	4.499	—	—			—	同 156.152
	貝柱	4.565	—	—	—			40	同 4.605
	海參	904	—	—	—			—	同 904
	鹽鱈	9.148	—	—	—			—	同 9.148
	乾鱈	4.258	—	—	—			261	同 4.519
	鰊鯖	328	—	—	—			—	同 328
	罐詰食料	—	—	17	—			—	千打 17
	計	—	—	—	—			—	噸 37.678

內國貿易	品目 ＼ 仕出港	門司	大阪	神戸	横濱	東京	臺灣	青森	伏木	新潟	船川	夷	朝鮮
		噸	噸	噸	噸	噸	噸	噸	噸	噸	噸	噸	噸
移入	米	—	—	6.869	1.915	465	—	65.119	15.083	7.504	—	1.180	627
	雜穀	—	—	2.710	363	—	—	2.135	—	90	—	—	—
	蔬菜及果實	—	952	—	2.861	—	—	41.446	410	2.821	—	—	—
	藥工品	—	—	—	—	578	—	74.369	32.625	5.226	—	5.161	—
	木材	—	—	—	—	—	—	12.607	—	—	—	—	—
	石油類	—	—	—	400	463	—	1.467	—	1.458	1.068	—	—
	鐵及鋼	—	4.616	759	2.258	2.052	—	1.105	—	—	—	—	—
	海藻類	—	—	—	—	—	—	78	—	—	—	—	—
	鹽	—	—	8.864	636	—	3.033	—	—	—	—	—	—
	鹽乾魚	25	—	—	—	37	—	6.985	133	—	—	—	—
	生鮮魚	—	—	—	—	—	—	257	—	—	—	—	—
	澱粉及麩類	2.119	2.098	1.393	1.243	1.032	172	227	—	979	—	—	—
	味噌醬油	—	844	—	—	1.010	—	6.963	—	764	—	398	—
	漬物類及乾物類	—	1.380	250	1.018	429	—	8.774	—	—	—	—	—
	茶及煙草	—	133	—	—	2.881	—	8.756	60	—	—	—	—
	清酒	—	4.550	3.427	207	1.248	—	1.963	114	1.537	—	—	—
	海產肥料	—	—	—	—	—	—	267	—	—	—	—	—
	棉	—	1.091	335	107	—	—	1.038	892	—	—	—	—
	綿糸	—	312	—	—	565	—	1.006	59	—	—	—	—
	綿及絹織物	—	2.672	52	57	275	—	10.713	287	46	—	—	—
	麻及製品	—	673	231	626	1.600	275	4.291	143	—	—	—	—
	陶磁器	—	—	—	—	—	—	5.279	1.482	—	—	—	—
	紙子及製品	—	537	—	—	305	—	8.715	—	—	—	—	—
	和洋紙	—	1.131	—	133	402	—	2.654	—	181	—	—	—
	藺製品	—	—	157	—	—	—	3.672	989	156	—	—	—
	鐵及鋼製品	—	3.524	168	1.120	1.965	—	7.788	273	—	—	—	—
	漆器	—	—	—	—	—	—	1.991	59	65	—	—	—
	機械類	—	141	—	117	146	—	3.433	—	—	—	—	—
	油脂蠟類	—	876	117	—	155	—	315	—	—	—	—	—
	染料及塗料	—	283	114	236	315	—	1.219	—	—	176	—	—
	藥品類	—	511	211	254	1.005	—	4.368	577	—	—	—	—
	皮革類	—	—	—	—	—	—	495	—	—	—	—	—
	計	2.144	26.324	25.657	13.551	16.928	3.480	289.495	51.186	20.821	1.244	6.739	627
	其他	6.091	1.962	246	1.030	3.716	—	32.514	516	2.311	—	995	—
	總計	8.235	28.286	25.903	14.581	20.644	3.480	322.009	51.702	23.132	1.244	7.734	627

境	敦賀	名古屋	室蘭	岩内	浦河	根室	釧路	網走	江差	小樽	瀨棚	春都	樺太	漁獲物	其他	計
噸	噸	噸	噸	噸	噸	噸	噸	噸	噸	噸	噸	噸	噸	噸	噸	噸
450	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	2.623	101.835
—	—	—	—	—	621	—	1.142	214	350	—	651	—	—	—	7.899	16.175
—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	566	49.056
—	708	—	—	—	—	—	—	—	—	364	—	—	—	—	1.714	120.739
—	—	—	—	—	4.050	—	3.467	4.964	614	—	—	—	3.007	—	7.447	36.186
—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	583	5.439
—	—	321	534	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	248	11.893
—	—	—	171	—	3.028	2.967	1.397	—	—	—	—	—	1.212	—	27.798	36.651
—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	907	—	—	—	—	44.985	58.425
—	—	—	1.534	408	782	1.912	55	—	1.871	—	515	99	10.514	—	131.137	156.034
—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	45.688	3.634	49.579
—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	316	9.579
—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	435	10.414
—	—	255	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	561	12.667
—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	420	12.250
—	—	229	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	403	13.678
—	—	—	892	—	879	4.851	626	319	185	—	—	—	16.088	—	16.968	41.075
—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	151	3.614
—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	34	1.976
—	—	33	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	286	14.421
—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	339	8.178
—	—	150	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	480	7.391
—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	494	10.051
—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	877	—	340	5.718
—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	55	5.029
—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	380	—	—	—	—	470	15.688
—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	18	2.133
—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	317	4.154
—	—	—	184	—	231	183	—	—	—	—	—	—	1.035	—	3.134	6.290
—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	78	2.421
—	—	—	28	620	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	547	8.121
—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	10	—	80	585
450	708	988	3.343	1.028	9.621	9.913	6.687	5.497	3.020	1.651	1.166	99	32.330	45.688	254.560	837.445
—	—	—	—	—	—	1.274	1.598	378	—	344	—	—	803	—	193.513	247.294
450	708	988	3.343	1.028	9.621	11.187	8.285	5.875	3.020	1.995	1.166	99	33.636	45.688	448.073	1.084.739

內國貿易	品名＼仕向港	青森	伏木	東京	神戸	直江津	門司	横濱	大阪	新潟	下關	敦賀	名古屋	臺灣
		噸	噸	噸	噸	噸	噸	噸	噸	噸	噸	噸	噸	噸
移出	米	297	—	—	—	—	—	210	—	—	—	—	—	—
	雜穀	23.792	·536	3.503	485	—	—	1.129	723	496	—	—	1.112	884
	蔬菜及果實	10.616	—	—	751	—	—	722	774	—	—	—	—	—
	藥工品	1.020	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	木材	15.284	—	15.190	451	—	—	1.051	1.807	—	—	—	1.702	—
	木炭	154.387	—	—	—	—	—	1.070	—	—	—	—	—	—
	石油類	500	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	鐵及鋼	959	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	海藻類	8.964	1.157	484	6.219	273	2.137	399	6.472	239	1.514	1.199	151	—
	鹽	314	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	鹽干魚	92.920	14.162	5.654	8.949	3.842	4.053	2.634	2.850	2.306	2.440	2.663	1.187	11.521
	生鮮魚	7.381	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	魚粉及砂糖	3.178	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	423
	醬油	293	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	清酒及乾物類	1.439	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	煙草	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	和洋酒	2.159	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	海產肥料	29.014	10.125	1·441	5.934	787	—	1.369	2.220	—	550	618	5.044	—
	飼料	27.774	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	棉	408	120	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	綿糸	26	16	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	絹及絹織物	345	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	麻及其製品	5.569	—	39	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	セメント	14.901	31.176	5.356	—	3.407	—	6.020	—	22.637	—	—	—	—
	和洋紙	823	—	397	—	—	—	—	106	—	—	—	742	—
	紙及紙製品	1.209	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	機械類	707	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	油脂蠟類	—	—	686	7.526	—	—	541	702	—	—	—	—	—
	藥品類	2.675	—	—	—	—	—	—	840	—	—	—	—	—
	獸皮革類	262	—	—	19	—	—	21	—	—	—	—	—	—
	馬	2.074	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	石炭	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	計	409.290	57.292	32.750	30.334	8.309	6.240	15.166	16.494	25.728	4.504	4.480	9.938	12.828
	其他	36.028	332	1.941	2.584	—	—	4.404	131	486	198	—	812	—
	總計	445.318	57.624	34.691	32.918	8.309	6.240	19.570	16.625	26.214	4.702	4.480	10.750	12.828

內國貿易	品名＼仕向港	四日市	船川	酒田	鹽釜	釧路	室蘭	浦河	瀬棚	根室	江差	小樽	壽都	樺太	其他	計
		噸	噸	噸	噸	噸	噸	噸	噸	噸	噸	噸	噸	噸	噸	噸
移出	米	—	—	—	—	423	562	1.040	1.246	290	345	—	—	1.240	17.038	22.691
	雜穀	—	—	—	—	115	188	—	171	—	—	—	—	—	2.556	35.690
	蔬菜及果實	—	—	—	—	370	—	—	—	—	—	—	—	1.059	5.789	20.081
	藥工品	—	—	—	—	1.019	2.058	1.233	—	378	451	—	—	11.871	32.748	50.828
	木材	—	—	—	—	—	—	—	—	—	277	—	—	—	29.526	65.288
	木炭	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1.762	157.219
	石油類	—	—	—	—	193	658	158	—	368	83	—	86	484	2.847	5.377
	鐵及鋼	—	—	—	—	184	399	—	—	778	—	874	—	618	2.697	6.509
	海藻類	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	2.630	31.888
	鹽	—	—	—	—	525	903	288	281	2.061	440	—	—	1.258	63.727	69.797
	鹽干魚	214	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	3.812	159.207
	生鮮魚	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	·726	8.107
	魚粉及砂糖	—	—	—	85	317	554	137	91	—	221	—	—	116	2.071	7.193
	醬油	—	—	—	—	177	160	—	—	126	—	—	—	343	965	2.064
	清酒及乾物類	—	—	—	—	—	—	—	—	426	121	—	—	279	2.361	4.626
	煙草	—	—	—	—	681	400	95	—	—	119	—	—	632	745	2.672
	和洋酒	—	—	—	—	576	749	457	316	316	259	—	—	557	5.255	10.644
	海產肥料	6.075	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	574	63.751
	飼料	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	460	28.234
	棉	—	—	—	—	—	—	—	—	—	105	—	—	178	973	1.784
	綿糸	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	36	251	329
	絹及絹織物	—	—	—	—	—	39	208	78	—	151	—	—	140	251	1.212
	麻及其製品	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	147	1.668	7.423
	セメント	—	14.337	8.679	—	4.474	3.390	1.108	—	—	—	—	—	4.943	5.127	125.605
	和洋紙	—	—	—	—	—	165	—	—	—	—	—	—	173	1.018	3.424
	紙及紙製品	—	—	—	—	237	352	217	—	254	164	—	—	880	4.815	8.128
	機械類	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	17	—	79	1.098	1.901
	油脂蠟類	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	81	9.536
	藥品類	—	—	—	—	341	88	—	—	109	—	—	—	1.232	1.005	6.290
	獸皮革類	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	31	333
	馬	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	2.002	4.076
	石炭	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	30.725	30.725
	計	6.289	14.337	8.679	85	9.632	10.665	4.991	2.183	5.106	2.736	891	86	26.265	227.334	952.632
	其他	75	—	—	—	534	1.248	109	—	—	160	—	—	3.156	117.151	169.349
	總計	6.364	14.337	8.679	85	10.166	11.913	5.100	2.183	5.106	2.896	891	86	29.421	344.485	1.121.981

第五號表　函館驛方面及扱別着發貨物數量

種別 ＼ 年別			大正 1	〃 2	〃 3	〃 4	〃 5	〃 6	〃 7	〃 8	〃 9	〃 10	〃 11	〃 12	〃 13
發送	札幌方面	貨切扱	噸 16.388	噸 16.554	噸 18.712	噸 15.805	噸 17.671	噸 25.791	噸 36.696	噸 35.333	噸 32.870	噸 33.959	噸 35.449	噸 46.961	噸 33.769
		小口扱	13.288	12.047	14.137	16.193	19.246	18.572	20.950	28.503	28.871	27.061	29.622	29.638	62.620
		計	29.676	28.601	32.849	31.998	36.917	44.363	57.646	63.836	61.741	61.020	65.071	76.599	62.389
		%	33	32	37	33	26	31	45	41	37	43	47	49	44
	本土方面	貨切扱	27.500	25.589	23.316	29.331	62.558	67.608	73.193	78.047	87.704	61.171	54.934	63.713	68.391
		小口扱	34.501	35.809	33.282	34.995	40.260	28.757	22.876	14.807	17.355	19.388	17.863	15.182	12.521
		計	62.001	61.398	56.598	64.326	102.818	96.365	960.069	92.854	105.059	80.559	72.797	78.895	80.912
		%	67	68	63	67	74	69	55	59	63	57	53	51	56
	小計		91.677	89.999	89.447	96.324	139.735	140.728	153.715	156.690	166.800	141.579	137.868	155.494	143.301
到着	札幌方面	貨切扱	87.604	113.871	108.423	129.476	173.023	226.893	201.892	211.924	272.419	276.806	296.707	417.715	3 6.523
		小口扱	10.533	9.904	10.064	10.347	13.943	15.767	14.789	15.858	16.193	16.146	16.473	15.544	16.581
		計	98.137	123.775	118.487	139.823	186.966	242.660	216.681	227.782	288.612	292.952	313.180	433.259	413.104
		%	71	72	74	72	72	81	83	84	86	89	90	92	92
	本土方面	貨切扱	7.787	10.654	9.433	16.049	25.449	25.780	26.114	28.641	31.318	23.297	23.064	27.641	26.694
		小口扱	34.501	35.378	33.278	40.048	45.629	32.155	17.623	15.476	14.543	13.262	12.863	10.802	11.511
		計	42.288	46.392	42.711	56.097	71.078	57.935	43.737	44.117	45.861	36.559	35.927	38.443	38.205
		%	29	28	26	28	28	19	17	16	14	11	10	8	8
	小計		140.425	170.167	161.198	195.920	258.044	300.595	260.418	271.899	334.473	329.511	349.107	471.702	451.309
合計	札幌方面		127.813	152.376	151.336	171.821	223.883	287.023	274.327	291.618	350.353	352.972	378.251	509.858	475.493
		%	55	58	61	59	56	65	65	68	70	75	78	89	88
	本土方面		104.289	107.790	99.309	120.423	173.896	154.300	139.806	136.971	150.920	117.118	108.724	117.338	119.117
		%	45	42	39	41	44	35	35	32	30	25	22	11	12
總計			232.102	260.166	250.645	292.244	397.779	441.323	414.133	428.589	501.273	471.090	486.975	627.196	594.610

第六號表　函館港海陸兩運貨物出入對照　其一

品種名別	輸入 計	輸入 換噸	移入 計	移入 内青森貨物	輸移入計	鐵道便 到着	海陸兩運計	鐵道便 發送
	噸	噸	噸	噸	噸	噸	噸	噸
米	瓩 34.195	2.279	88.740	56.028	91.019	8.477	99.496	8.353
雜穀	—	—	20.162	—	20.162	13.011	33.173	6.905
蔬菜及果實	—	—	53.578	44.099	53.578	12.946	66.524	3.320
藁工品	—	—	112.886	69.820	112.886	6.842	119.728	3.721
木材	—	—	21.973	6.312	21.973	68.255	90.228	6.110
薪炭	—	—	—	—	—	41.959	41.959	1.139
石炭	噸 5.376	5.376	—	—	5.376	100.736	106.112	643
鑛礦石	瓩 51.328	3.421	—	—	3.421	470	3.891	38
石油類	千瓦時 454	—	9.602	1.516	9.602	719	10.321	437
鐵及鋼	—	—	9.802	1.823	9.802	695	10.497	472
海藻類	—	—	18.228	—	18.228	506	18.734	1.270
鹽	瓩 751.864	50.124	27.137	—	77.261	—	77.261	1.595
鹽干魚	—	—	43.786	5.447	43.786	7.785	51.571	42.431
活及鮮魚	—	—	40.978	193	40.978	7.395	48.373	1.080
穀粉及澱粉	—	—	—	—	—	1.862	1.862	935
砂糖	—	—	8.094	—	8.094	456	8.550	634
味噌醬油	—	—	15.422	10.880	15.422	1.612	17.034	416
煙草	—	—	10.456	7.533	10.456	796	11.252	140
和洋酒	—	—	12.877	1.647	12.877	3.924	16.801	626
肥粁	—	—	45.103	—	45.103	4.870	49.973	14.433
綿糸	—	—	2.043	1.014	2.043	124	2.167	138
絹及綿織物	—	—	9.751	7.217	9.751	873	10.624	122
麻及其製品	—	—	5.827	5.076	5.827	156	5.983	90
セメント	—	—	—	—	—	7.048	7.048	2.749
煉瓦	—	—	—	—	—	1.289	1.289	1.333
陶磁器	—	—	8.096	5.623	8.096	108	8.204	1.153
硝子及其製品	—	—	7.010	5.986	7.010	635	7.645	1.266
製紙原料	—	—	—	—	—	173	173	595
和洋紙	—	—	6.344	4.065	6.344	729	7.073	260
疊表類	—	—	4.422	3.301	4.422	263	4.684	129
鉛及鋼製品	—	—	17.585	11.027	17.585	449	18.034	816
藥品類	—	—	6.209	1.151	6.209	380	6.589	6
馬	—	—	—	—	—	1.388	1.388	563
其他	—	—	238.297	31.942	—	47.173	—	33.710
總計	—	401.076	844.408	281.700	1.245.484	344.104	1.589.588	137.619

輸出 計	輸出 換・噸	移出 計	移出 内青森貨物	輸移出計	海陸兩運計	差引	備考
	噸	噸	噸	噸	噸	噸	
—	—	16.547	615	165.547	24.900	—	一、本統計中内國貿易ノ噸數換算ハ大體左ノ方法ニ依ル
—	—	65.361	40.424	65.361	72.266	△ 39.093	(イ)、容積一噸ニ依ルモノ……箱物、樽物等(重量物ヲ除ク)主トシテ才量ニ依ルモノ四十才(一才ハ一立方尺)ヲ
—	—	27.864	15.759	27.864	31.184	35.340	(ロ)、以重量一噸ニ依ルモノ……鐵、豆糟、砂糖其他主トシテ斤貫ニ依ルモノハ千五百斤(二百四十貫)ヲ以テ一噸ト
—	—	27.708	—	27.708	31.429	88.299	(ハ)、但シ容積一噸ニテ換算スルモノアリ尙ホ穀物ハ六石ヲ一噸トシ石
—	—	43.512	27.575	43.512	49.622	40.606	鐵道ハ炭ス重量千六百斤貫ヲ主トスルモノ……鐵、豆糟、砂糖其他主トシテ斤貫ニ依ルモノハ千五百斤(二百四十貫)ヲ以テ一噸ト
—	—	120.328	119.646	120.328	121.458	△ 79.499	貨物ハ重量十八貫(二百七十貫)ヲ以テ一噸トス種類ニ依リ容積一噸ニテ換算スルモノアリ尙ホ穀物ハ六石ヲ一噸トシ石
—	—	51.571	—	51.571	52.214	—	小樽、室蘭、釧路各港トモ同斷
—	—	—	—	—	38	—	
—	—	9.299	—	9.299	9.736	—	
—	—	3.857	—	3.857	4.329	6.168	
瓩 113.015	7.534	18.730	1.275	26.264	27.534	—	
—	—	17.598	—	17.598	19.193	—	
瓩 298.675	19.911	135.781	72.451	155.692	198.123	—	
—	—	10.409	9.938	10.409	11.489	36.884	
—	—	4.637	1.836	4.637	5.572	△ 3.710	
—	—	3.134	—	3.134	3.768	4.782	
—	—	3.587	—	3.587	4.003	13.031	
—	—	2.451	—	2.451	2.591	8.661	
—	—	7.402	765	7.402	8.028	8.773	
—	—	64.848	18.350	64.848	79.281	△ 29.308	
—	—	—	—	—	138	2.029	
—	—	2.282	—	2.282	2.404	8.220	
—	—	9.718	8.601	9.718	9.808	△ 3.825	
—	—	177.623	11.750	177.623	180.372	△ 173.324	
—	—	—	—	—	1.333	△ 44	
—	—	—	—	—	1.153	7.051	
—	—	—	—	—	1.266	6.379	
—	—	7.467	2.956	7.467	8.062	△ 7.889	
—	—	2.932	883	2.932	3.192	3.881	
—	—	—	—	—	129	4.556	
—	—	4.481	389	4.481	5.297	12.737	
—	—	5.114	1.819	5.114	5.120	1.469	
—	—	4.213	2.529	4.213	4.776	△ 3.388	
—	—	16.598	66.665	—	—	—	
—	165.602	1.015.052	403.436	1.180.654	1.318.273	271.315	

品名＼種別	輸入 計	輸入 換噸	移入 計	移入 内青森貨物	輸移入計	鐵道便 到着	海陸 兩運計	鐵道便 發送
米	瓩 8.435	噸 562	噸 101.835	噸 65.119	噸 102.397	噸 10.729	噸 113.126	噸 11.379
雜穀	—	—	16.175	2.135	16.175	11.109	27.284	5.622
蔬菜及果實	—	—	49.056	41.446	49.056	11.107	60.163	2.966
藁工品	—	—	120.739	74.369	120.739	6.080	126.819	4.440
木材	立方米 11.901	—	36.186	12.607	36.186	72.712	108.898	7.704
薪炭	—	—	—	—	—	47.518	47.518	712
石炭	—	—	—	—	—	121.676	121.676	2.083
鑛礦石	瓩 121.147	8.076	—	—	8.076	667	8.743	2.226
石油類	千瓦鈴 621	—	5.439	1.467	5.439	612	6.051	1.727
鐵及鋼	—	—	11.893	1.105	11.893	1.099	12.992	992
海藻類	—	—	36.651	78	36.651	586	37.237	1.178
鹽	瓩 23.371	1.558	58.425	—	59.983	—	59.983	1.449
鹽干魚	—	—	156.034	6.985	156.034	13.360	169.394	37.262
活及鮮魚	—	—	49.579	257	49.579	7.362	56.941	1.978
穀粉及澱粉	—	—	1.229	227	1.229	2.566	3.795	899
砂糖	—	—	8.356	—	8.356	946	9.302	1.013
味噌醬油	—	—	10.414	6.963	10.414	2.060	12.474	385
煙草	—	—	11.177	7.842	11.177	1.013	12.190	144
和洋酒	—	—	13.678	1.963	13.678	5,267	18.945	599
肥料	瓩 34.575	2.305	41.075	267	43.380	11.137	54.517	22.302
飼料	—	—	—	—	—	103	103	347
綿及絹織物	—	—	14.421	10.713	14.421	529	14.950	95
麻及其製品	—	—	8.178	4.291	8.178	130	8.308	119
セメント	—	—	—	—	—	18.970	18.970	55
煉瓦	—	—	—	—	—	1.672	1.672	584
陶磁器	—	—	7.391	5.279	7.391	63	7.454	991
硝子及其製品	—	—	10.051	8.715	10.051	613	10.664	1.248
製紙原料	—	—	—	—	—	—	—	50
和洋紙	—	—	5.718	2.654	5.718	810	6.528	303
疊表類	—	—	5.029	3.672	5.029	100	5.129	125
鐵及鋼製品	—	—	15.688	7.788	15.688	1.085	16.773	1.779
藥品類	—	—	8.121	4.368	8.121	89	8.210	2
馬	—	—	—	—	—	940	940	602
其他	—	—	282.201	51.699	—	36.370	—	18.484
總計	—	26.591	1.084.739	322.009	1.111.330	389.080	1.500.410	131.844

輸出 計	輸出 換噸	移出 計	移出 内青森貨物	輸移出計	海陸 兩運計	差引	備考
瓩 4.792	噸 319	噸 22.691	噸 297	噸 23.010	噸 34.389	噸 78.737	
—	—	35.690	23.792	35.690	41.312	△ 14.028	
—	—	20.081	10.616	20.081	23.047	37.116	
—	—	50.828	1.020	50.828	55.268	71.551	
—	—	65.288	15.284	65.288	72.992	—	
—	—	157.219	154.387	157.219	157.931	△110.413	
—	—	30.725	—	30.725	32.808	88.868	
—	—	—	—	—	2.226	—	
—	—	5.377	500	5.377	7.104	—	
—	—	6.509	959	6.509	7.501	5.491	
—	—	31.888	8.964	31.888	33.066	4.171	
—	—	69.797	314	69.797	71.246	—	
瓩 331.266	22.084	159.207	92.920	181.391	218.553	—	
—	—	8.107	7.381	8.107	10.085	46.856	
—	—	3.248	2.289	3.248	4.147	△ 352	
—	—	3.945	889	3.945	4.958	4.344	
—	—	2.604	293	2.064	2.449	10.025	
—	—	2.672	—	2.672	2.816	9.374	
—	—	10.644	2.159	10.644	11.243	7.702	
—	—	63.751	29.014	63.751	86.053	—	
—	—	28.234	27.714	28.234	28.581	△ 28.478	
—	—	1.212	345	1.212	1.307	13.643	
—	—	7.423	5.569	7.423	7.542	766	
—	—	125.605	14.901	125.605	125·660	△106.690	
—	—	—	—	—	584	1.088	
—	—	—	—	—	991	6.463	
—	—	—	—	—	1.248	9.416	
—	—	—	—	—	50	△ 50	
—	—	3.424	823	3.424	3.727	2.801	
—	—	—	—	—	125	5.004	
—	—	8.128	1.209	8.128	9.907	6.866	
—	—	6.290	2.675	6.290	6.292	1.918	
—	—	4.076	2.074	4.076	4.678	△ 3.738	
—	—	187.858	38.930	—	—	—	
—	37.678	1.121.981	445.318	1.159.659	1.291.503	208.907	

第六號表　五稜郭以遠對本州方面着發貨物數量　其ノ二

種別		年次	大正1	〃2	〃3	〃4	〃5	〃6	〃7	〃8	〃9	〃10	〃11	〃12	〃13
奥地發本土行	貨	切扱	12.672噸	18.701噸	26.037噸	36.663噸	117.982噸	113.473噸	111.749噸	140.859噸	149.442噸	144.770噸	157.462噸	132.276噸	161.460噸
	小	口扱	5.303	5.565	6.347	6.863	12.119	18.482	16.145	17.433	17.436	16.863	17.871	22.609	22.933
		計	17.975	24.266	32.384	43.526	130.101	131.955	127.894	158.292	166.878	161.633	175.333	155.185	184.393
		%	45	50	50	49	63	58	52	53	53	54	58	54	57
本土發奥地行	貨	切扱	9.702	13.479	17.688	27.816	50.439	64.485	83.098	89.856	100.978	95.525	90.157	94.927	94.015
	小	口扱	10.449	10.209	13.908	18.071	26.024	32.963	37.487	49.337	44.920	44.221	44.301	39.309	48.059
		計	20.151	23.688	31.596	45.887	76.463	97.448	120.585	139.193	145.898	139.746	134.458	134.236	142.074
		%	55	50	50	51	37	42	43	47	47	46	42	46	43

上下別	年次＼種別	木材	軸木	經木	雜穀	野菜	燕麥	牧草	亞麻	鹽干魚	肥料	鮮魚	木炭	牛馬	其他	計
奥地發本土行	大正9	18.525噸	8.645噸	4.299噸	27.492噸	—噸	17.653噸	3.767噸	8.037噸	3.302噸	8.686噸	5.190噸	217噸	2.004噸	52.384噸	160.201噸
	〃10	21.264	—	2.391	23.892	—	21.760	3.638	5.624	4.050	9.313	2.352	17.733	2.385	29.240	143.642
	〃11	24.471	260	4.953	23.990	—	16.510	4.002	6.453	4.169	8.115	1.460	43.665	2.107	42.274	182.429
	〃12	18.251	—	—	13.906	6.108	—	11.668	—	8.823	10.232	687	40.002	1.936	43.572	155.185
	〃13	17.724	—	—	20.158	8.988	—	18.424	—	5.933	10.364	786	50.370	1.256	50.390	184.393

上下別	年次＼種別	米穀	蠶工品	生果	木材	干魚	鐵器	野生菜及果	味噌醬油	綿物類	煙草				其他	計
本土發奥地行	大正9	38.673噸	10.428噸	7.315噸	792噸	460噸	6.176噸	—噸	—噸	—噸	—噸				85.904噸	149.748噸
	〃10	45.935	10.408	5.818	748	545	4.080	—	—	—	—				84.740	152.274
	〃11	37.306	8.615	5.126	1.311	1.054	3.317	—	—	—	—				78.029	134.758
	〃12	46.076	7.904	—	—	—	—	10.299	5.338	147	2.556				61.919	134.236
	〃13	33.446	7.220	—	—	—	—	12.231	5.575	—	3.032				80.570	142.074